

**平成 29 年度
横浜市民スポーツ意識調査
報告書**

 **公益財団法人 横浜市体育協会**

はじめに

平成29年度、スポーツ界では様々な記録が樹立されました。9月には日本学生陸上競技対校選手権において、日本陸上界で初めて桐生選手が100メートル10秒の壁を打ち破りました。10月には世界体操競技選手権大会において、村上選手が女子選手の床種目で初めて金メダルを獲得しました。そして、先日開催された、平昌オリンピック・パラリンピックでは、羽生選手が66年ぶりの2大会連続金メダル、カーリング女子チームは初めてのメダル獲得、アルペンスキー村岡選手の3種類5つのメダル獲得など、日本選手団の活躍が皆様の記憶にも新しいことと存じます。これらスポーツ界の明るいニュースが日本を盛り上げたことは疑う余地がありません。

また、東京2020オリンピック・パラリンピックやラグビーワールドカップ2019™の会場となる各施設では、現在、大会に向けたリニューアルが施され、「みる」スポーツの環境整備が進んでいます。これに加え「ささえる」スポーツの環境整備として、横浜市では「横浜市スポーツボランティアセンター」を設立しました。「ささえる」スポーツの広がりを通じて、様々な場面でスポーツ活動を支えてくださるスポーツボランティアの皆様と一緒に、横浜のスポーツをさらに盛り上げていけるものと確信しております。

さて、本調査では今回、「みる」スポーツや「ささえる」スポーツを中心とした調査を行いました。そして、昨年を引き続き、医療費や健康寿命に関する調査を行い、特に働く世代に関する健康への意識について分析しました。この世代に対する注目が高まる中、スポーツをしていない方に、どのようにできる環境を整えるか、できるものを提供できるかが正に今、問われています。スポーツだけを主目的とせず、楽しみながら、健康づくりができるよう様々な機会を提供することが求められています。

この調査結果を、横浜市や市内の各競技種目別団体などの関係団体の方々にもご覧いただき、市民の皆様の声が今後の事業等に反映されるよう協力を要請していくとともに、当協会が運営する施設や事業にも反映させ、横浜市民のよりよいスポーツ環境の創造への貢献を進めて参ります。

結びになりますが、本調査にご協力いただきました多くの市民の皆様には厚くお礼を申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人横浜市体育協会

会長 山口 宏

目次

はじめに.....	2
第 1 章 調査概要.....	3
1-1 目的.....	3
1-2 調査対象者.....	3
1-3 抽出方法.....	3
1-4 調査方法.....	3
1-5 調査実施機関.....	3
1-6 調査期間.....	4
1-7 回収状況.....	4
1-8 集計方法.....	4
1-9 集計上の留意点.....	4
1-10 本報告書の見方.....	4
1-11 標本誤差.....	4
1-12 回答者の属性.....	4
第 2 章 調査結果.....	9
2-1 運動・スポーツへの感じ方の変化.....	9
2-2 運動・スポーツ実施状況への満足度.....	11
2-3 運動不足に関する意識.....	13
2-4 過去 1 年間のスポーツ実施率.....	15
2-5 過去 1 年間のスポーツ実施頻度.....	17
2-6 過去 1 年間に行った運動・スポーツ.....	19
2-7 今後行ってみたい運動・スポーツ.....	21
2-8 過去 1 年間の会場でのスポーツ観戦率.....	23
2-9 過去 1 年間の会場観戦頻度.....	25
2-10 過去 1 年間に会場で観戦したプロスポーツ・トップアスリートの試合.....	27
2-11 会場観戦の理由.....	29
2-12 会場観戦に誰と行ったか.....	32
2-13 今よりも観戦に出かけるようになるきっかけ.....	34
2-14 過去 1 年間の観戦チケット代金.....	37
2-15 今後会場で観戦したいプロスポーツ・トップアスリートの試合.....	39
2-16 お子さんが過去 1 年間に会場で観戦したプロスポーツ・トップアスリートの試合.....	41
2-17 過去 1 年間に行ったスポーツボランティア活動.....	42
2-18 スポーツボランティア活動への参加理由.....	44
2-19 スポーツボランティア活動への参加仲間.....	45
2-20 興味のあるスポーツボランティア活動.....	46
2-21 スポーツに関する情報の入手先.....	48
2-22 知っている施設.....	51
2-23 知っている事業.....	54
2-24 公共スポーツ施設に望むこと.....	57

2-25 現在の健康状態	60
2-26 直近 1 年間の医療費	62
2-27 健康寿命の延伸に向けて取り組みたいこと	64
2-28 自身で持っている健康器具・運動用具・トレーニング機器	67
第 3 章 考察	69
3-1 スポーツ実施種目と頻度との関係	69
3-2 年収によるスポーツ実施率の差	71
3-3 働く世代のスポーツ実施者と非実施者【健康に関する意識と行動・医療費】	73
第 4 章 まとめ	78
4-1 スポーツへの感じ方	78
4-2 「する」スポーツ	78
4-3 「みる」スポーツ	79
4-4 「ささえる」スポーツ	79
4-5 健康に関する意識と行動	80
4-6 考察より	81
付録	82
1: 調査項目と単純集計結果	82
2: 自由回答欄の回答内容	98

第1章 調査概要

1-1 目的

本調査は、横浜市スポーツ推進計画やスポーツ基本計画、スポーツ立国戦略の中で掲げられている、スポーツ・運動の実施率について、横浜市における現状を把握するため、また、市民の皆様のスポーツに対する様々なニーズや行動・意識を調査し、スポーツ教室や大会・イベント・地域スポーツ活動等の各種事業の現状と課題について考察するため、実施したものである。

1-2 調査対象者

横浜市に居住する、満20歳以上の調査機関登録者（モニタ）男女個人1,600人

1-3 抽出方法

住民基本台帳登録者数（平成29年3月末現在）における、性別・年齢・居住区の構成比率を基に、有意抽出方法（割当て法）により抽出した。

居住区	住基台帳登録者数	人口構成比	サンプル数	年齢層	性別	住基台帳登録者数	人口構成比	サンプル数
鶴見	239,597	7.8%	123	20歳代	男性	202,252	6.6%	105
神奈川	198,733	6.4%	103		女性	192,642	6.2%	100
西	84,132	2.7%	44	30歳代	男性	246,774	8.0%	128
中	128,951	4.2%	67		女性	234,607	7.6%	122
南	170,373	5.5%	88	40歳代	男性	324,540	10.5%	168
港南	179,699	5.8%	93		女性	309,856	10.0%	161
保土ヶ谷	172,448	5.6%	89	50歳代	男性	252,502	8.2%	131
旭	206,519	6.7%	107		女性	233,783	7.6%	121
磯子	140,933	4.6%	73	60歳代	男性	229,275	7.4%	119
金沢	167,003	5.4%	87		女性	232,077	7.5%	120
港北	283,565	9.2%	147	70歳以上	男性	269,784	8.7%	139
緑	146,305	4.7%	76		女性	359,372	11.6%	186
青葉	248,602	8.1%	129	男女計	男性	1,525,127	49.4%	790
都筑	163,376	5.3%	85		女性	1,562,337	50.6%	810
戸塚	225,941	7.3%	117	総合計		3,087,464	100.0%	1,600
栄	101,405	3.3%	53	※住民基本台帳登録者数は29年3月末現在				
泉	127,403	4.1%	66					
瀬谷	102,479	3.3%	53					
合計	3,087,464	100.0%	1600					

1-4 調査方法

インターネットによるアンケート調査

1-5 調査実施機関

株式会社クロス・マーケティング

1-6 調査期間

配信日：平成 29 年 10 月 13 日（金）～10 月 18 日（水）

1-7 回収状況

有効回答数：1,600 件

1-8 集計方法

調査結果について、単純集計やクロス集計などの統計的な処理を行い、年代や性別などで分析し、顕著な傾向が見られるものを掲載している。

1-9 集計上の留意点

横浜市全体の人口構成比に基づいてサンプル割付している。今回の調査では、居住地及び年齢層について、割付とおりに回収しているため、ウェイトバックは行っていない。

1-10 本報告書の見方

- (1) 各グラフ、図に示してある「n」は回答者数を示している。
- (2) 複数回答の場合、回答が 2 つ以上あるため、合計比率は 100%を超える場合がある。
- (3) 回答比率は、全て「n」を基準とした百分率で表し、小数点第 2 位を四捨五入している。
このため、合計比率は、100%に満たない、あるいは上回る場合がある。
また、個々の比率を合計した場合と、個々の回答件数を基に四捨五入せず算出した比率が一致しない場合がある。
- (4) 「n」が少ない場合（ $n \leq 30$ ）のデータは参考値である。
- (5) 統計学的検定は、z 検定を用い、有意差 5%で有意差ありとした。（ $p < 0.05$ ）
有意水準 1%での検定も同時に行い、より有意に差があるものは（ $p < 0.01$ ）で表記している。

1-11 標本誤差

無作為抽出を行っていないため、標本誤差は算出できない。

1-12 回答者の属性

(1) 性別

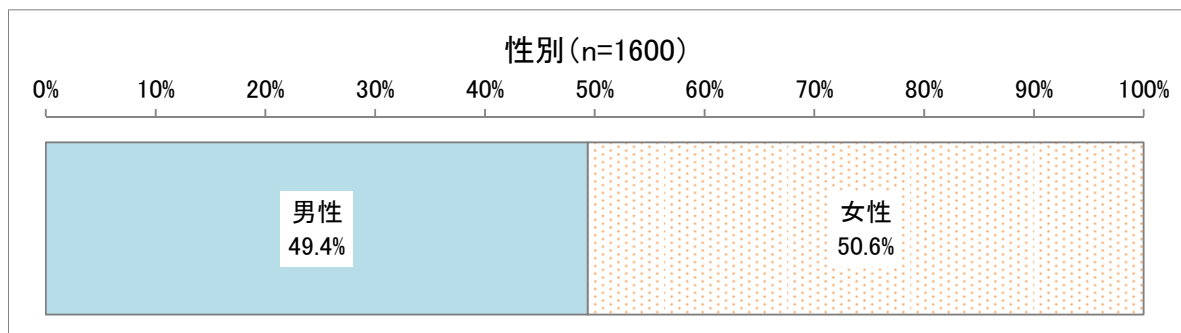


図 1

性別は、「男性」（49.4%）、「女性」（50.6%）となっている。

(2) 年齢層

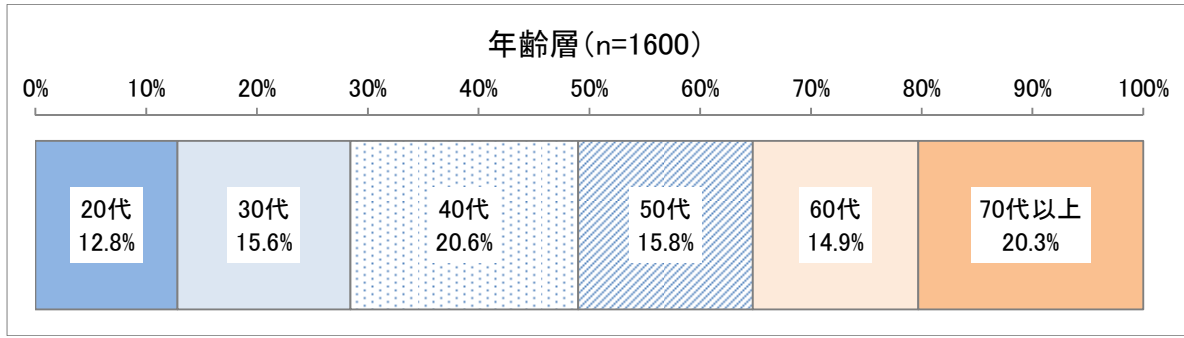


図 2

年齢は、「40代」(20.6%)、「70代以上」(20.3%)、「50代」(15.8%)となっている。

(3) 居住区

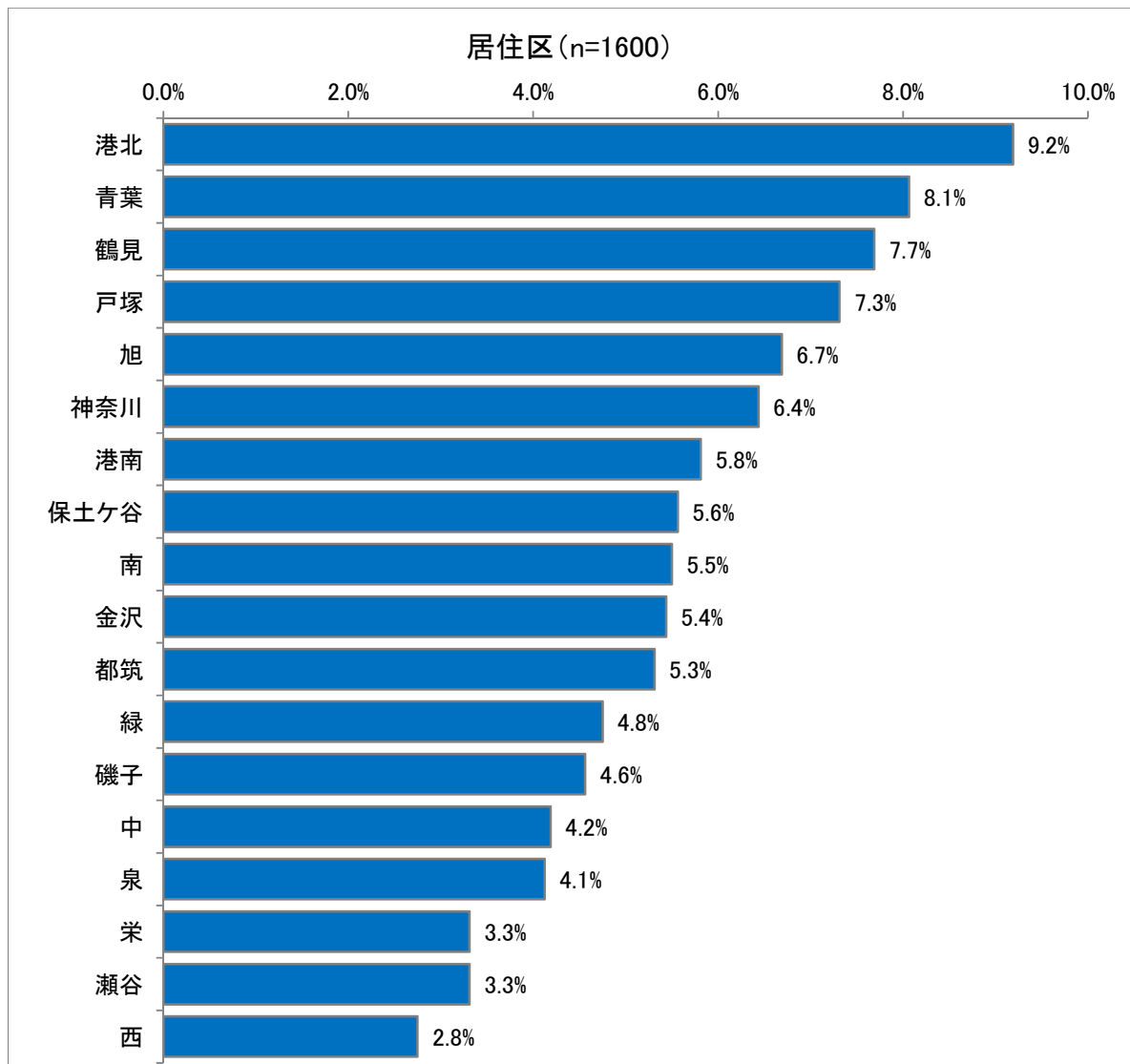


図 3

居住区は、「港北」(9.2%)、「青葉」(8.1%)、「鶴見」(7.7%)、「戸塚」(7.3%)、「旭」(6.7%)となっている。

(4) 市内在住の開始時期

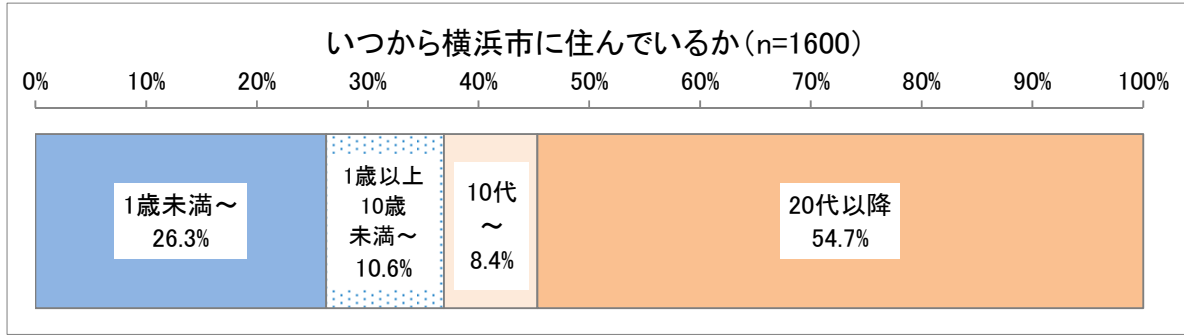


図 4

市内在住の開始時期は、「20代以降」(54.7%)、「1歳未満から」(26.3%)となっている。

(5) 職業

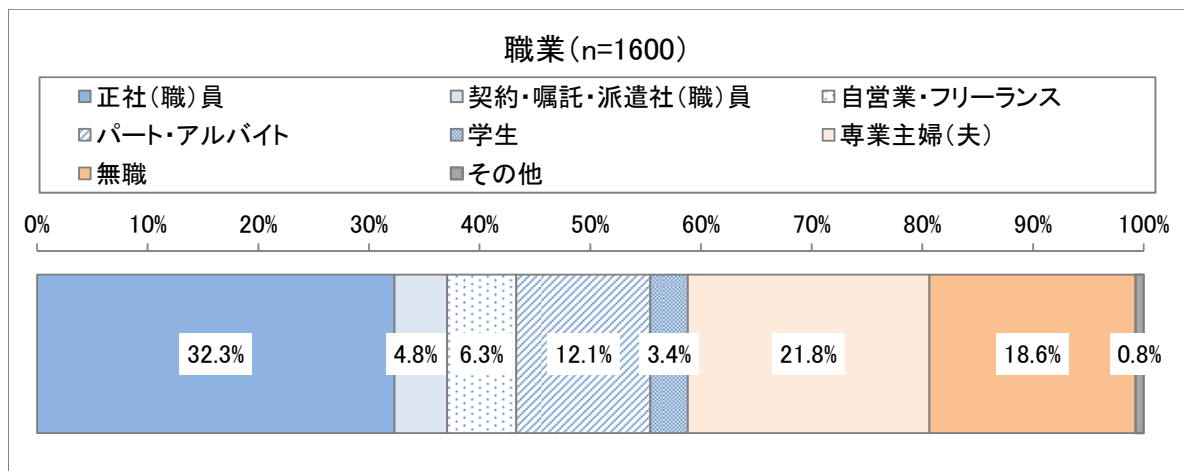


図 5

職業は、「正社(職)員」(32.3%)、「専業主婦(夫)」(21.8%)、「無職」(18.6%)となっている。

(6) 世帯年収

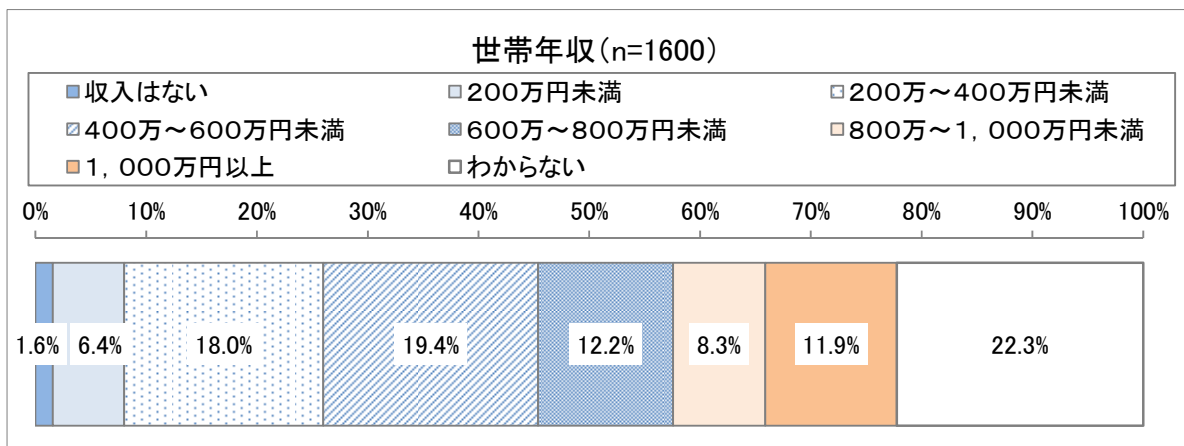


図 6

世帯収入は、「400万~600万円未満」(19.4%)、「200万~400万円未満」(18.0%)、「わからない」(22.3%)となっている。

(7) 既婚・未婚

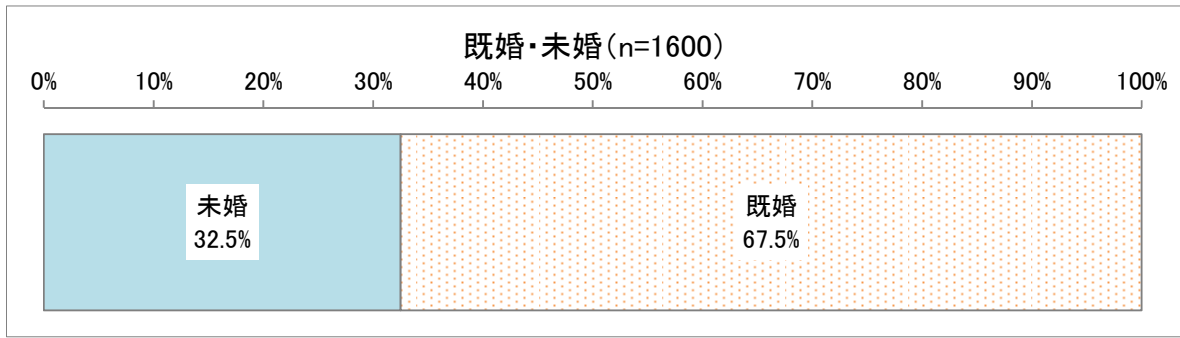


図 7

婚姻状況は、「既婚」(67.5%)、「未婚」(32.5%)となっている。

(8) 子どもの有無

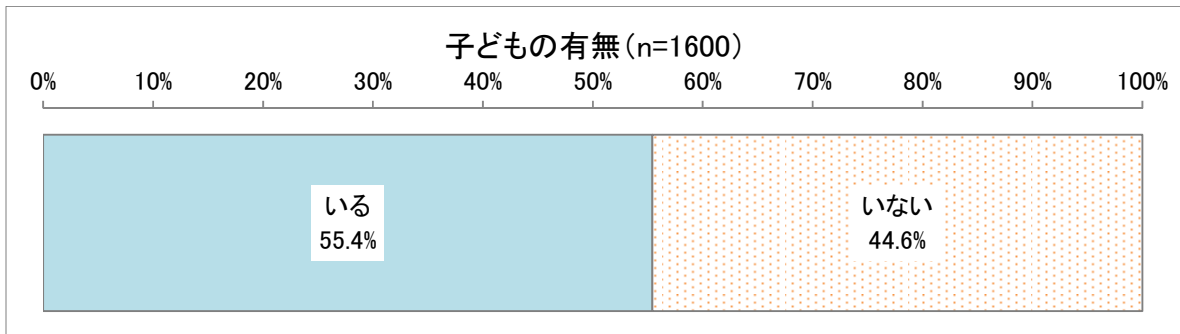


図 8

子どもは、「いる」(55.4%)、「いない」(44.6%)となっている。

(9) 子どもの年齢層

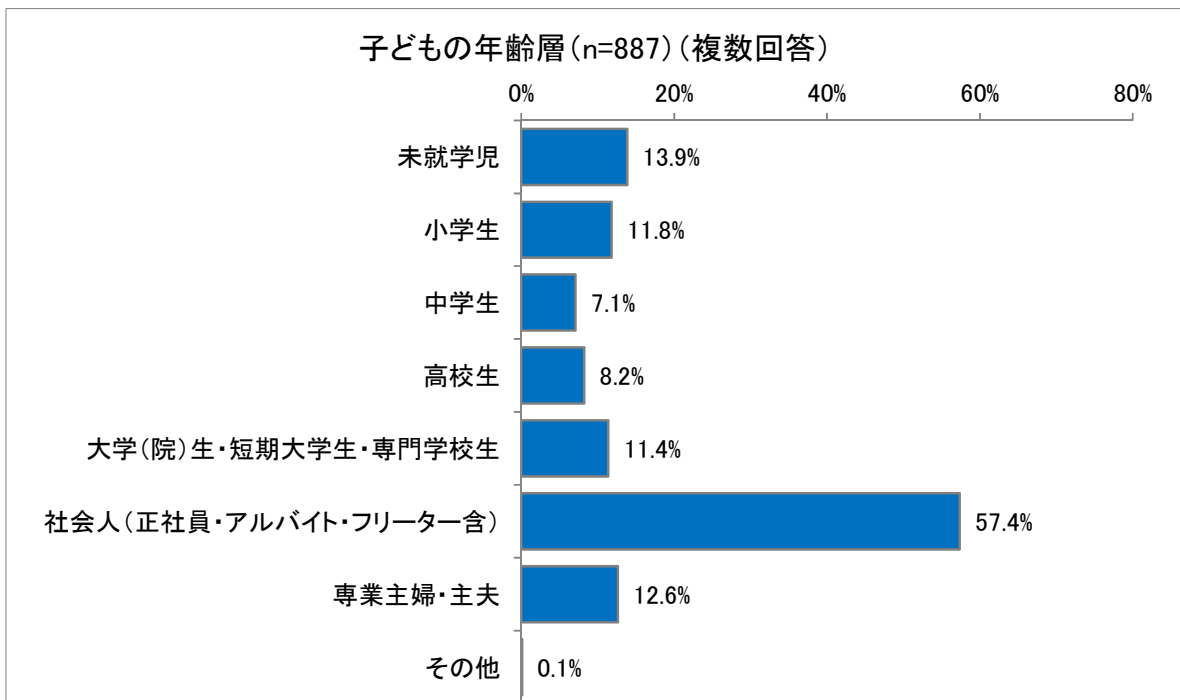


図 9

子どもの年齢層は、「社会人(正社員・アルバイト・フリーター含)」(57.4%)、「未就学児」(13.9%)、「専業主婦・主夫」(12.6%)となっている。

(10) 地域のコミュニティー活動への参加状況

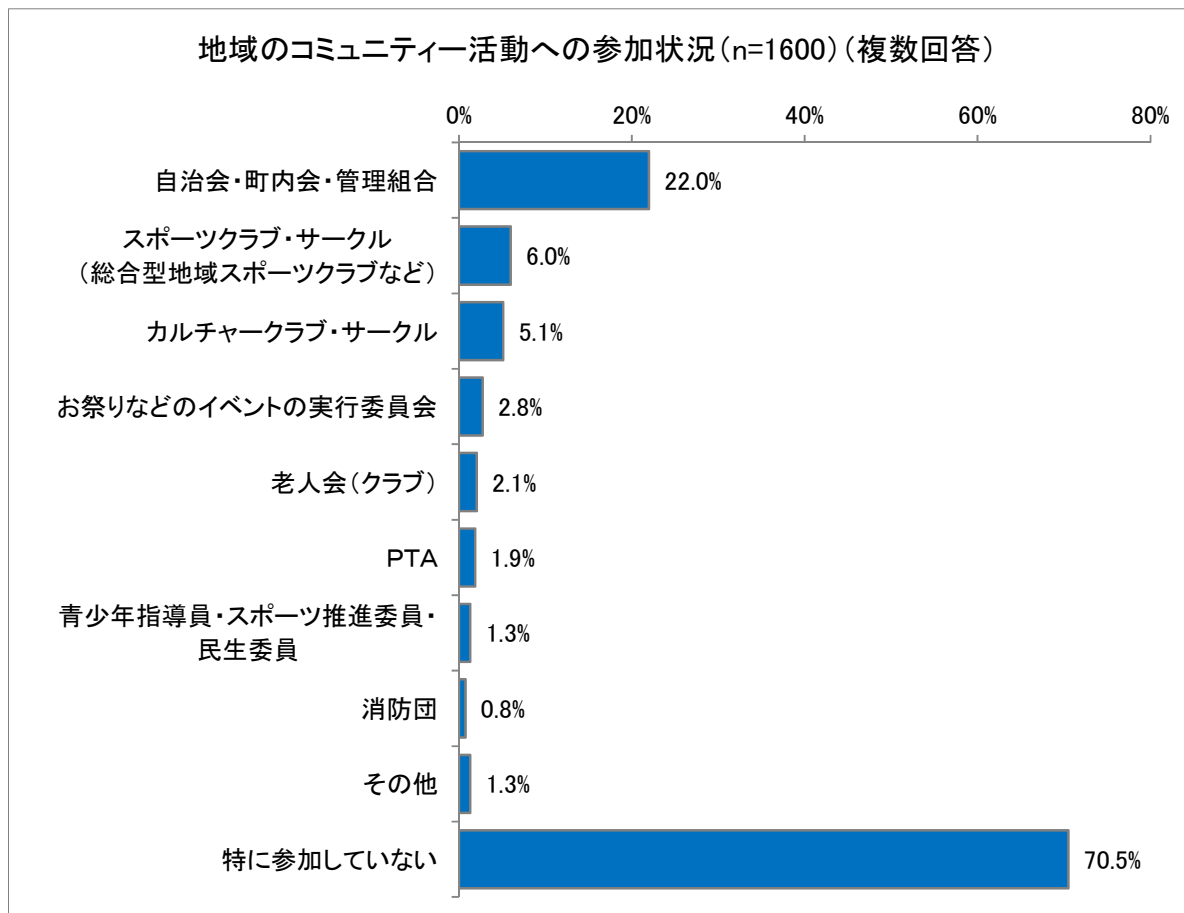


図 10

地域のコミュニティー活動への参加状況は、「自治会・町内会・管理組合」(22.0%)、「スポーツクラブ・サークル(総合型地域スポーツクラブなど)」(6.0%)、「カルチャークラブ・サークル」(5.1%)、「特に参加していない」(70.5%)となっている。

第2章 調査結果

2-1 運動・スポーツへの感じ方の変化

(1) 前年度比較

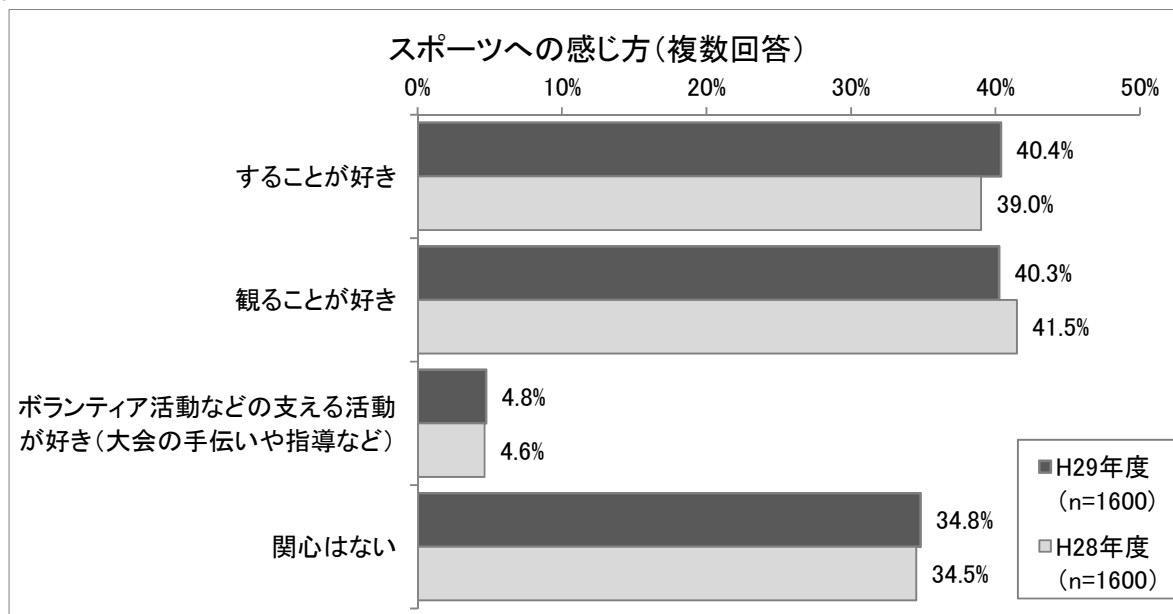


図 11

運動・スポーツへの感じ方は、「することが好き」(40.4%)、「観ることが好き」(40.3%)、「支える活動が好き」(4.8%)、「関心はない」(34.8%)となった。

28年度と比較しても、感じ方の割合や傾向ともにあまり変化はないが、「することが好き」の割合が1.4ポイント増加し、「観ることが好き」の割合が1.2ポイント減少した。

(2) 性別による比較

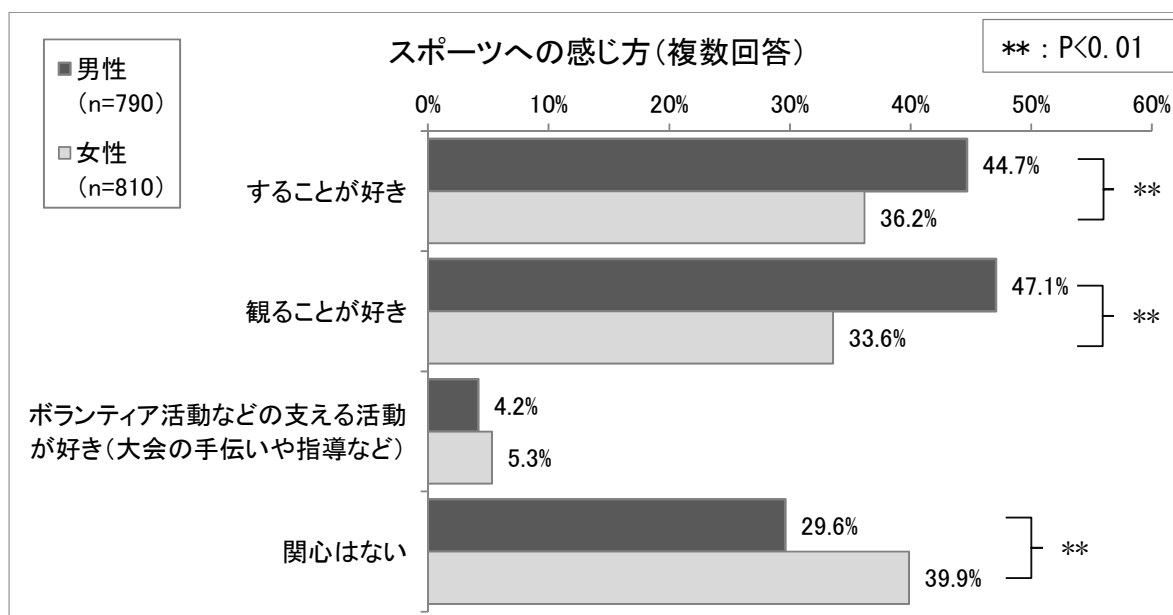


図 12

「女性」は「男性」よりもスポーツへの関心が低く、「関心はない」が10ポイント以上高くなっており、有意差があった。一方で、「すること」、「観ること」のいずれも、「男性」の方が「女性」よりも関心が高くなっている。ただし、「支える活動」への関心は若干「女性」の方が高い結果となった。

(3) 年代による比較

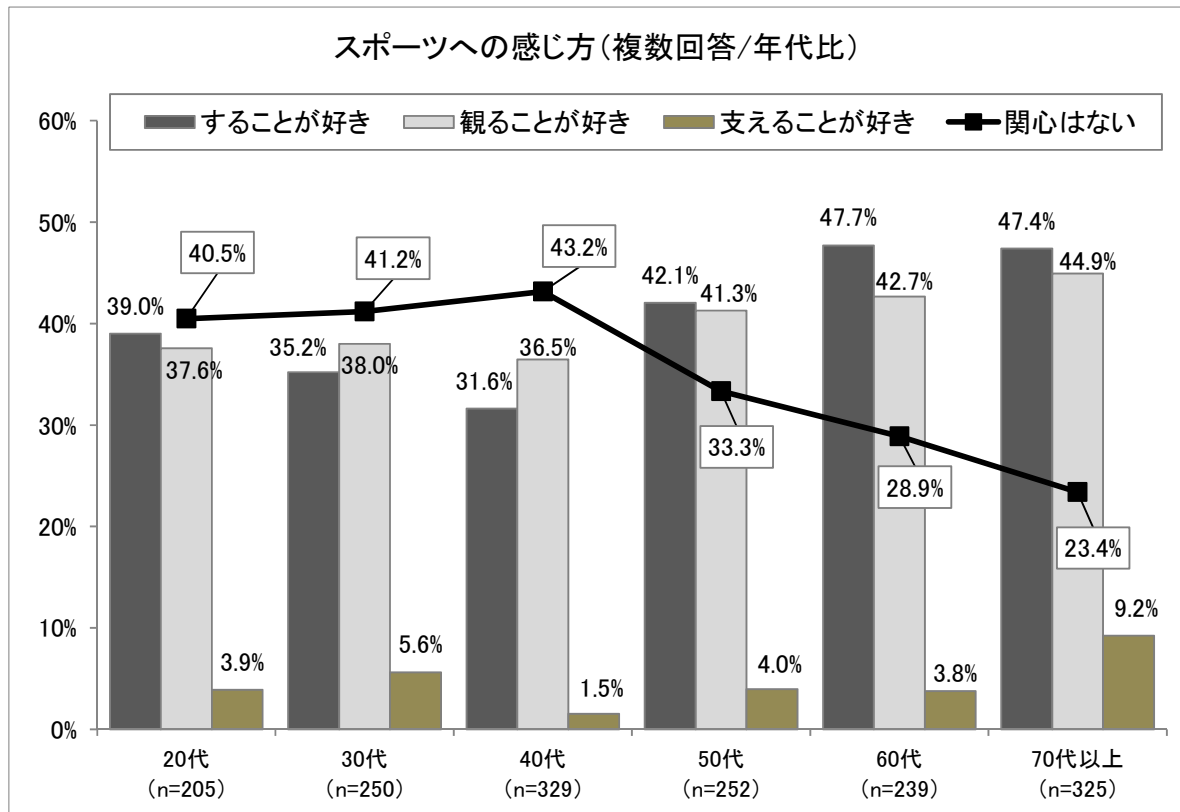


図 13

「関心はない」割合が、20～40代では40%程度あるが、50代以上から徐々に低くなり、「70代以上」は、23.4%と最も低く、年代が高くなるにつれてスポーツへの関心が高くなっている。

「40代」は、「関心はない」の割合が最も高く、「する・観る・支える」のいずれの割合も最も低くなっている。中でも、支える活動への関心が他の年代よりも低く、わずか1.5%となった。

2-2 運動・スポーツ実施状況への満足度

(1) 前年度比較

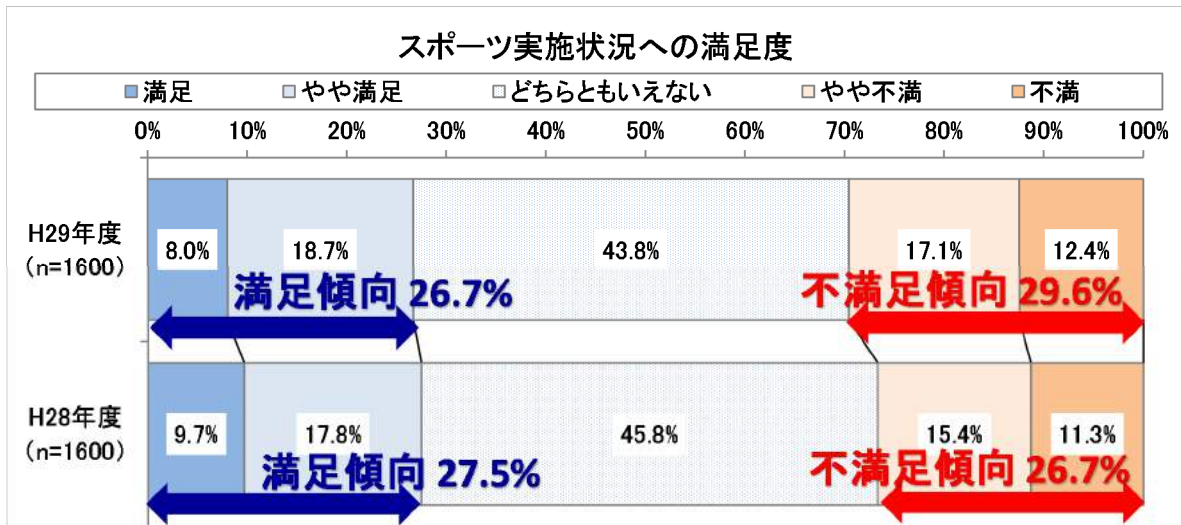


図 14

(※個別項目の割合は端数処理)

実施状況への満足度は、「満足」と「やや満足」を足した「満足傾向」(26.7%)、「不満」と「やや不満」を足した「不満足傾向」(29.6%)となった。

28年度と比較しても、満足度の割合や傾向ともにあまり変わりはないが、「満足傾向」の割合が0.8ポイント減少し、「不満足傾向」の割合が2.9ポイント増加した。

(2) 性別による比較

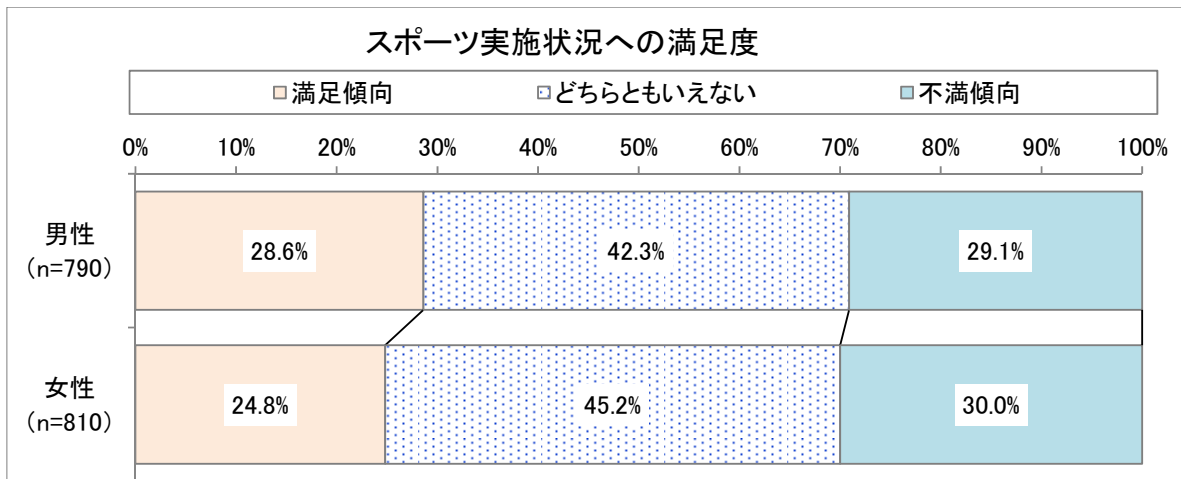


図 15

「満足傾向」は、「男性」・「女性」ともに30%弱であるものの、「男性」は「女性」よりも満足度が比較的高く、3.8ポイントの差が出た。

一方で、不満傾向は、「男性」・「女性」の差は見られず、いずれも30%前後となった。また、「男性」・「女性」ともに、満足傾向よりも不満傾向の方が高い結果となった。

(3) 年代による比較

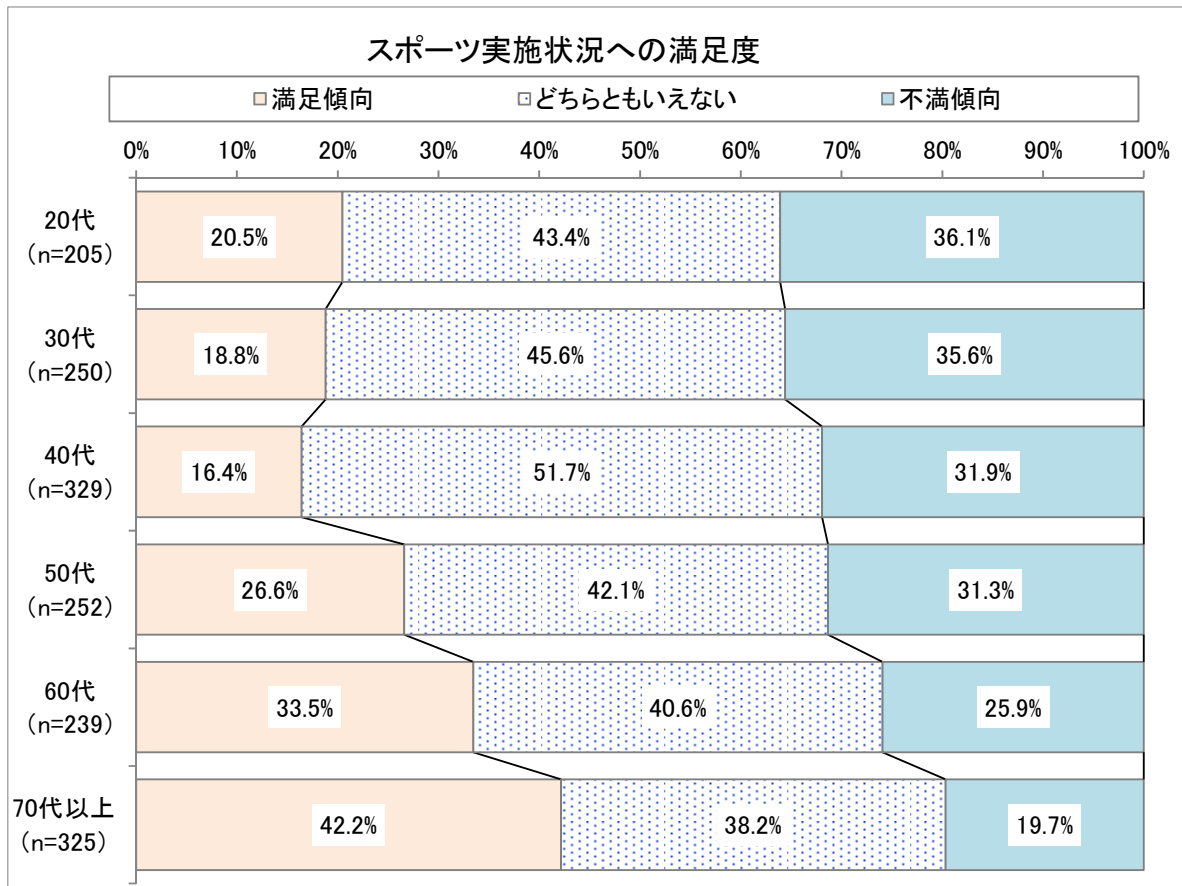


図 16

「満足傾向」は、年代が下がるにつれて徐々に低くなる傾向にあるが、40代が最も低い状況となった。最も高い「70代以上」(42.2%)と最も低い「40代」(16.4%)で約2.5倍もの差が出た。

一方で、「不満傾向」は、年代が下がるにつれて徐々に高くなり、最も高い「20代」(36.1%)と最も低い「70代以上」(19.7%)で、約1.8倍の差が出た。

2-3 運動不足に関する意識

(1) 前年度比較

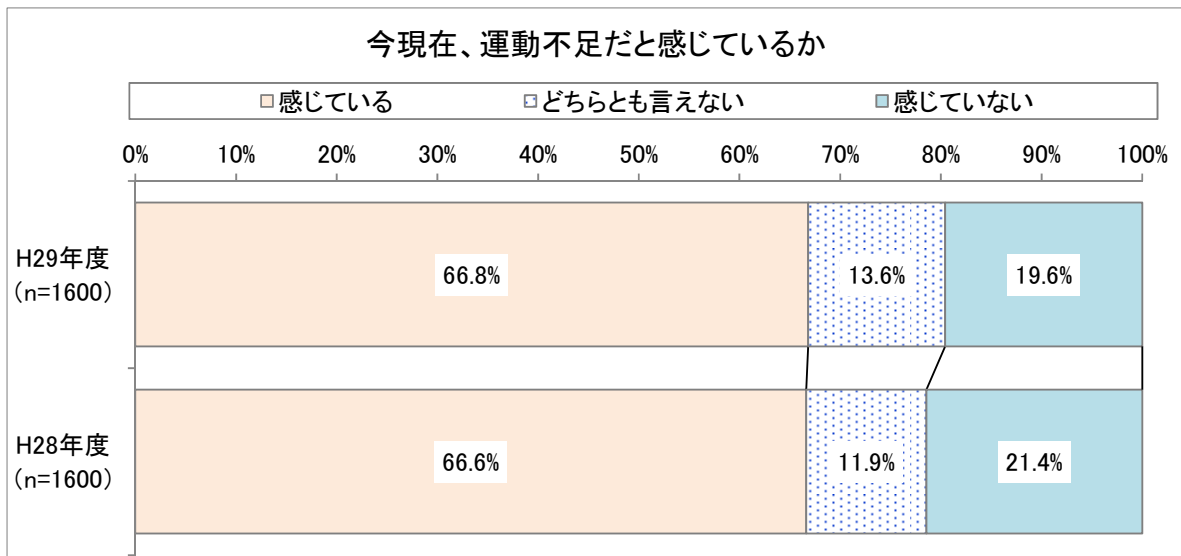


図 17

運動不足だと、「感じている」(66.8%)、「感じていない」(19.6%)となった。

28年度と比較しても、運動不足だと「感じている」がいずれも約70%弱となっており、割合や傾向ともにあまり変わりはないが、「感じていない」が1.8ポイント減少した。

(2) 性別による比較

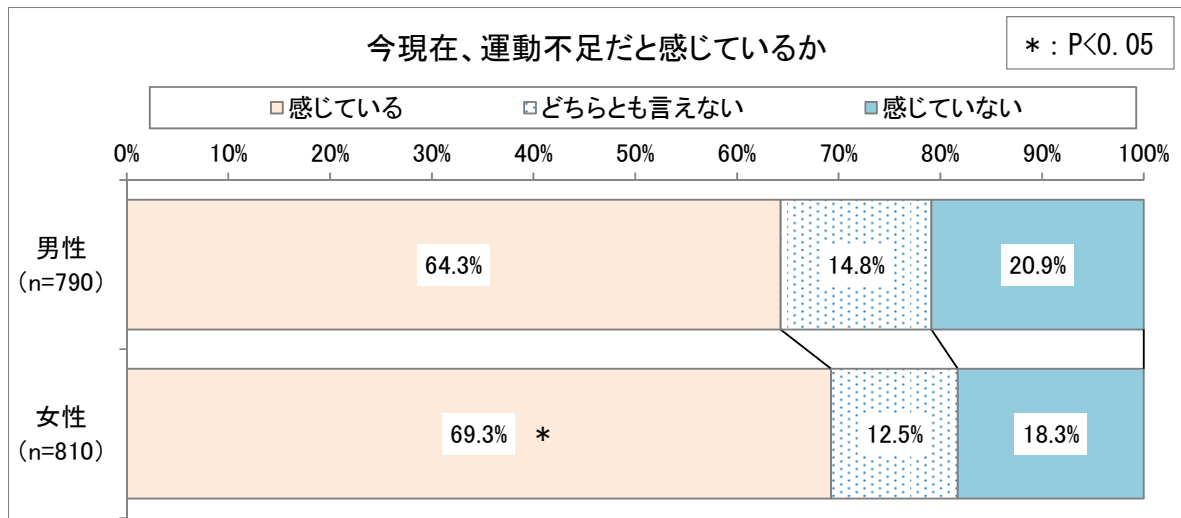


図 18

運動不足を「感じている」割合は、「男性」・「女性」ともに約70%近い状況となった。

ただし、「女性」は「男性」よりも運動不足を感じている割合が比較的高く、有意差があった。また、「感じていない」は、2.6ポイント低い結果となった。

「女性」の方が、比較的運動不足を感じている傾向となった。

(3) 年代による比較

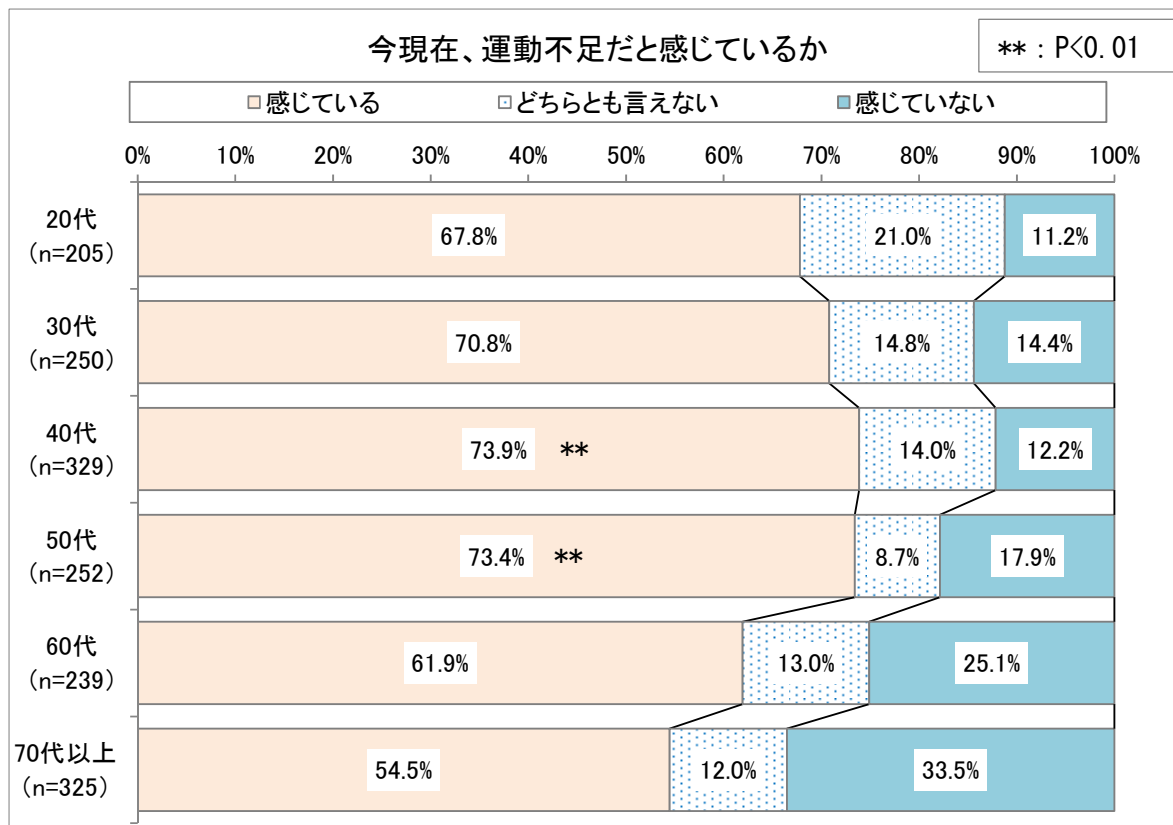


図 19

いずれの年代も運動不足だと「感じている」割合が高く、過半数を越える状況となった。
 しかし、「60代」・「70代以上」は、比較的運動不足だと「感じている」割合が低く、50～60%程度に留まった。

年齢が下がるにつれて運動不足を「感じている」割合が徐々に高くなる傾向が見られるが、特に「40代」・「50代」が高く、73%を越える状況となった。「40代」は、「60代」・「70代以上」に対して有意差があった。また、「50代」も、「60代」・「70代以上」に対して有意差があった。

2-4 過去1年間のスポーツ実施率

(1) 前年度比較

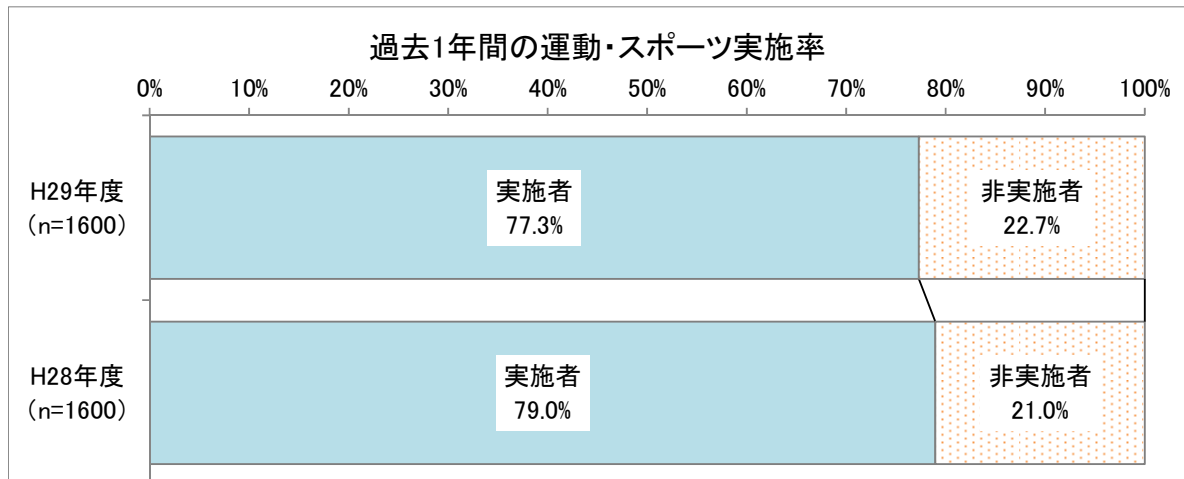


図 20

過去1年間の運動・スポーツ実施率は77.3%となった。
28年度と比較しても、実施率に大きな差はないが、1.7ポイント減少する結果となった。

(2) 性別・年代別による比較

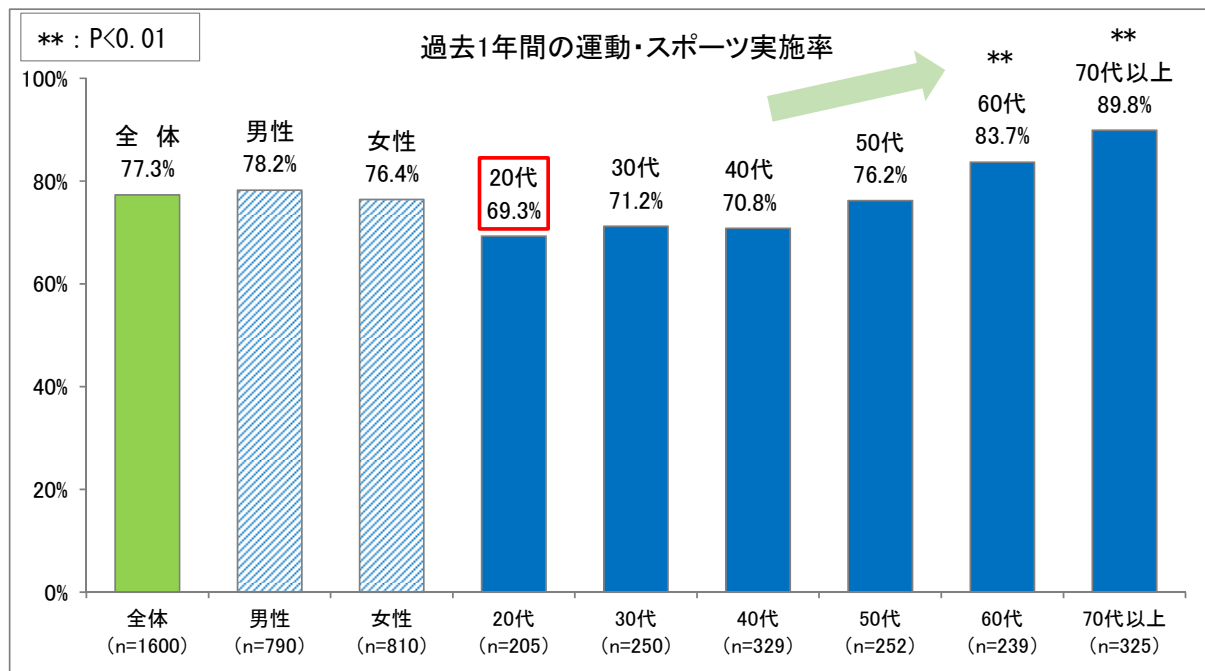


図 21

全回答者の実施率77.3%に対し、「男性」の実施率は78.2%、「女性」の実施率は76.4%となり、「男性」の方が「女性」よりも若干実施率が高い結果となった。
各年代を比較すると、「20代」の実施率が最も低い結果となり、年代が上がるにつれて徐々に実施率が上がる傾向となった。20～40代は、実施率が70%前後となったのに対し、「60代」・「70代以上」の実施率は、80～90%近い結果となった。「60代」は「20代」・「30代」・「40代」に対して、「70代以上」も「20代」・「30代」・「40代」に対して、それぞれ有意差があった。

(3) 性年代別による比較

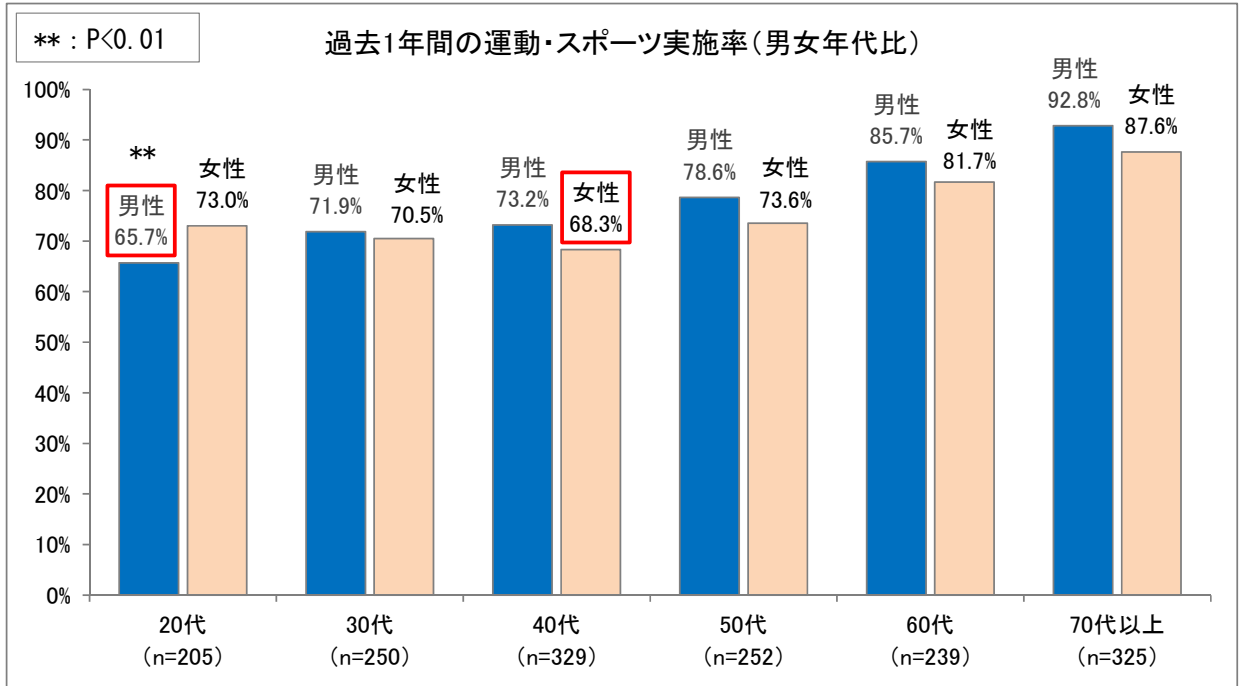


図 22

性年代別で比較すると、実施率が低かった 20 代の中でも、「20 代男性」が 65.7%と他世代と比較しても大幅に低い結果となった。一方で、「70 代以上の男性」は、90%を越える実施率となった。「20 代男性」は「70 代以上の男性」に対する差が約 30 ポイント近くなり、有意差があった。

また、女性の中では、「40 代女性」の実施率が 68.3%と「20 代男性」に次ぐ低さとなった。女性は、20 代から 40 代にかけて徐々に実施率が下がる傾向にあり、50 代を過ぎると、再び実施率が向上する傾向となった。

2-5 過去1年間のスポーツ実施頻度

(1) 前年度比較

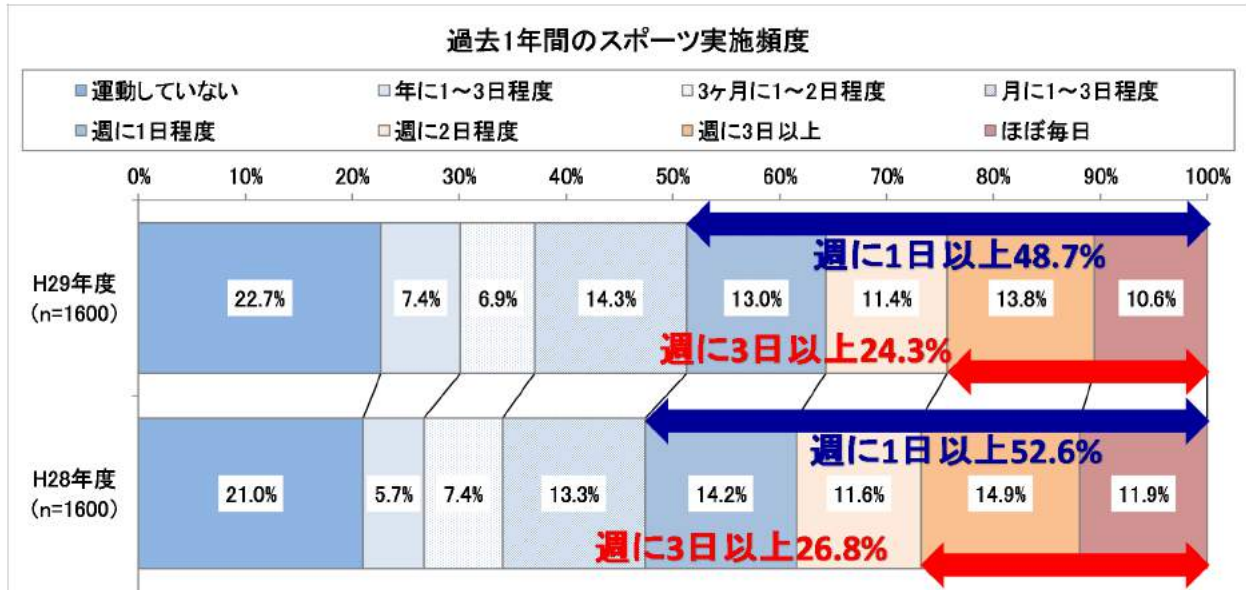


図 23 (※個別項目の割合は端数処理)

「週に1日以上」の実施率は48.7%、「週に3日以上」の実施率が24.3%となった。
 国や市が掲げる目標（65%・30%）には、それぞれ16.3ポイント、5.7ポイント及ばなかった。28年度と比較しても、傾向に大きな差はないが、それぞれ3.9ポイント、2.5ポイント減少した。

(2) 性別・年代別による比較

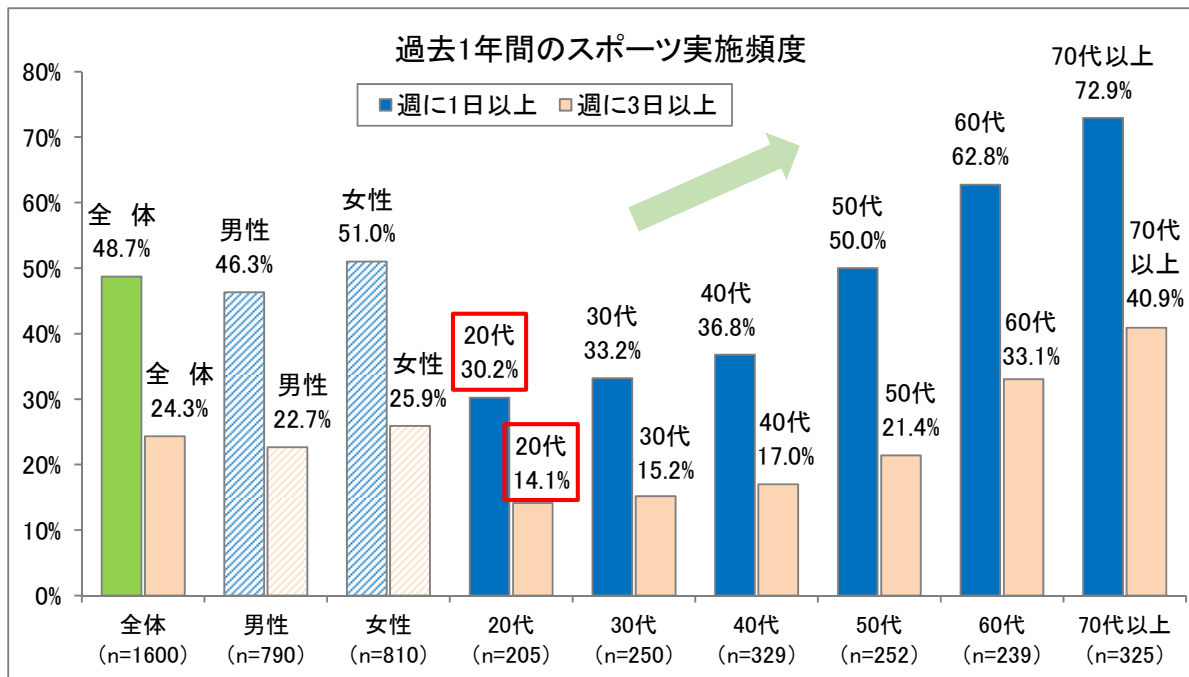


図 24

「週に1日以上」・「週に3日以上」とも、「男性」よりも「女性」の方が高い結果となった。実施率は、2-4 (P.15 図 21) にあるとおり、「男性」の方が高いものの、その頻度は「女性」の方が高く、定期的に運動・スポーツを行っている結果となった。

年代で比較すると、「20代」の実施頻度が最も低く、年代が上がるとともに頻度が高くなり、「70代以上」の実施頻度が最も高い結果となった。60代以上は、ほぼ国や市の目標を上回る結果となった。

(3) 性年代別による比較

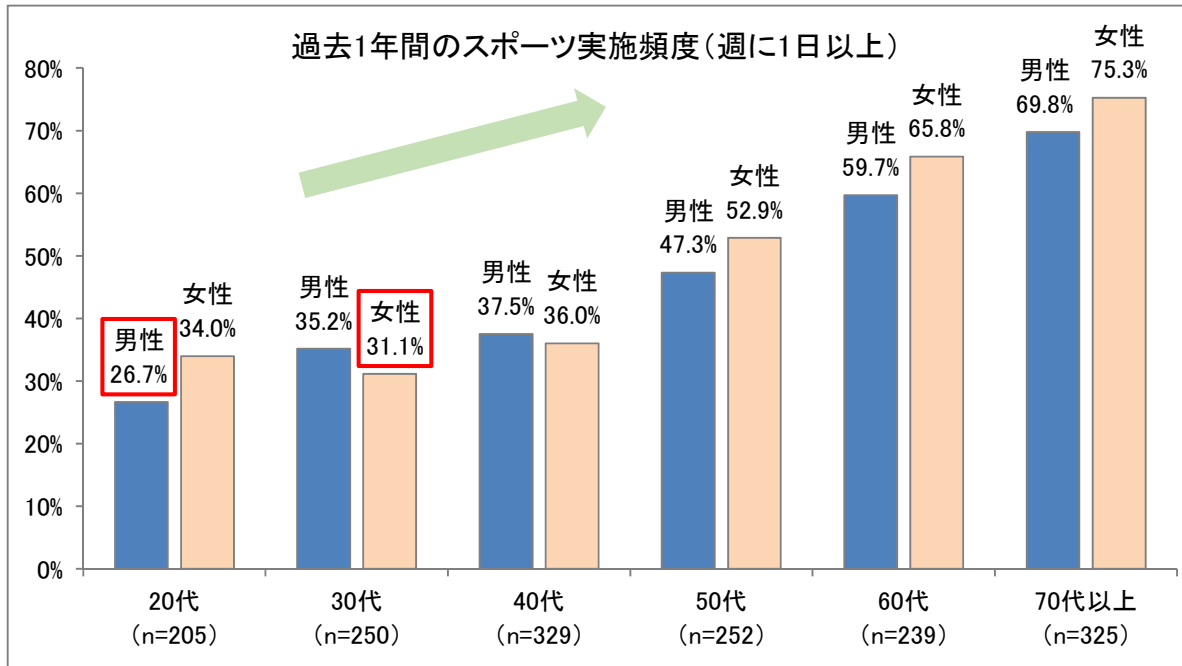


図 25

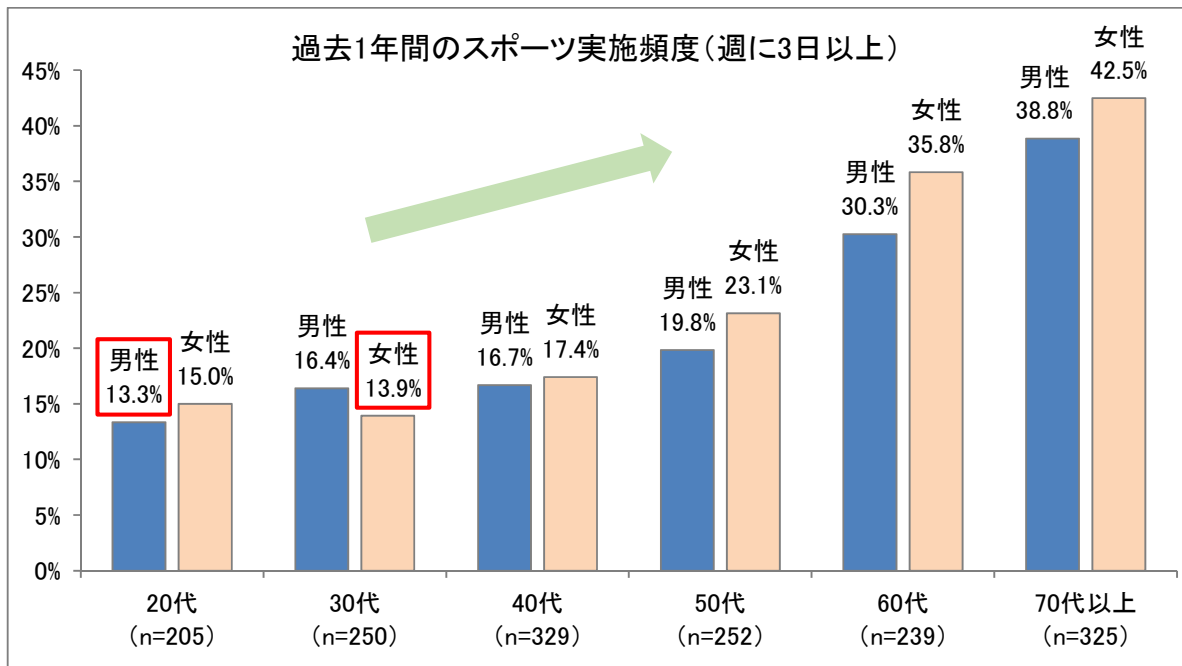


図 26

「週に1日以上」・「週に3日以上」の実施率はともに、「20代男性」が最も低く、「70代以上の女性」が最も高くなり、その差は約3倍となった。この結果、「20代男性」は、実施率も低く、また実施頻度も低い状態となった。

また、女性では、「30代女性」が最も低くなった。この結果、スポーツ実施率では最も低かった「40代女性」よりも実施頻度が低い状態となった。(P.16 図 22 参照)

2-6 過去1年間に行った運動・スポーツ

(1) 前年度比較

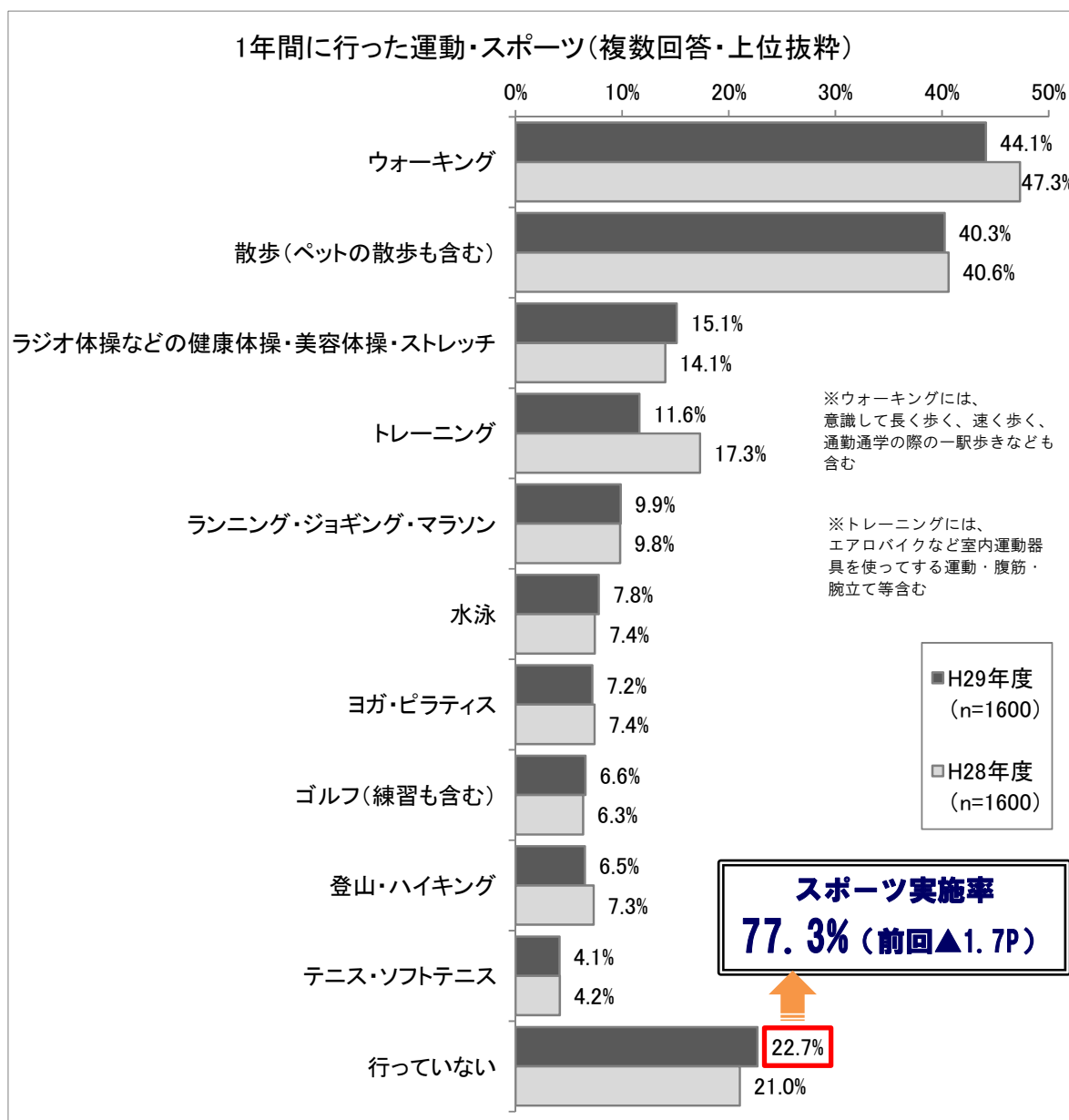


図 27

1年間に行った運動・スポーツは、「ウォーキング」(44.1%)、「散歩」(40.3%)、「ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ」(15.1%)、「トレーニング」(11.6%)となった。

また、「行っていない」が22.7%となったため、運動・スポーツの実施率は77.3%(前回▲1.7ポイント)となった。

28年度と比較しても、1位・2位である「ウォーキング」・「散歩」の実施率が非常に高い傾向は変わらず、また、上位10項目に変化は見られなかった。

(2) 性別による比較

	男性 (n=790)	女性 (n=810)
1	ウォーキング (45.8%)	ウォーキング (42.5%)
2	散歩 (38.5%)	散歩 (42.0%)
3	ランニング・ジョギング・マラソン (14.3%) **	ラジオ体操・美容体操・ストレッチ (20.2%)
4	トレーニング (13.7%)	ヨガ・ピラティス (12.5%) **
5	ラジオ体操・美容体操・ストレッチ (9.9%)	トレーニング (9.6%)

表 1

** : P<0.01

「男性」・「女性」とともに、「ウォーキング」と「散歩」の実施者が40%程度となっており、実施種目がこの2種目に偏る傾向となっている。

「男性」は3位に「ランニング・ジョギング・マラソン」が入っており、「女性」とは有意差があった。「女性」は4位に「ヨガ・ピラティス」が入っており、「男性」とは有意差があった。

「男性」のほうが比較的運動強度が高い種目を実施する傾向にあり、「女性」は、ストレッチやヨガなど、リラックス系の種目を実施する傾向にある。

(3) 年代による比較

	20代 (n=205)	30代 (n=250)	40代 (n=329)	50代 (n=252)	60代 (n=239)	70代以上 (n=325)
1	ウォーキング (36.6%)	散歩 (40.8%)	散歩 (36.5%)	ウォーキング (44.0%)	ウォーキング (52.3%)	ウォーキング (57.5%)
2	散歩 (36.1%)	ウォーキング (35.6%)	ウォーキング (36.2%)	散歩 (38.1%)	散歩 (42.3%)	散歩 (46.5%)
3	ランニング・ ジョギング・マラソン (18.0%)	ランニング・ ジョギング・マラソン (16.6%)	ランニング・ ジョギング・マラソン (11.2%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (14.3%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (15.1%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (25.5%)
4	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (12.2%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (13.6%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (8.5%)	トレーニング (13.1%)	トレーニング (13.0%)	ゴルフ (12.9%)
5	トレーニング (12.2%)	トレーニング (13.2%)	トレーニング (7.9%)	ランニング・ ジョギング・マラソン (11.1%)	水泳 (12.6%)	トレーニング (11.7%)

表 2

全ての世代で、「ウォーキング」、「散歩」が1位2位となっており、3位以下を20ポイント程度引き離す結果となった。「ランニング・ジョギング・マラソン」は、20～40代で3位に入っており、比較的人気の高い種目となっている。

「60代」・「70代以上」では、「ウォーキング」の実施者が過半数を越えており、60代以上のスポーツ実施率が高い理由が「ウォーキング」にあるともいえる。実施率の向上に向けて、まずは「ウォーキング」から始めることが推奨できる。

また、60代では「水泳」が5位に入り、70代以上では、「ゴルフ」が4位に入るなど、60代以上は2-4 (P.15 図 21) にあるとおり実施率も高く、他世代とは異なる種目を実施している傾向がある。

2-7 今後行ってみたい運動・スポーツ

(1) 前年度比較

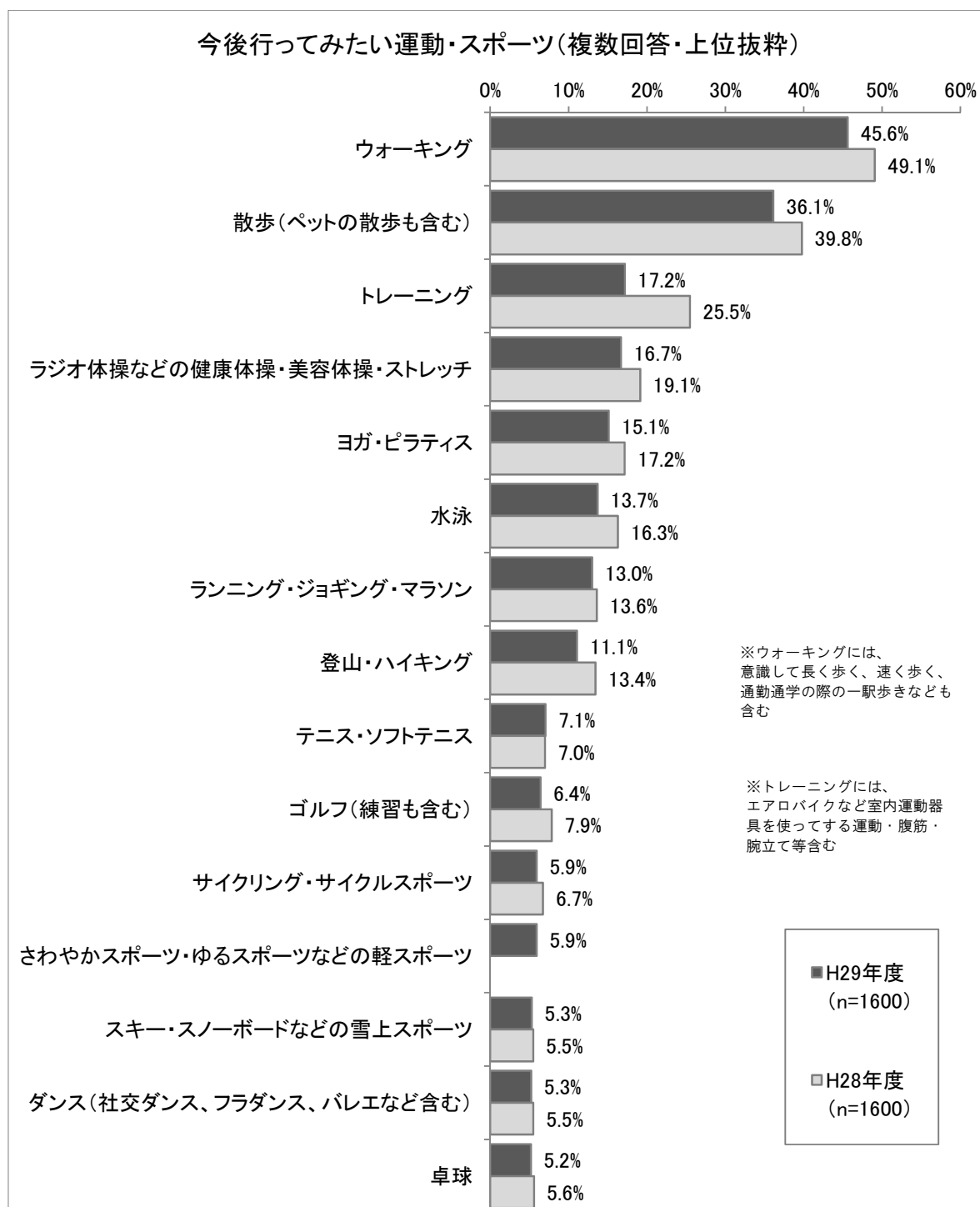


図 28

今後行いたい運動・スポーツも、「ウォーキング」(45.6%)、「散歩」(36.1%)が1位2位となり、「トレーニング」(17.2%)、「ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ」(16.7%)、「ヨガ・ピラティス」(15.1%)が続いた。

28年度と比較しても上位10位の項目は大きく変わらなかったが、29年度から加えた「さわやかスポーツ・ゆるスポーツなどの軽スポーツ」が5.9%で12位に入った。これらの「軽スポーツ」をきっかけとして、スポーツの実施者が増える可能性も考えられる。

(2) 性別による比較

	男性 (n=790)	女性 (n=810)
1	ウォーキング (45.1%)	ウォーキング (46.2%)
2	散歩 (34.8%)	散歩 (37.4%)
3	トレーニング (18.2%)	ヨガ・ピラティス (24.3%)
4	ランニング・ジョギング・マラソン (16.5%)	ラジオ体操・美容体操・ストレッチ (22.3%)
5	水泳 (14.6%)	トレーニング (16.2%)

表 3

「男性」・「女性」ともに、「ウォーキング」と「散歩」の実施希望者がいずれも約 40%となっており、実施種目と同様、希望種目も 2 種目に偏る傾向となっている。

「男性」は 5 位に「水泳」が入り、「女性」は 3 位に「ヨガ・ピラティス」が入った。「女性」は、実施種目と大きな差は見られなかった。

(3) 年代による比較

	20代 (n=205)	30代 (n=250)	40代 (n=329)	50代 (n=252)	60代 (n=239)	70代以上 (n=325)
1	ウォーキング (31.2%)	散歩 (34.8%)	ウォーキング (39.2%)	ウォーキング (50.4%)	ウォーキング (52.3%)	ウォーキング (56.1%)
2	散歩 (31.2%)	ウォーキング (34.0%)	散歩 (34.0%)	散歩 (37.7%)	散歩 (42.3%)	散歩 (38.9%)
3	ランニング・ ジョギング・マラソン (22.9%)	ランニング・ ジョギング・マラソン (22.8%)	トレーニング (18.5%)	トレーニング (20.2%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (15.1%)	水泳 (19.7%)
4	トレーニング (18.5%)	トレーニング (18.4%)	ヨガ・ピラティス (17.0%)	ヨガ・ピラティス (20.2%)	トレーニング (13.0%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (19.2%)
5	ヨガ・ピラティス (11.2%)	ヨガ・ピラティス (16.4%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (13.7%)	ラジオ体操・美容 体操・ストレッチ (15.9%)	水泳 (12.6%)	トレーニング (17.6%)

表 4

全ての年代で、実施種目と同様に「ウォーキング」と「散歩」が 1 位・2 位に入った。

「20代」・「30代」は、3 位に「ランニング・ジョギング・マラソン」が入り、実施種目と同じく希望が高い状況となった。「40代」は、実施種目の 3 位に「ランニング・ジョギング・マラソン」が入っていたが、実施希望種目の上位 5 位以内には入らなかった (6 位)。(P.20 表 2 参照)

20～50代は「ヨガ・ピラティス」の希望が高く、60～70代は「水泳」の希望が高い。

これらの希望種目は、実施種目とは異なる種目が入っていることから、これらの種目を各年代が親しめる機会を増やすことが重要である。

2-8 過去1年間の会場でのスポーツ観戦率

(1) 前年度比較

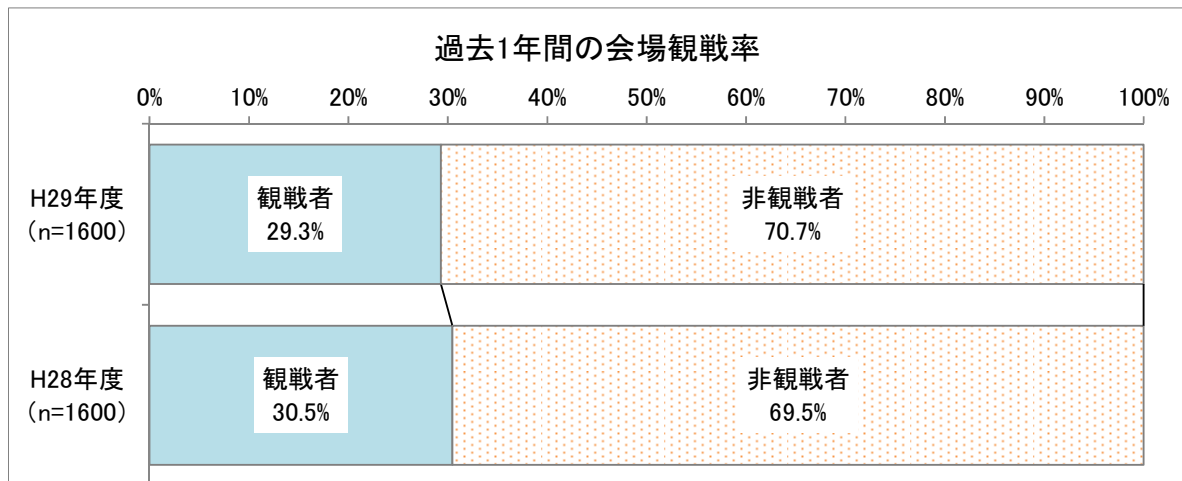


図 29

過去1年間の会場観戦率は、29.3%となり、国や市が目標とする50%には及ばなかった。28年度と比較しても、観戦率に大きな差はないものの、1.2ポイント減少する結果となった。

(2) 性別・年代別による比較

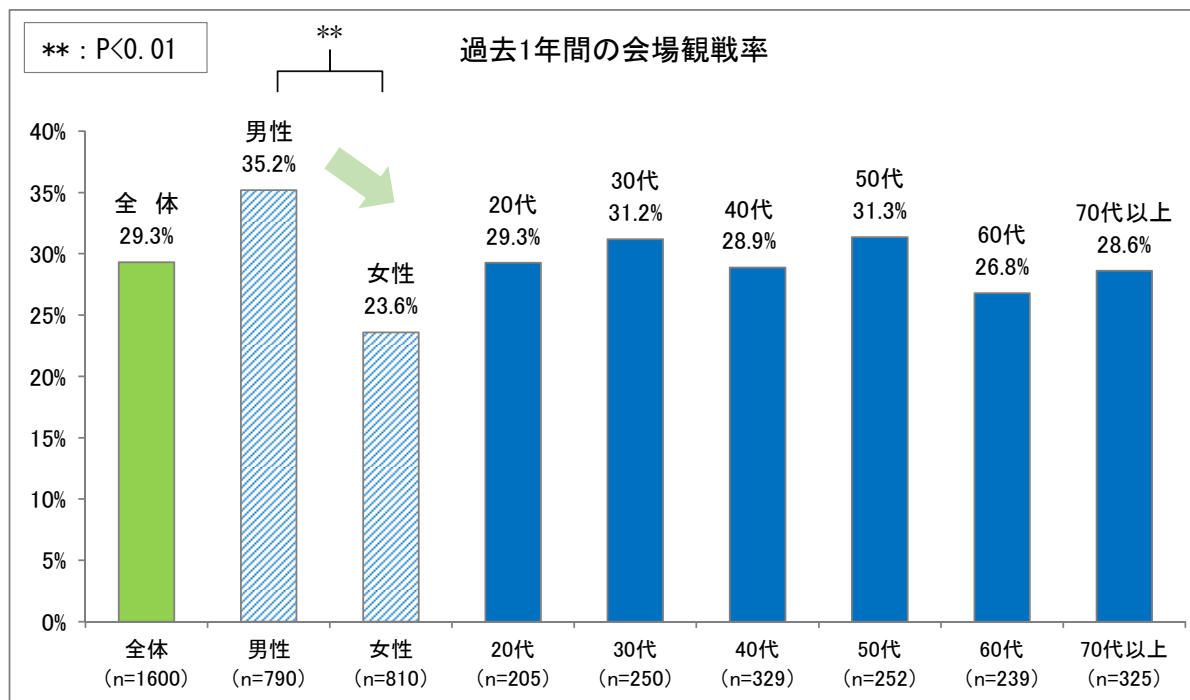


図 30

全回答者の観戦率 29.3%に対し、「男性」の観戦率は 35.2%、「女性」の観戦率は 23.6%となった。「男性」の方が「女性」よりも大幅に観戦率が高く、男女間での観戦率の差は、10ポイント以上となり、有意差があった。

各年代を比較すると、「60代」(26.8%)の観戦率が最も低い結果となり、「50代」(31.3%)が最も高い結果となった。しかし、各年代の観戦率はいずれも概ね30%前後となり、有意差はなかった。

(3) 性年代別による比較

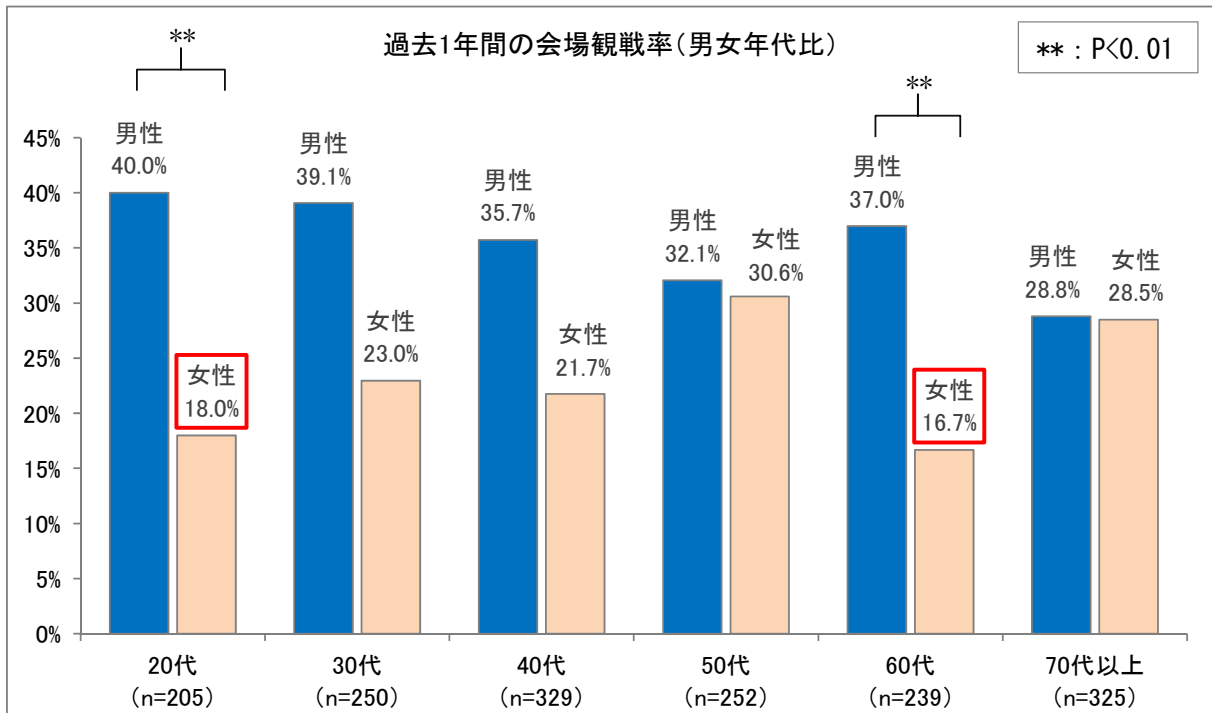


図 31

性年代別で比較すると、観戦率が低かった60代の中でも、「60代女性」の観戦率が16.7%と最も低くなった。同じ60代でも「60代男性」は、37.0%と比較的高い観戦率となっており、「60代」における男女間の観戦率には有意差があった。

同様に「20代男性」の観戦率は最も高く、40.0%にも達しているのに対し、「20代女性」は18.0%と2倍以上の差があり、男女間の観戦率には有意差があった。

一方で、「50代」・「70代以上」では、男女間の観戦率に大きな差が見られず、女性の観戦率が比較的高い結果となった。男女間での差があまり見られないことから、夫婦での観戦など、男女でともに観戦している可能性も考えられる。(P.33にて検証)

2-9 過去1年間の会場観戦頻度

(1) 前年度比較

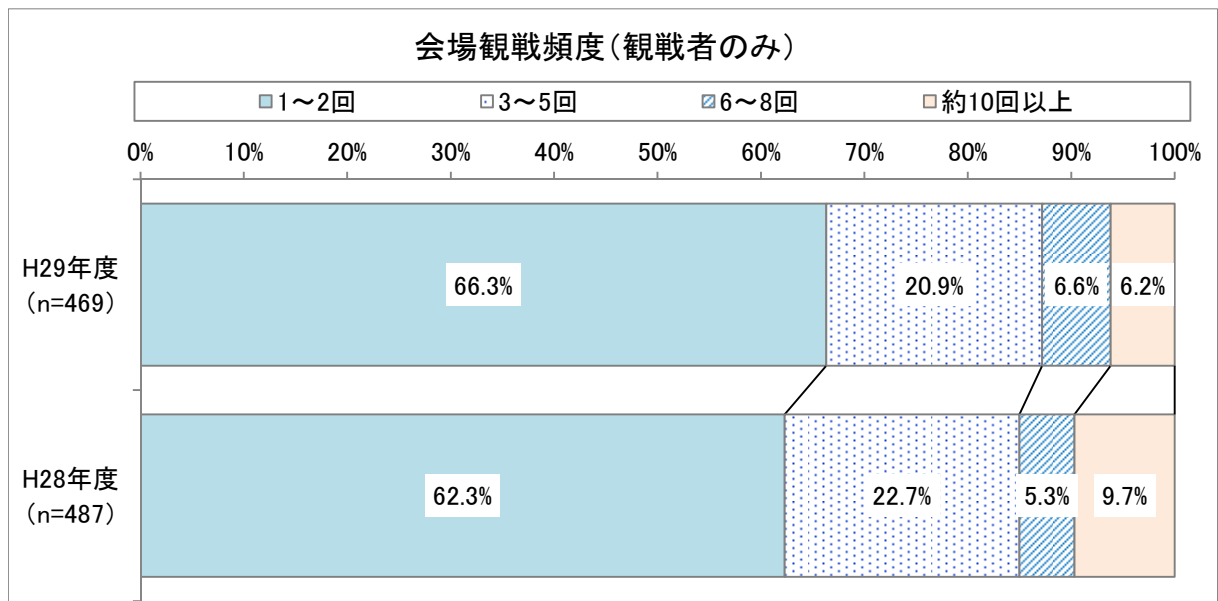


図 32

観戦の頻度は、「1～2回」が最も高く、「3～5回」が続く。

28年度と比較しても、「1～2回」の割合が最も高い傾向は変わらないが、「1～2回」の割合が4.0ポイント増加し、「約10回以上」の比較的頻度が高い割合が3.5ポイント減少した。

(2) 性別・年代別による比較（観戦者のみ）

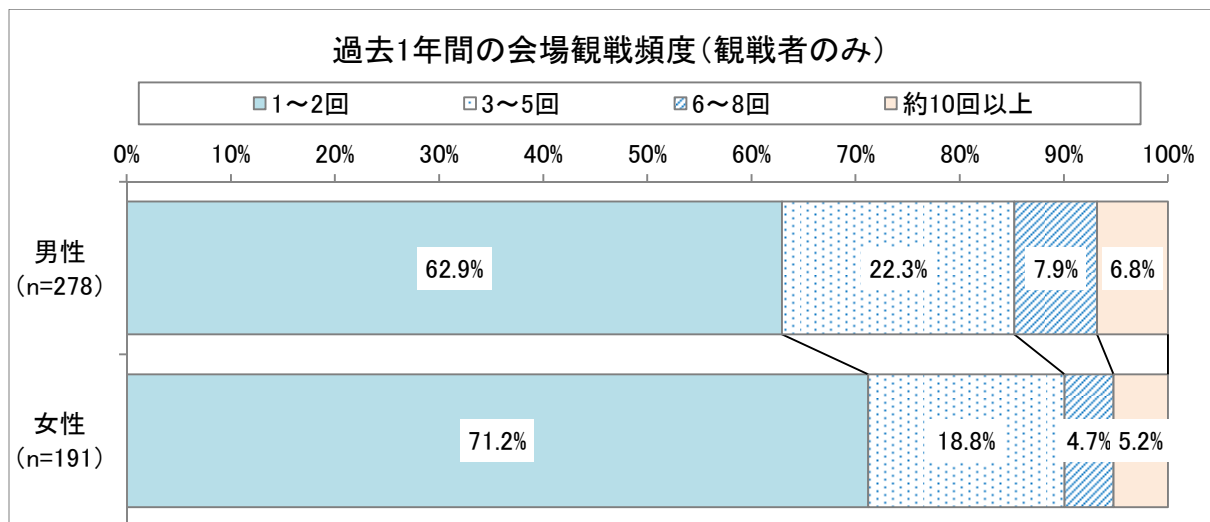


図 33

「男性」・「女性」ともに、「1～2回」の頻度が最も高く、「3～5回」が続いた。

「女性」は、「1～2回」の割合が70%を越えており、「男性」と比較すると、8.3ポイントの差があったが、有意差はなかった。

「女性」は、「男性」よりも観戦率も低く、観戦頻度もあまり高くない傾向となった。（P.23 図 30 参照）

(3) 性年代別による比較

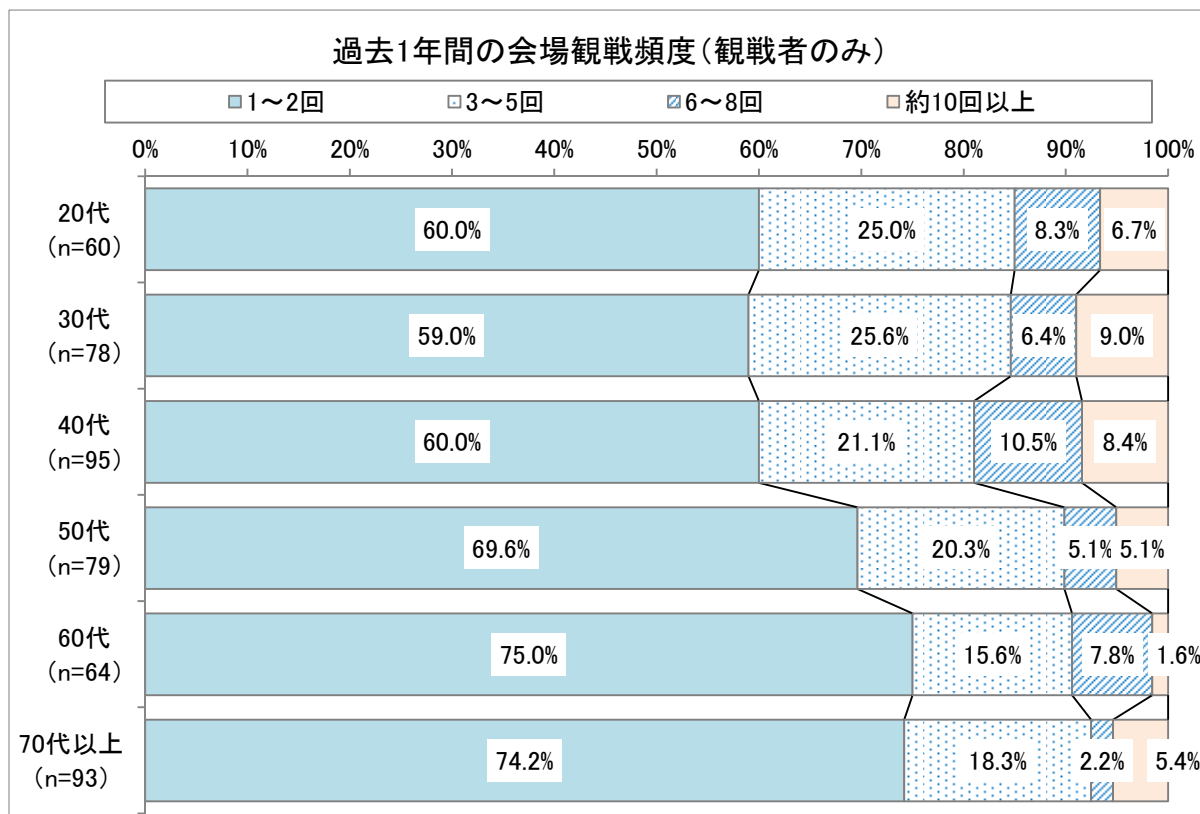


図 34

「20~40代」は、「1~2回」の割合が60%程度となっており、「50代以上」と比較すると、比較的観戦頻度が高い結果となった。特に「40代」は、「6~8回」・「10回」以上の割合が他の年代よりも高めとなり、比較的頻度が高い傾向となった。

観戦率が比較的低かった「60代」・「70代以上」は、観戦頻度「1~2回」が75%近くあり、観戦頻度も低い結果となった。(P.23 参照)

2-10 過去1年間に会場で観戦したプロスポーツ・トップアスリートの試合

(1) 前年度比較

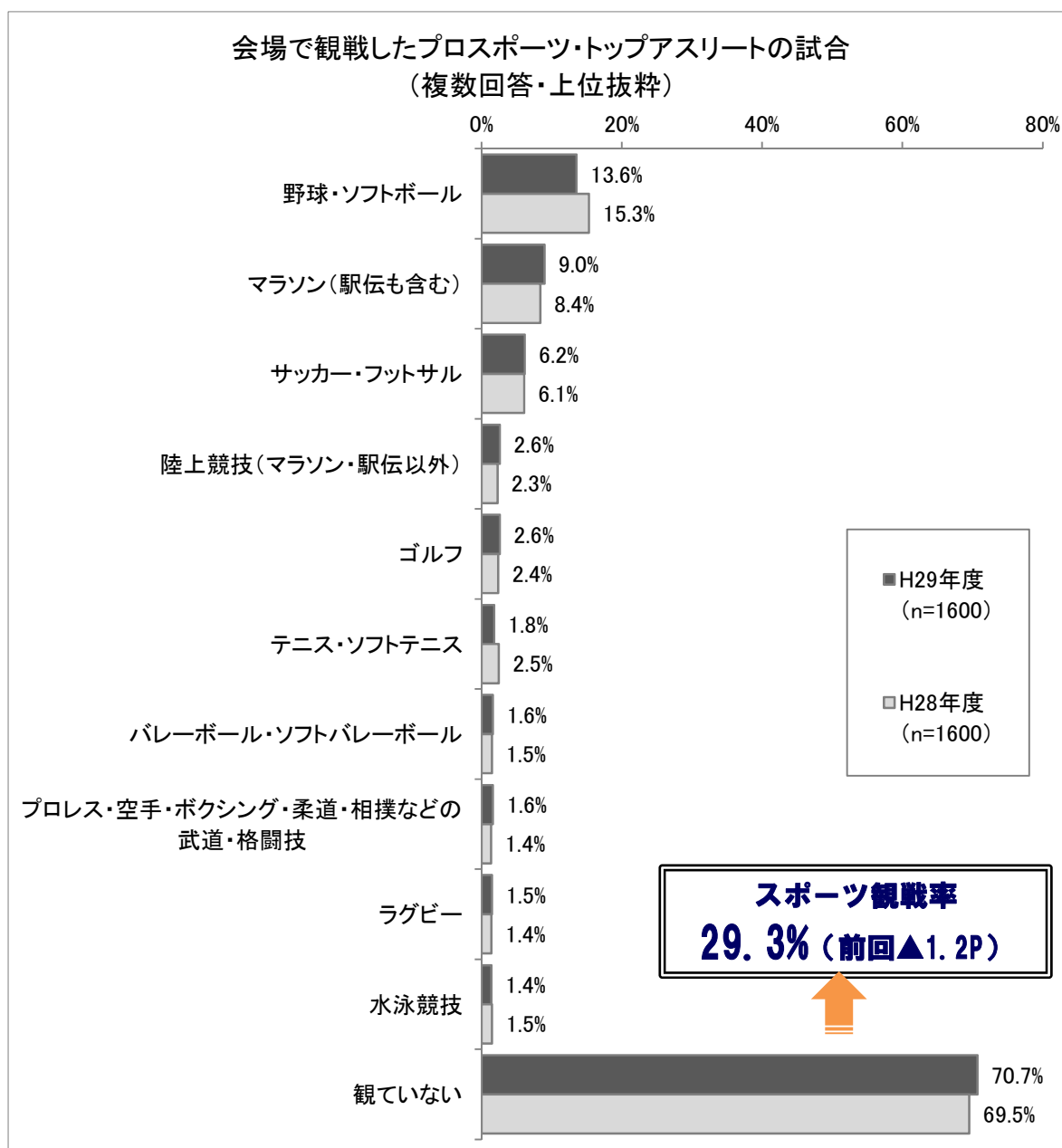


図 35

会場で観戦したスポーツは、「野球・ソフトボール」(13.6%)、「マラソン(駅伝も含む)」(9.0%)、「サッカー・フットサル」(6.2%)となった。また、「観ていない」が70.7%となったことから、スポーツの会場観戦率は、29.3%(前回▲1.2ポイント)となった。

28年度と比較しても、上位15位に順位の変動はあったものの、全体の傾向にはあまり大きな差は見られなかった。

(2) 性別による比較

	男性 (n=790)	女性 (n=810)
1	野球・ソフトボール (18.9%)	マラソン (駅伝も含む) (8.6%)
2	マラソン (駅伝も含む) (9.4%)	野球・ソフトボール (8.4%)
3	サッカー・フットサル (8.6%)	サッカー・フットサル (3.8%)
4	ゴルフ (3.3%)	陸上競技 (マラソン・駅伝以外) (3.1%)
5	陸上競技 (マラソン・駅伝以外) (2.2%)	バレーボール・ソフトバレーボール (2.2%)

表 5

「男性」は、「野球・ソフトボール」が最も高く、「マラソン (駅伝含む) 」・「サッカー・フットサル」と続いた。
「女性」は、「マラソン (駅伝含む) 」が最も高く、僅差で「野球・ソフトボール」が続いた。
「男性」は 4 位に「ゴルフ」が入り、「女性」は 5 位に「バレーボール・ソフトバレーボール」が入った。

(3) 年代による比較

	20代 (n=205)	30代 (n=250)	40代 (n=329)	50代 (n=252)	60代 (n=239)	70代以上 (n=325)
1	野球・ ソフトボール (13.7%)	野球・ ソフトボール (12.4%)	野球・ ソフトボール (15.5%)	野球・ ソフトボール (16.7%)	野球・ ソフトボール (12.6%)	マラソン (駅伝含む) (15.7%)
2	サッカー・ フットサル (8.8%)	サッカー・ フットサル (9.2%)	サッカー・ フットサル (5.8%)	マラソン (駅伝含む) (8.7%)	マラソン (駅伝含む) (10.9%)	野球・ ソフトボール (10.8%)
3	マラソン (駅伝含む) (2.0%)	マラソン (駅伝含む) (8.8%)	マラソン (駅伝含む) (5.8%)	サッカー・ フットサル (6.7%)	サッカー・ フットサル (4.6%)	ゴルフ (4.6%)
4	水泳競技 (1.5%)	陸上競技 (マラソン駅伝以外) (4.4%)	陸上競技 (マラソン駅伝以外) (2.7%)	武道・格闘技 (3.2%)	ゴルフ (4.2%)	サッカー・ フットサル (3.4%)
5	バドミントン (1.5%)	バレーボール・ ソフトバレーボール (2.4%)	バレーボール・ ソフトバレーボール (1.5%)	ラグビー (3.2%)	テニス・ ソフトテニス (2.9%)	テニス・ ソフトテニス (3.1%)

表 6

全ての年代において、「野球・ソフトボール」は 1 位もしくは 2 位以内に入っており、人気の高い種目となった。4 位・5 位には、いずれも割合が低いものの、各年代様々な種目が入った。
「50 代」では、2019 年にワールドカップの開催を迎える「ラグビー」が 5 位に入った。
また、「70 代」では、実施した種目で 4 位に入っていた「ゴルフ」が観戦種目でも 3 位に入った (P.20 表 2 参照)。「ゴルフ」は、「する」・「観る」両面から高い結果を得る種目となった。

2-11 会場観戦の理由

(1) 過年度比較

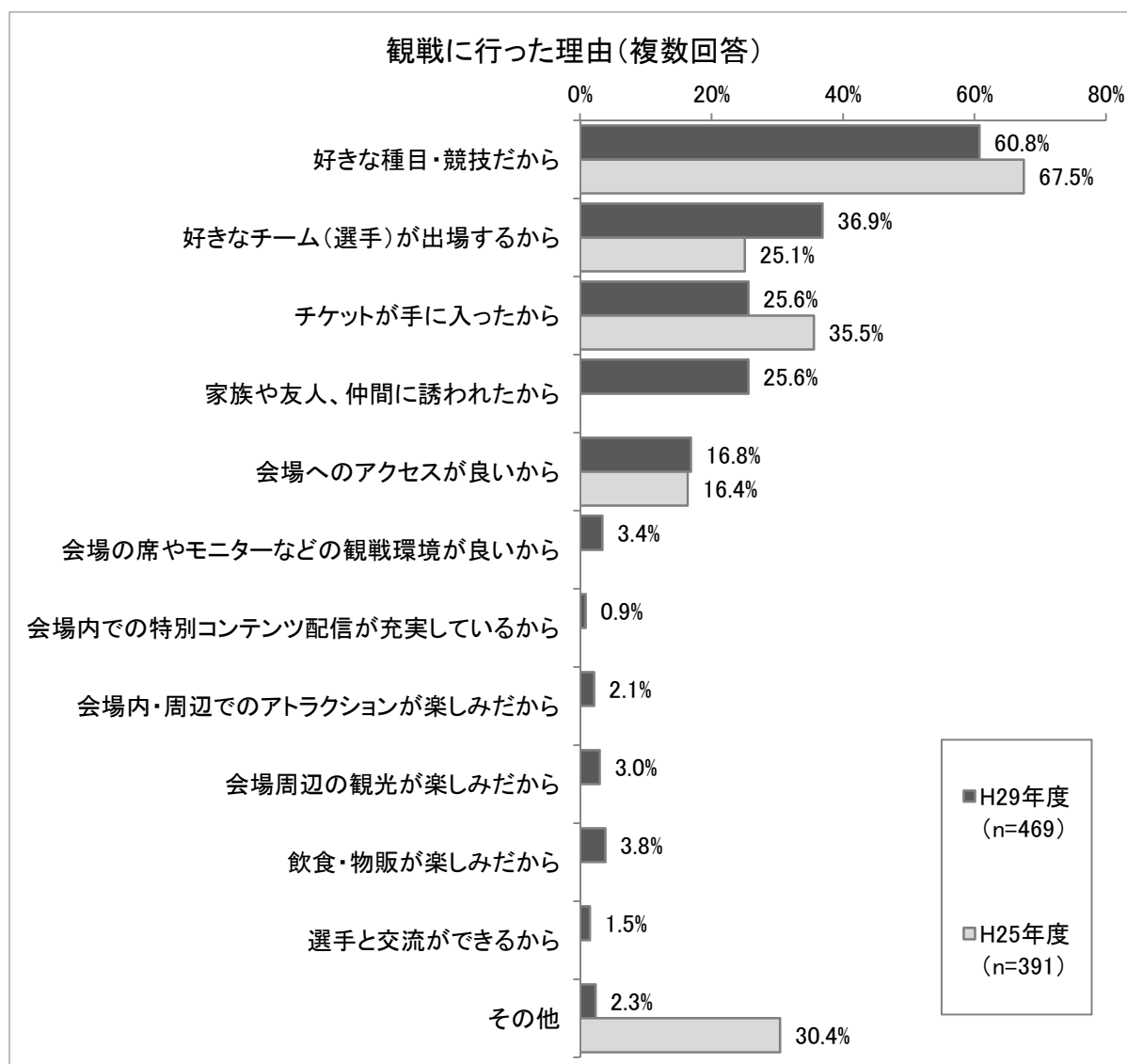


図 36

(※前回調査は H25 年度に実施)

観戦理由は、「好きな種目・競技だから」(60.8%)、「好きなチーム(選手)が出場するから」(36.9%)、「チケットが手に入ったから」(25.6%)、「家族や友人、仲間に誘われたから」(25.6%)となった。

以前調査を行った 25 年度と比較すると、「チケットが手に入ったから」の割合が約 10 ポイント減少し、「好きなチーム(選手)の出場」が 2 位に入った。

「チケットの入手」だけでなく、「好きな種目・競技・チーム・選手の出場」をきっかけとした、観戦に対する積極的な理由が伸びた結果となった。好きな競技やチームづくりがきっかけとなり、観戦率の向上につながることも想定できる。

(2) 性別による比較

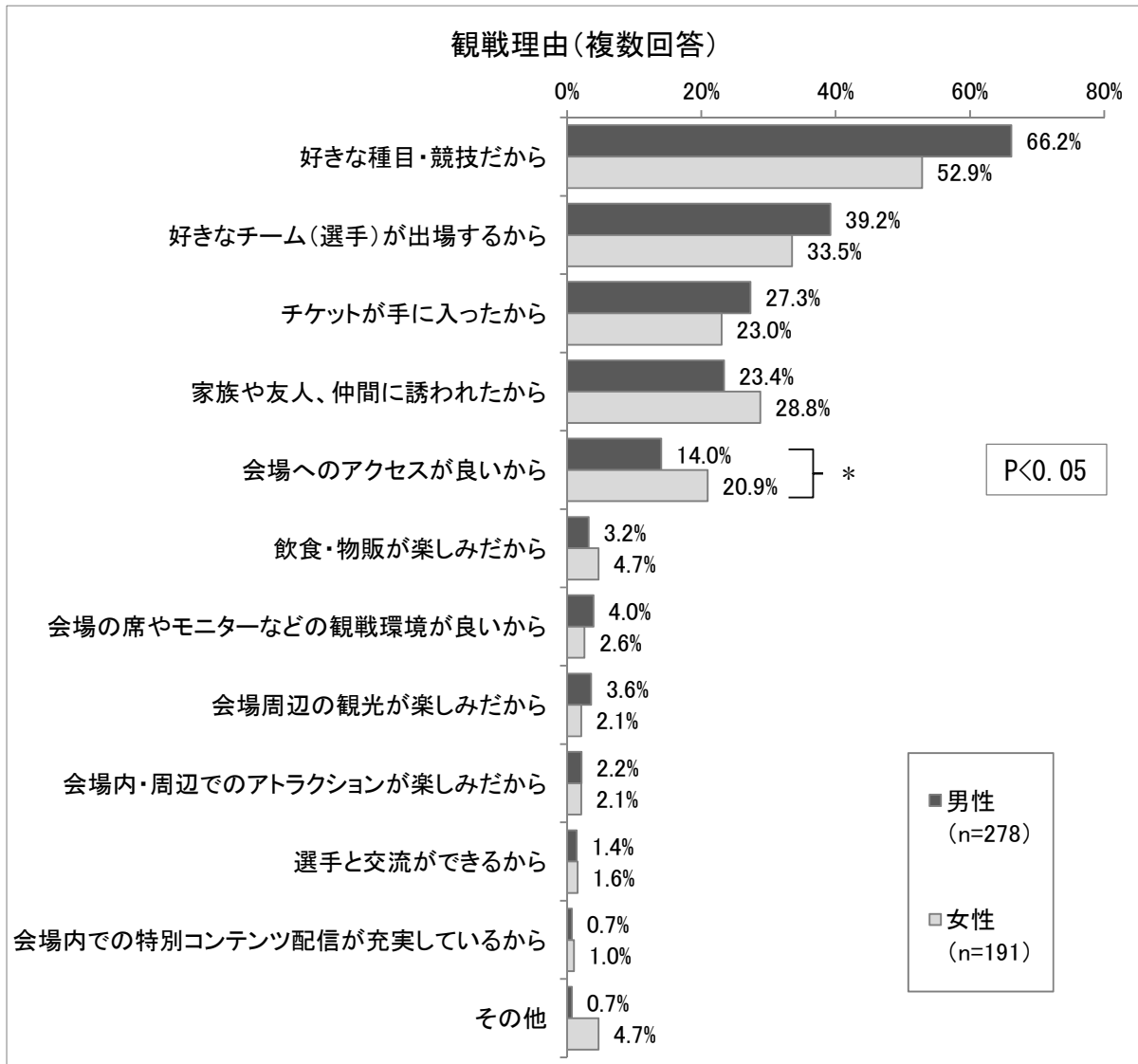


図 37

「男性」・「女性」ともに、「好きな種目・競技だから」が1位となり、「好きなチーム(選手)が出場するから」が続く。

「女性」は、「家族や友人、仲間に誘われたから」(28.8%)が「男性」よりも高く、5.4ポイントの差が出た。観戦には、家族や友人・仲間との交流も重要視していることが考えられる。

また、「会場へのアクセスが良いから」(20.9%)も比較的高く、「男性」との差は6.9ポイントとなり、有意に差があった。ハード面での観戦環境整備も求める結果となった。

(3) 年代による比較

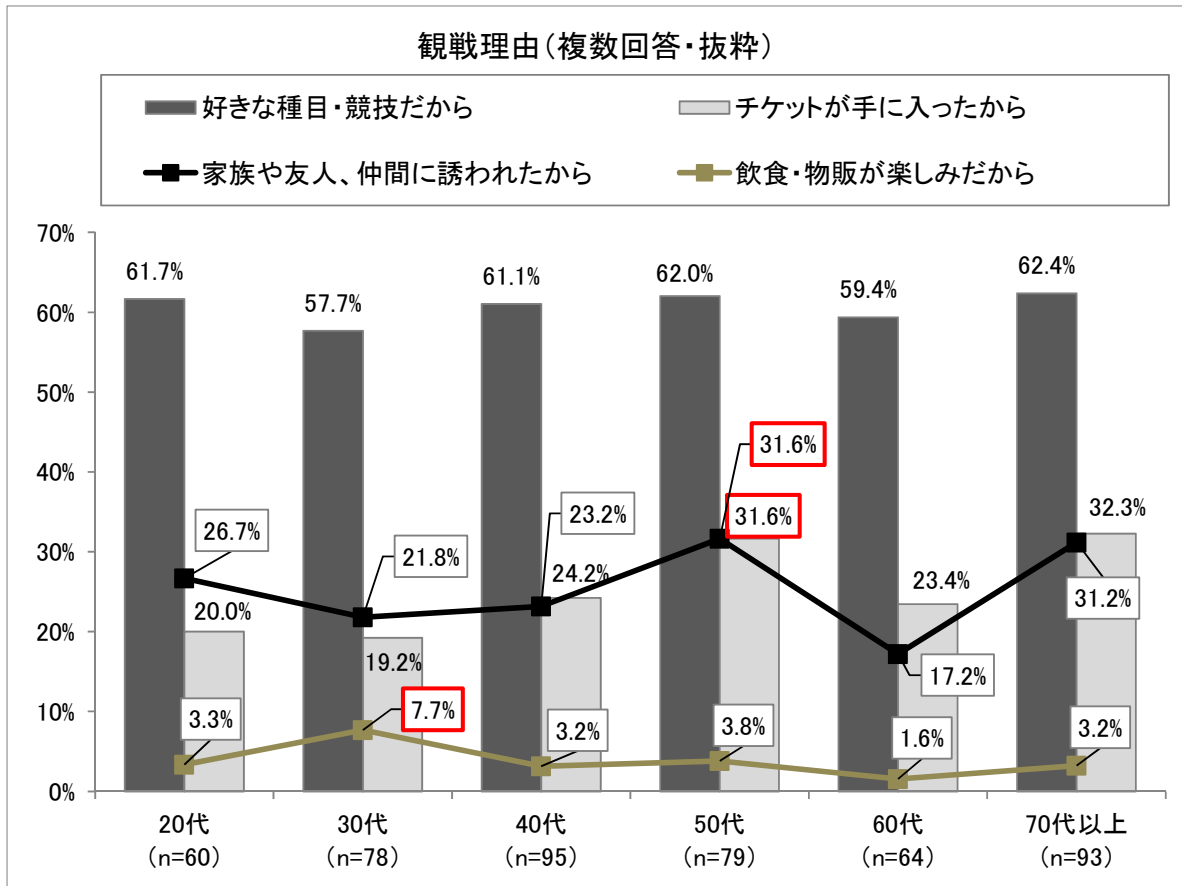


図 38

いずれの年代においても、「好きな種目・競技だから」が1位となった。

観戦率が最も高かった「50代」(P.23 図 30 参照)では、「チケットが手に入ったから」が31.6%となり、他の年代と比較すると高い傾向となった。また、「家族や友人、仲間に誘われたから」も31.6%となり比較的高い結果となった。

また、観戦率が50代に次いで高かった「30代」では、「飲食・物販が楽しみ」が7.7%となり、他の年代と比較すると高い結果となった。

2-12 会場観戦に誰と行ったか

(1) 単純集計

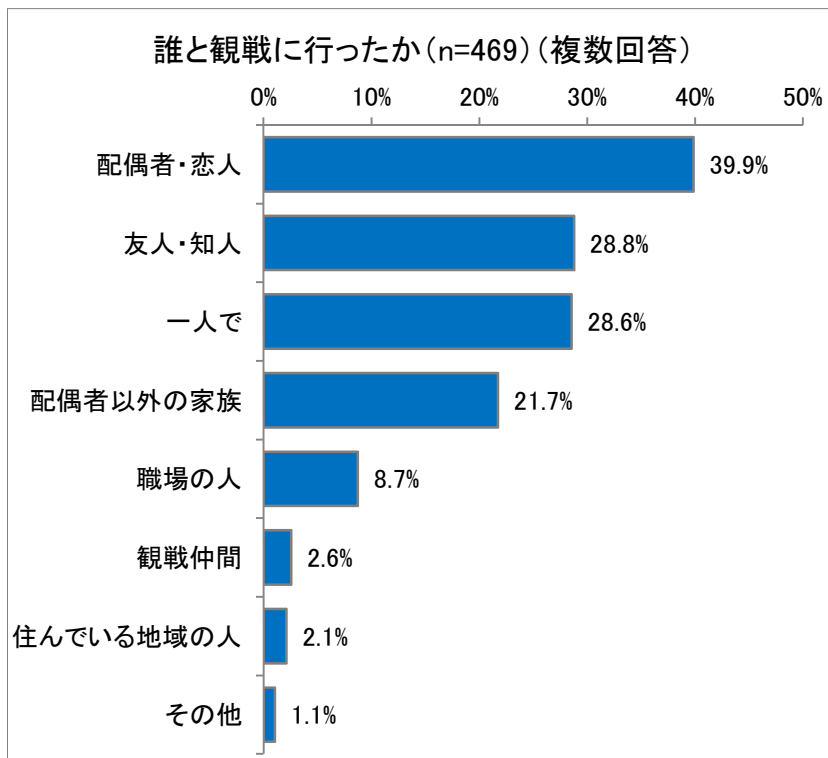


図 39

観戦と一緒にいった相手は、「配偶者・恋人」が40%近くになり、最も高くなった。次いで、「友人・知人」(28.8%)となった。

一方で、「一人で」の割合も比較的高く、30%近い結果となった。

また、「職場の人」は8.7%にとどまり、観戦と職場との間にあまり関係性は見られなかった。

(2) 性別による比較

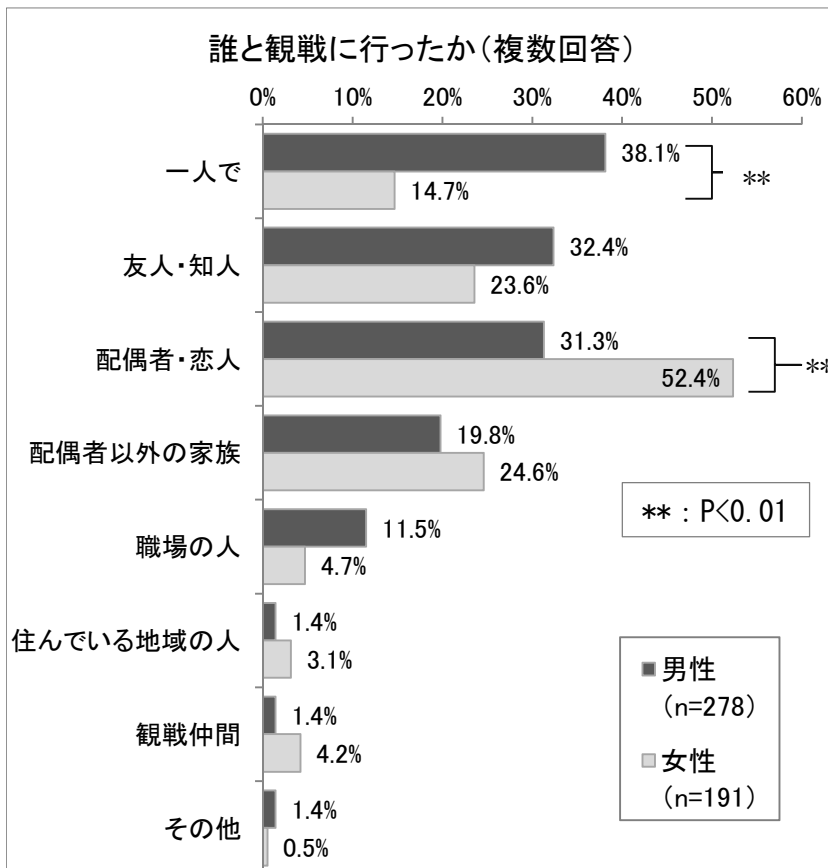


図 40

「男性」は、「一人で」観戦に行った割合が38.1%と非常に高く、「女性」とは有意に差があった。

一方「女性」は、「配偶者・恋人」と観戦した割合が52.4%と過半数を越えており、非常に高い結果となった。「男性」に対しては、有意に差があった。

「女性」の観戦理由が、「家族や友人、仲間に誘われたから」とする回答が高かったことから (P.30 図 37 参照)、この結果も同様の結果を得ることとなった。

また、「女性」は、「配偶者以外の家族」(24.6%)とも観戦に出かけることが多く、個人よりも複数人で観戦することが多いことから、複数人による観戦環境の整備も求められる。

(3) 年代別による比較

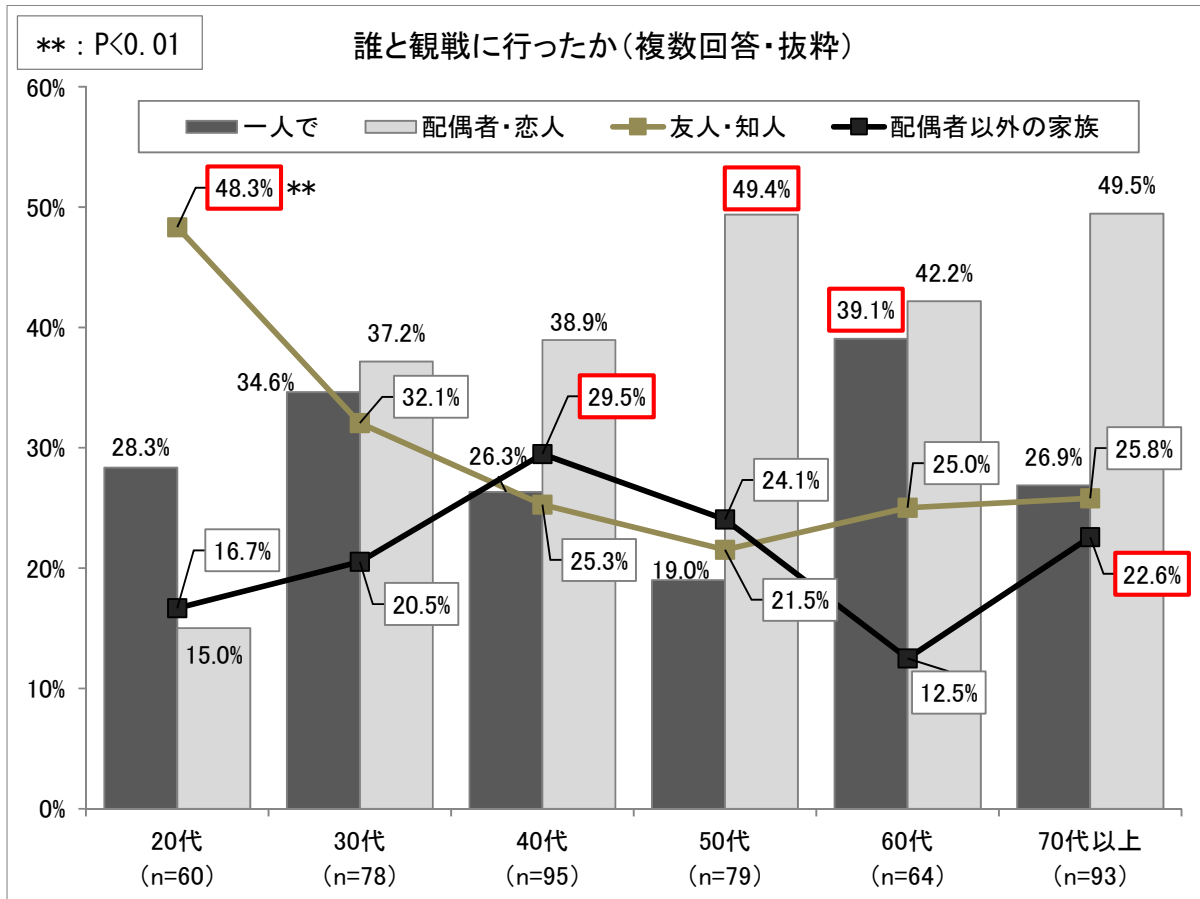


図 41

「20代」は、「友人・知人」との観戦が48.3%と圧倒的に高く、「40代」・「50代」・「60代」・「70代以上」のそれぞれに対して有意に差があった。

「50代」・「70代以上」は、「配偶者・恋人」の割合が高くなった。P.24 図 31 にあったように、男女間における観戦率の差が低かった背景は、ここにあったと言える。

また、「40代」は、「配偶者以外の家族」と回答する割合が29.5%とどの年代よりも高く、「子ども」との観戦なども推測される。また、「70代以上」でも同様に「配偶者以外の家族」との回答が22.6%と比較的高く、「孫や子ども」との観戦が推測される。

一方で、「60代」は、「一人で」の観戦率が39.1%と高く、自身が見たい種目を自由に観戦している様子が伺える。

2-13 今よりも観戦に出かけるようになるきっかけ

(1) 過年度比較

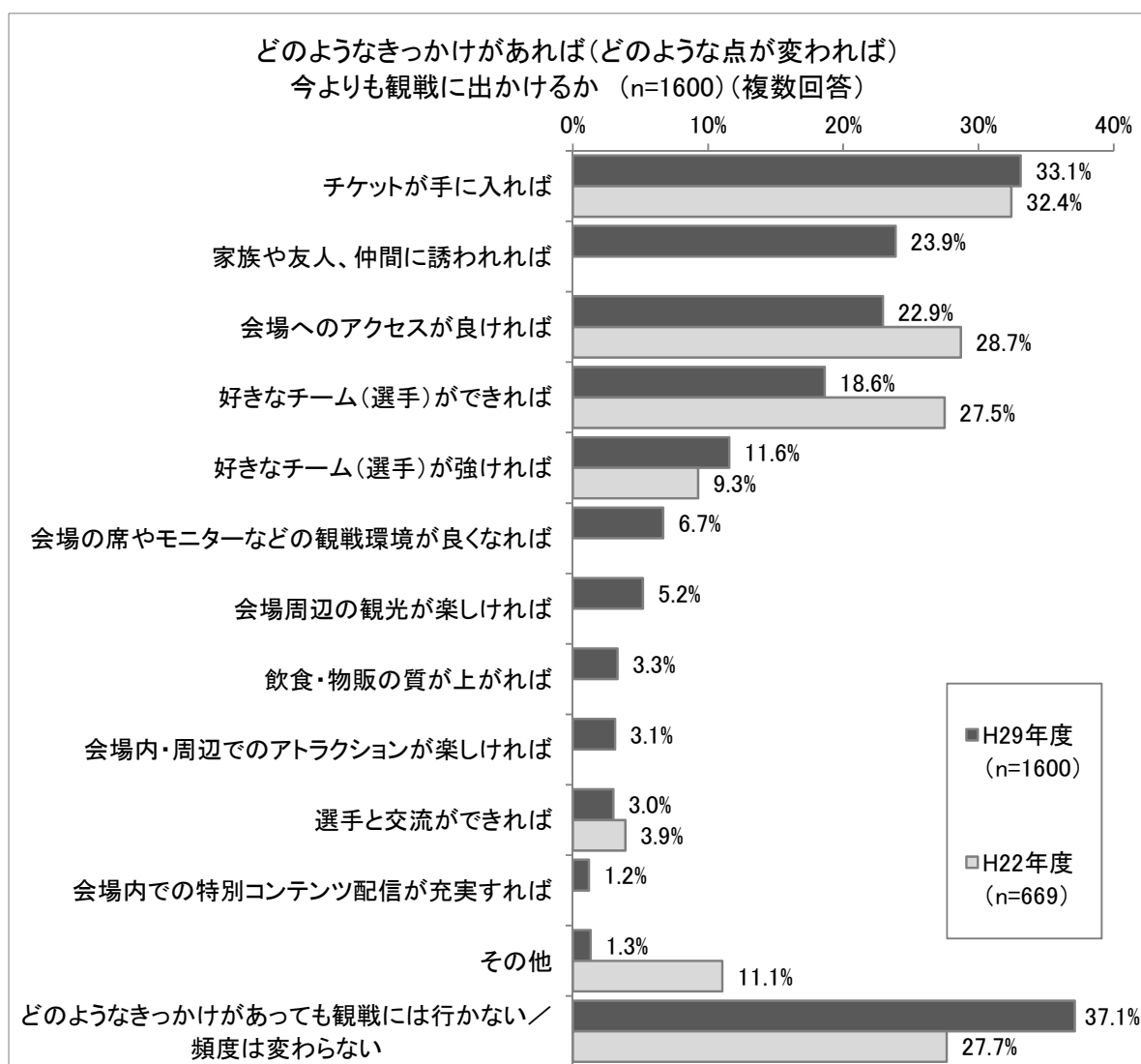


図 42

(※前回調査は H22 年度に「非観戦者」に対して実施)

今よりも観戦に出かける理由としては、「チケットが手に入れば」(33.1%)、「家族や友人、仲間に誘われれば」(23.9%)、「会場へのアクセスが良ければ」(22.9%)となった。

非観戦者も含めた調査のためか、観戦の理由として挙げられていた「好きなチーム(選手)」に関する理由よりは、「チケットの入手」や「誰かからの誘い」という消極的な理由が上位に入る結果となった。

以前調査を行った 22 年度(観戦していない方だけに調査)とは一概には比較できないものの、上位に入った項目順位に大きな変動は見られなかった。

(2) 性別による比較

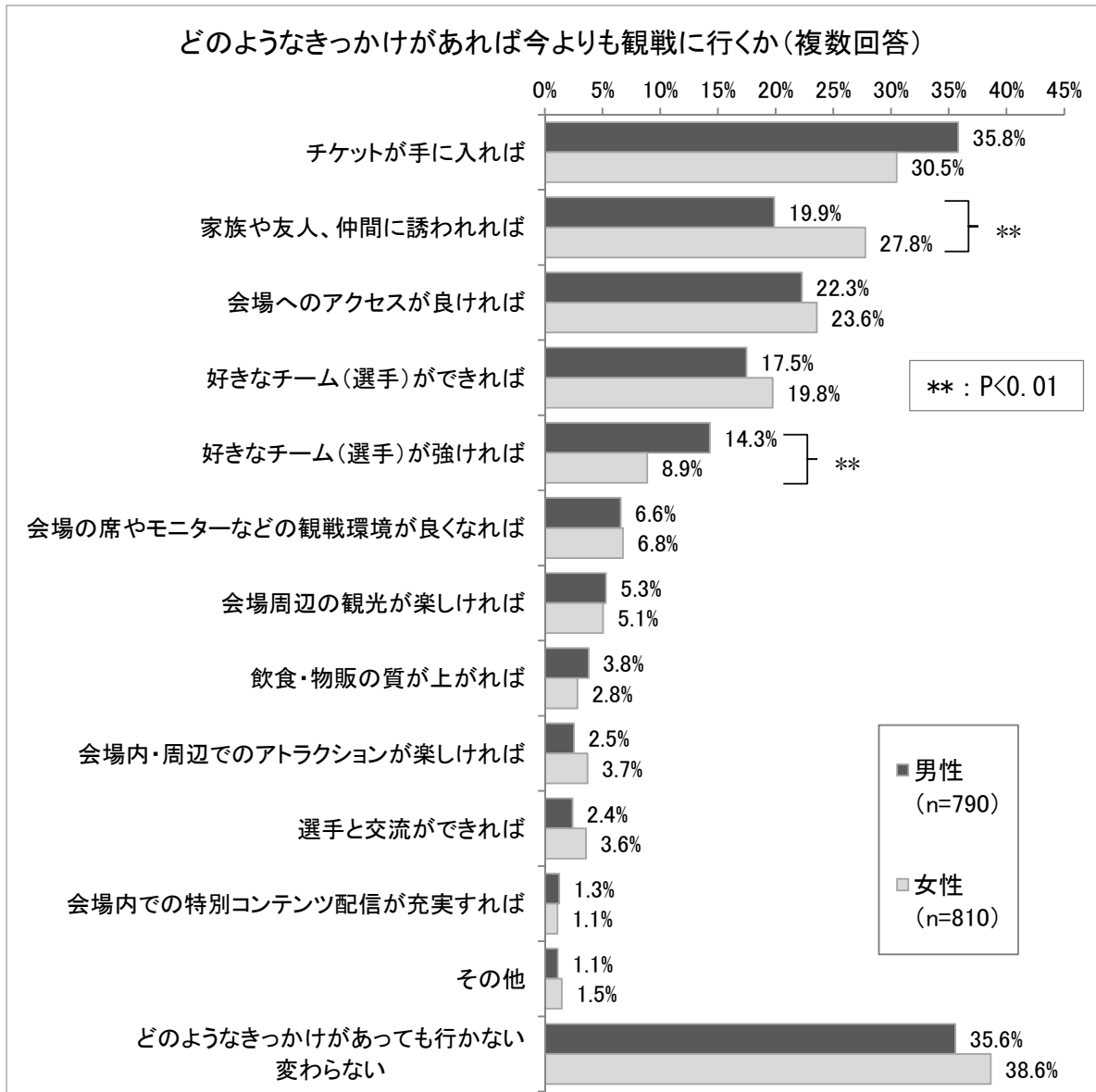


図 43

「男性」・「女性」ともに、「チケットが手に入れば」が最も高くなった。

「女性」は、ここまでに見てきた観戦理由 (P.30 図 37 参照) や観戦への同行者 (P.32 図 40 参照) と同様に、「家族や友人、仲間に誘われれば」(27.8%) が 2 位に入り、「男性」との差は 8 ポイント近くなり、有意に差があった。

一方で、「男性」は、「女性」よりも「好きなチーム(選手)が強ければ」(14.3%) も高く、「女性」に対して有意に差があった。

(3) 年代による比較

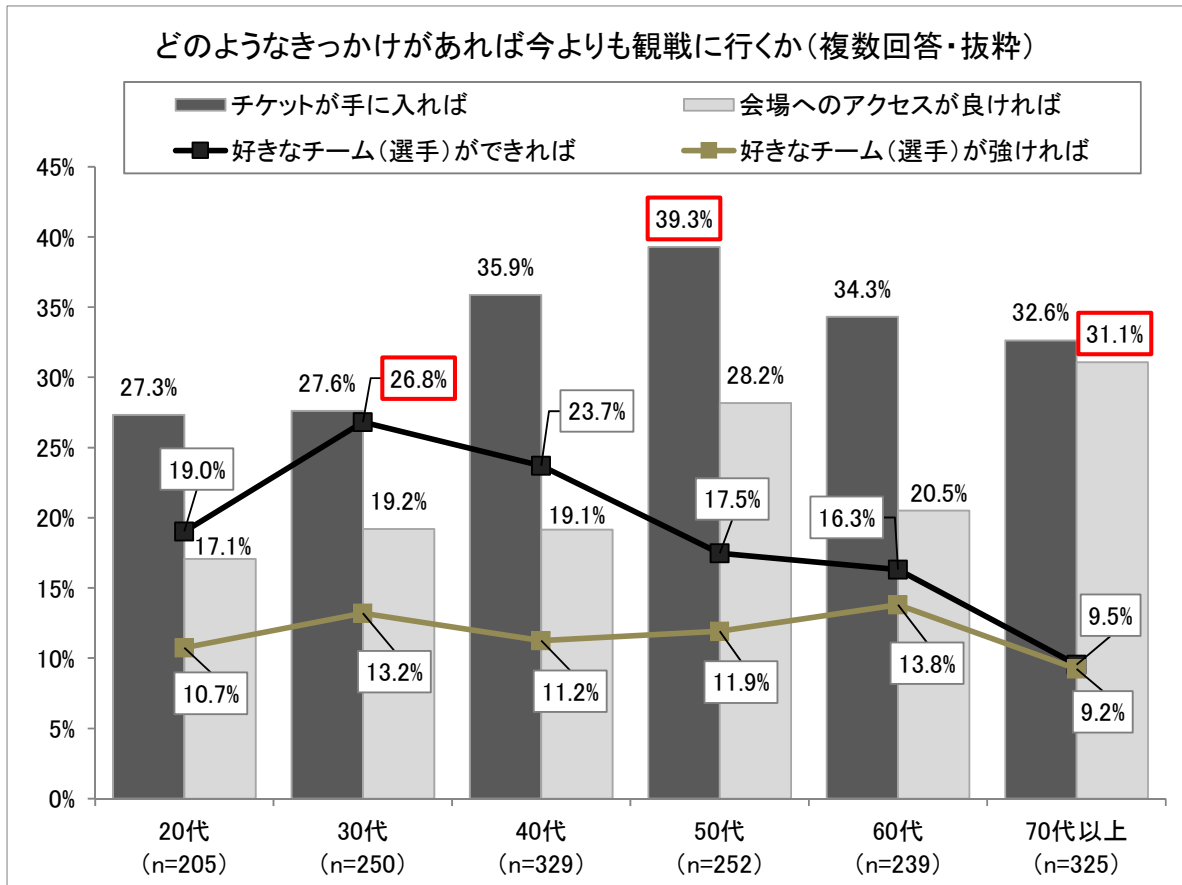


図 44

いずれの年代においても、「チケットが手に入れば」が最も高かった。

観戦率が高く (P.23 図 30 参照)、観戦理由 (P.31 図 38 参照) も「チケットが手に入れば」が 1 位となっていた「50 代」は、他の年代と比較すると「チケットが手に入れば」が 39.3%と高い結果となった。

観戦率が 50 代に次いで高かった「30 代」では、「好きなチーム(選手)ができれば」が 26.8%と他の年代と比較すると高い結果となった。

また、「70 代以上」では、「会場へのアクセスが良ければ」が 31.1%と比較的高い結果となった。

2-14 過去1年間の観戦チケット代金

(1) 単純集計

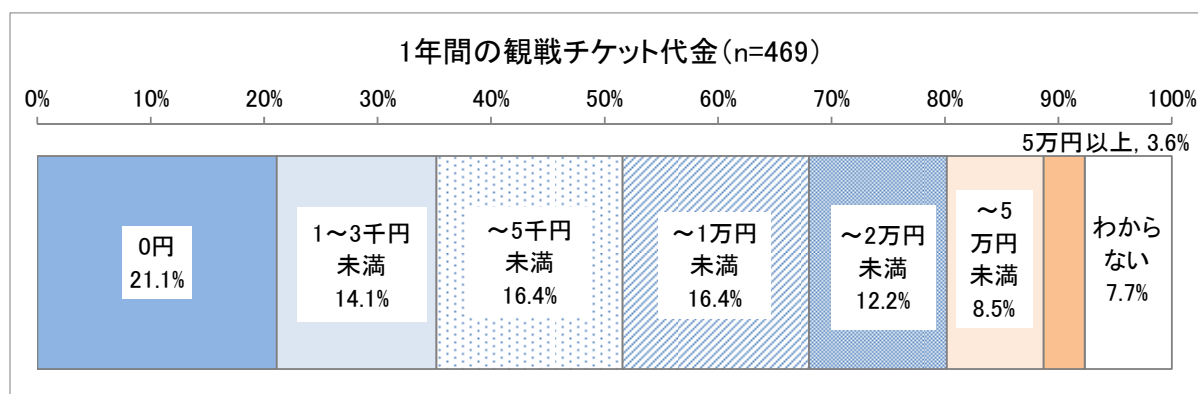


図 45

観戦者が払ったチケット代金は、「0円」(21.1%)、「3千円~5千円未満」(16.4%)、「5千円~1万円未満」(16.4%)となった。

有料で観戦した割合が約70%となっており、中でも、「1万円未満」の割合が約50%近くに達する結果となった。

(2) 性別による比較

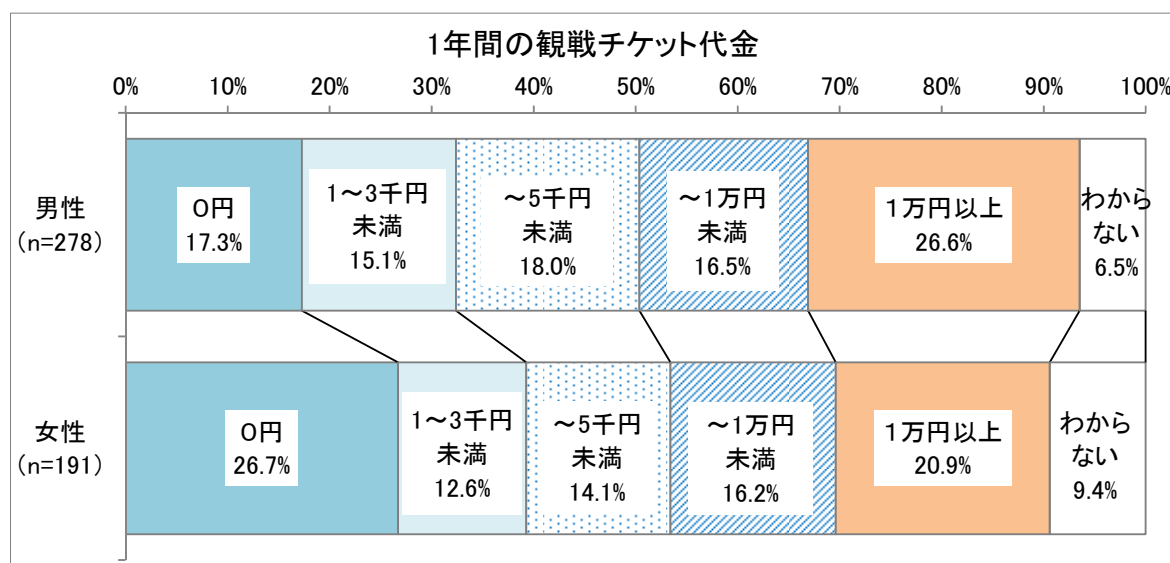


図 46

「男性」は、30%近くが「1万円以上」をチケット代に費やしている結果となった。一方で、「女性」は、「1万円以上」を費やしている割合が20%程度にとどまる結果となった。

「0円」で観戦した割合は、「男性」よりも「女性」の方が高く、10ポイント近い差が出たが、有意差はなかった。「男性」の方が、観戦に比較的金をかけている結果となった。

(3) 年代による比較

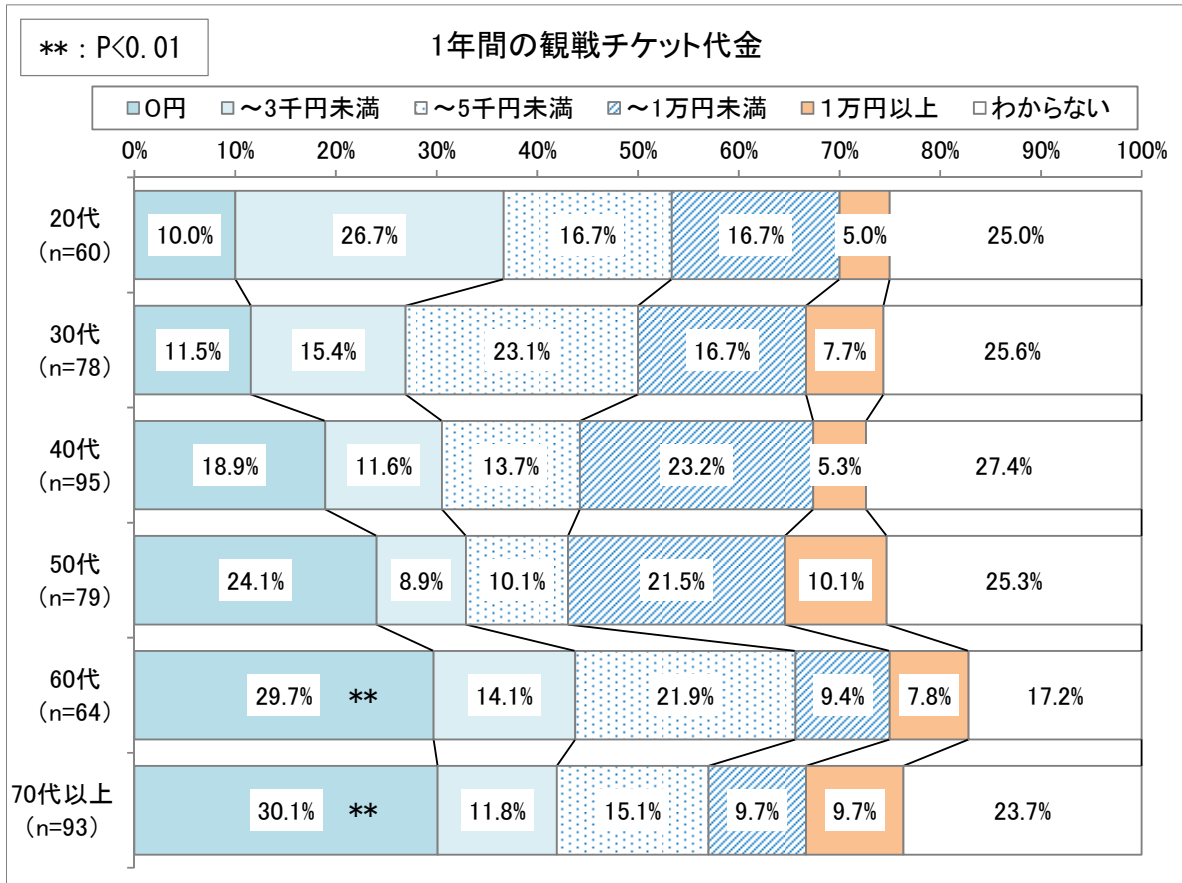


図 47

年代が上がるにつれて「0円」での観戦割合が高くなった。「60代」は、「20代」・「30代」に対して有意差があった。また、「70代以上」も、「20代」・「30代」に対して有意差があった。

特に、「60代」・「70代以上」では、「マラソン（駅伝含む）」の観戦者が15.7%（P.28表6参照）と比較的高いためか、30%近くが「0円」で観戦している結果となった（「0円」回答者の内70～80%がマラソン観戦者）。

観戦率が高かった「50代」（P.23図30参照）は、「1万円以上の割合が他の年代より比較的高くなった。また、有料で観戦している中では、20代から50代にかけて、年代が上がるにつれて金額が高くなる傾向が見られた。

2-15 今後会場で観戦したいプロスポーツ・トップアスリートの試合

(1) 前年度比較

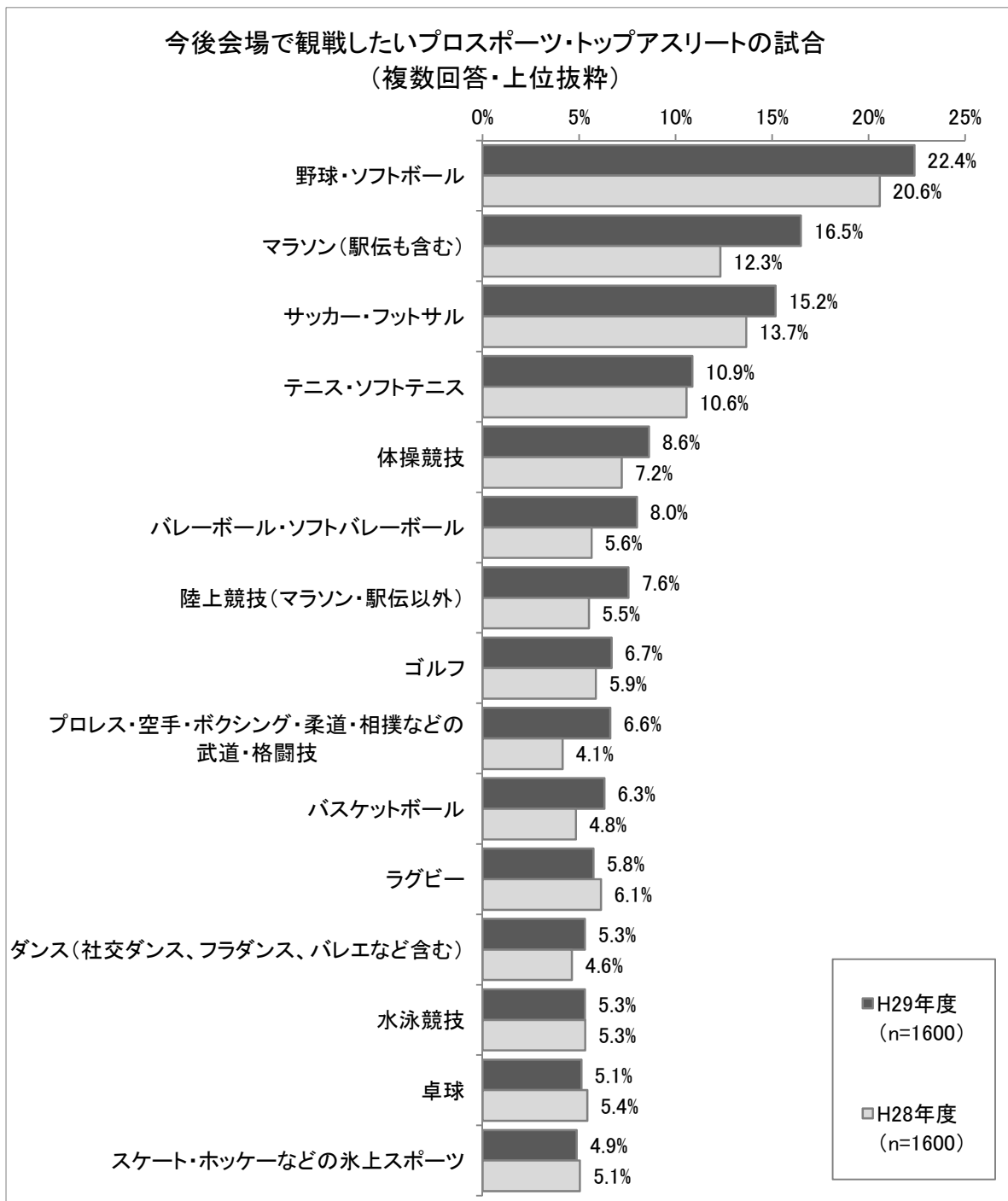


図 48

今後観戦したいスポーツは、観戦した種目と同様（P.27 図 35 参照）、「野球・ソフトボール」（22.4%）、「マラソン（駅伝含む）」（16.5%）、「サッカー・フットサル」（15.2%）となった。28年度は2位に入っていた「サッカー・フットサル」が、ポイントは伸ばしたものの、3位に下がった。

(2) 性別による比較

	男性 (n=790)	女性 (n=810)
1	野球・ソフトボール (31.0%) **	マラソン (駅伝も含む) (18.1%)
2	サッカー・フットサル (19.9%)	野球・ソフトボール (14.0%)
3	マラソン (駅伝も含む) (14.8%)	テニス・ソフトテニス (12.1%)
4	ゴルフ (10.3%)	体操競技 (11.7%) **
5	テニス・ソフトテニス (9.6%)	サッカー・フットサル (10.6%)

表 7

** : P<0.01

「男性」は、「野球・ソフトボール」が最も高く、「女性」との差は 10 ポイント以上となり、有意に差があった。2 位以下は、「サッカー・フットサル」・「マラソン (駅伝含む)」と続いた。「女性」は、「マラソン (駅伝含む)」が最も高く、「野球・ソフトボール」が続いた。

「テニス・ソフトテニス」は「男性」で 5 位、「女性」の 3 位に入った。また、「女性」は、4 位に「体操競技」が入っており、「男性」に対して有意に差があった。

(3) 年代による比較

	20 代 (n=205)	30 代 (n=250)	40 代 (n=329)	50 代 (n=252)	60 代 (n=239)	70 代以上 (n=325)
1	野球・ソフトボール (24.4%)	野球・ソフトボール (22.8%)	野球・ソフトボール (23.4%)	野球・ソフトボール (22.6%)	マラソン (駅伝含む) (20.9%)	マラソン (駅伝含む) (26.8%)
2	サッカー・フットサル (17.6%)	サッカー・フットサル (16.8%)	サッカー・フットサル (14.0%)	サッカー・フットサル (16.7%)	野球・ソフトボール (20.5%)	野球・ソフトボール (20.9%)
3	バレーボール・ソフトバレーボール (9.3%)	マラソン (駅伝含む) (12.4%)	マラソン (駅伝含む) (11.6%)	マラソン (駅伝含む) (16.7%)	サッカー・フットサル (14.6%)	体操競技 (15.7%)
4	マラソン (駅伝含む) (7.8%)	武道・格闘技 (11.6%)	テニス・ソフトテニス (9.1%)	テニス・ソフトテニス (15.5%)	体操競技 (13.0%)	サッカー・フットサル (12.9%)
5	テニス・ソフトテニス (7.8%)	テニス・ソフトテニス (8.8%)	バスケットボール (9.1%)	バレーボール・ソフトバレーボール (12.3%)	テニス・ソフトテニス (12.6%)	ゴルフ (11.7%)

表 8

全ての年代において、「野球・ソフトボール」は 1 位もしくは 2 位以内に入っており、観戦した種目 (P.28 表 6 参照) と同様、観戦したい種目としても人気が高くなった。

4 位・5 位には、観戦した種目とは異なる種目が入る傾向となった。

「20 代」は「バレー・ソフトバレーボール」、「30 代」は「武道・格闘技」、「40 代」は「バスケットボール」、「60 代」・「70 代以上」は「体操競技」が入った。また、「20~50 代」では、「テニス・ソフトテニス」が入った。

2-16 お子さんが過去1年間に会場で観戦したプロスポーツ・トップアスリートの試合

(1) 単純集計

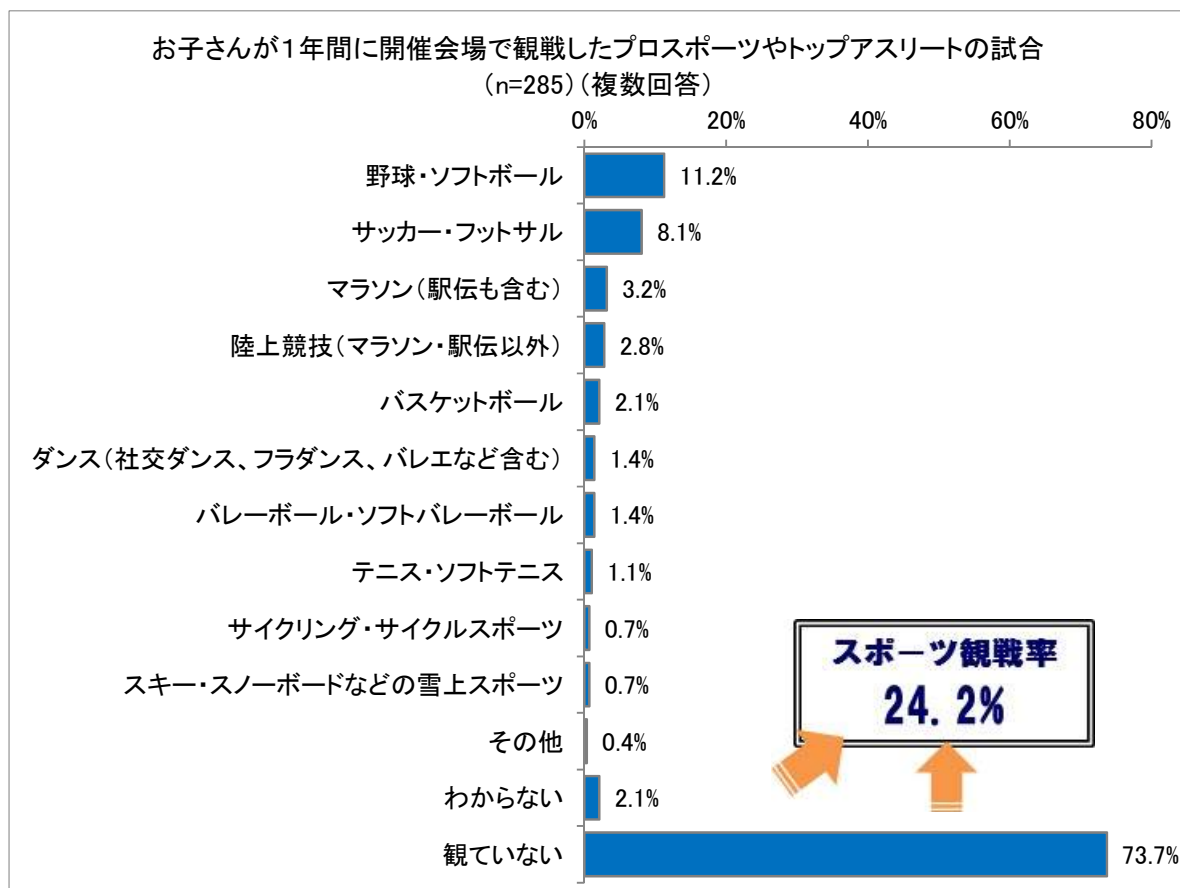


図 49

高校生以下のお子さんが1年間に観戦した種目は、「野球・ソフトボール」(11.2%)、「サッカー・フットサル」(8.1%)となった。

成人とは異なり、観戦種目がほぼ上位2種目に限られる結果となった。「観ていない」が73.7%、「わからない」が2.1%となったため、観戦率は24.2%となった。

(2) 観戦頻度

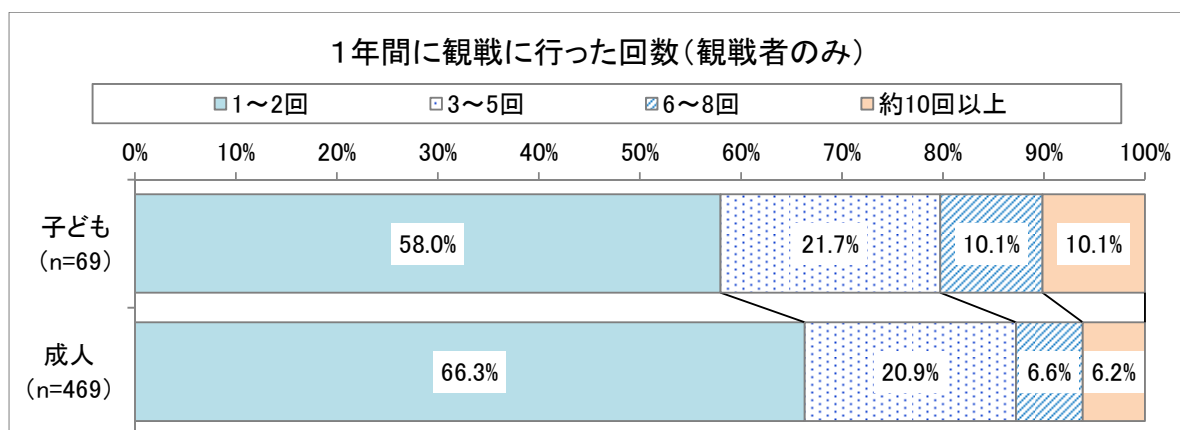


図 50

観戦の頻度は、「1~2回」が圧倒的に高く、「3~5回」が続いた。

「6~8回」・「約10回以上」が「子ども」の方が高く、成人よりも比較的頻度が高い傾向となった。

2-17 過去1年間に行ったスポーツボランティア活動

(1) 前年度比較

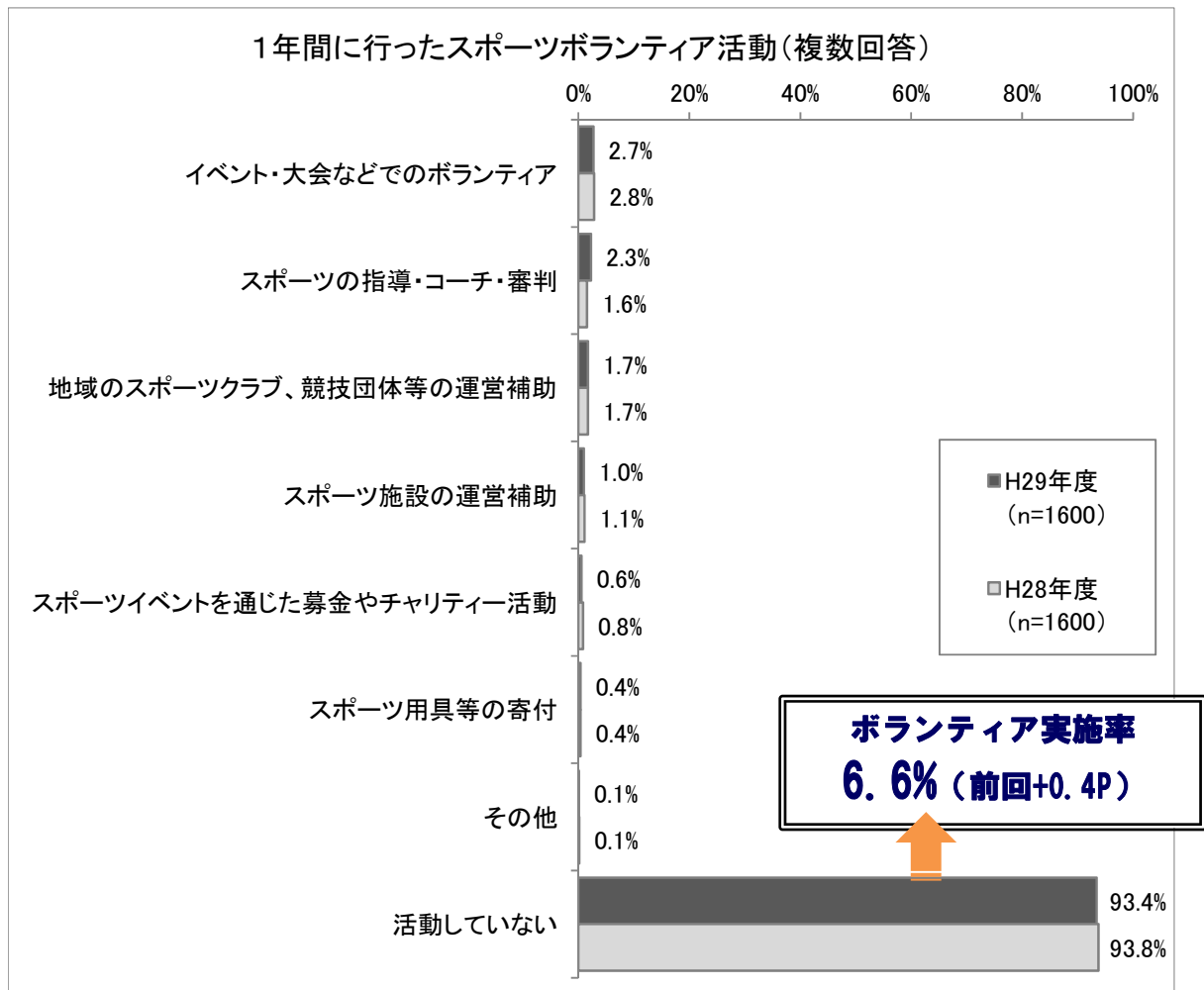


図 51

1年間に行ったスポーツボランティア活動は、「イベント・大会などでのボランティア」(2.7%)、「スポーツの指導・コーチ・審判」(2.3%)となった。「活動していない」が、93.4%となったため、実施率は6.6% (前回+0.4ポイント) となった。

28年度と比較しても、実施率・実施項目に大きな差は見られなかった。

(2) 性別・年代別による実施率比較

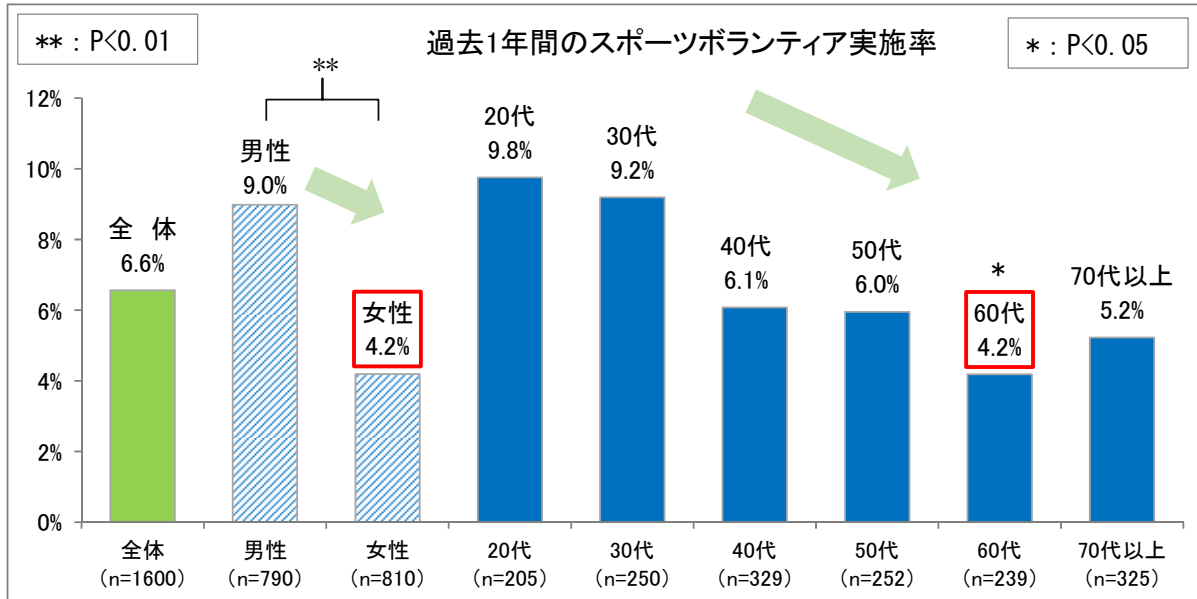


図 52

全回答者の実施率 6.6%に対し、「男性」は9.0%、「女性」はわずか 4.2%となり、有意差があった。「男性」の方が、「女性」よりもスポーツボランティアの実施率が高い結果となった。

各年代を比較すると、「20代」・「30代」の実施率が比較的高く、「40代」になると6.1%と3ポイント以上下がり、「60代」が4.2%と最も低くなる結果となった。「60代」は、「20代」・「30代」に対して、有意に差があった。

年齢層が低いほど、スポーツボランティア活動を実施している傾向となった。

(3) 性年代別による実施率比較

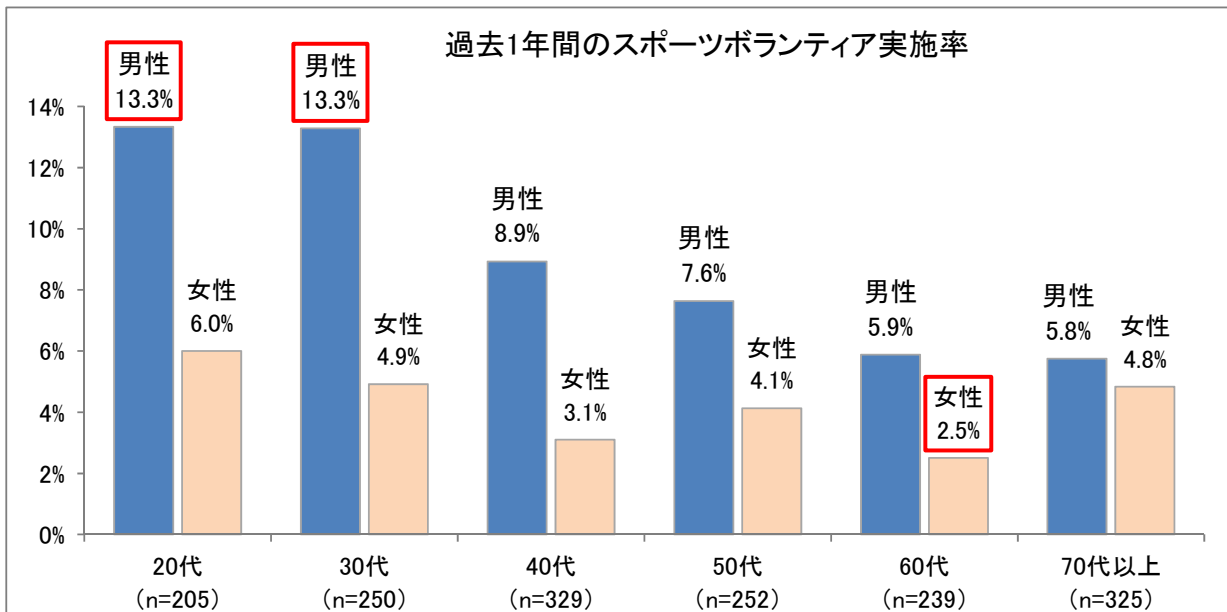


図 53

性年代別で比較すると、実施率が低かった60代の中でも、「60代女性」がわずか2.5%となり、他の年代と比較しても大幅に低い結果となった。また、「40代女性」の実施率もわずか3.1%にとどまった。

一方で、「20代男性」・「30代男性」は実施率が最も高く、13%を越える結果となった。「男性」は年代が上がるにつれて、実施率が下がる傾向にある。

2-18 スポーツボランティア活動への参加理由

(1) 単純集計

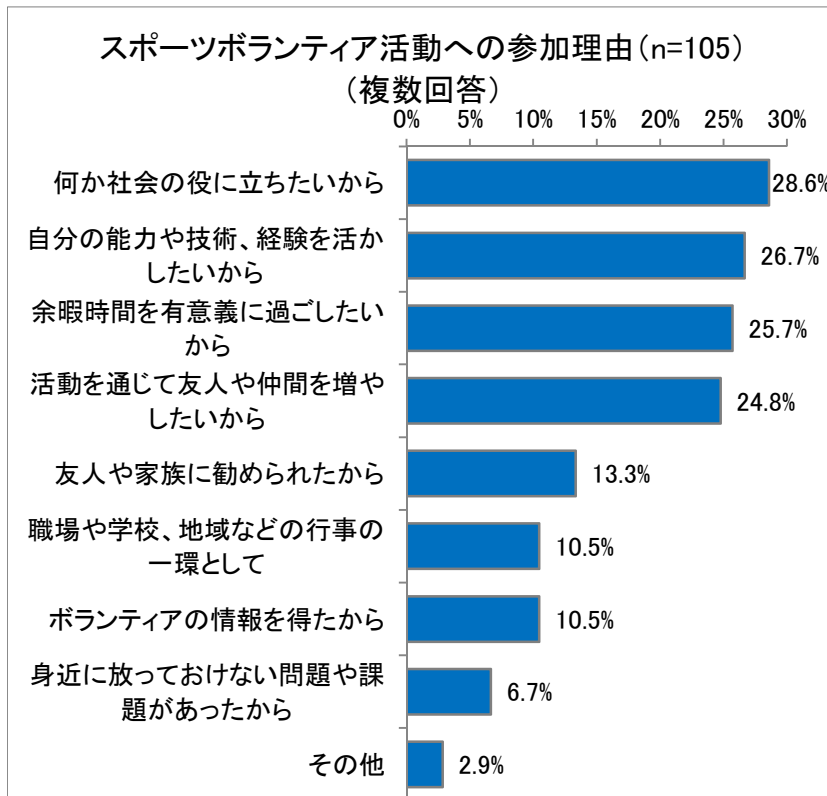


図 54

スポーツボランティア活動への参加理由は、「何か社会の役に立ちたいから」(28.6%)、「自分の能力や技術、経験を活かしたいから」(26.7%)、「余暇時間を有意義に過ごしたいから」(25.7%)、「活動を通じて友人や仲間を増やしたいから」(24.8%)となった。
参加理由は、主体的な理由が上位に入る傾向となった。

(2) 性別による比較

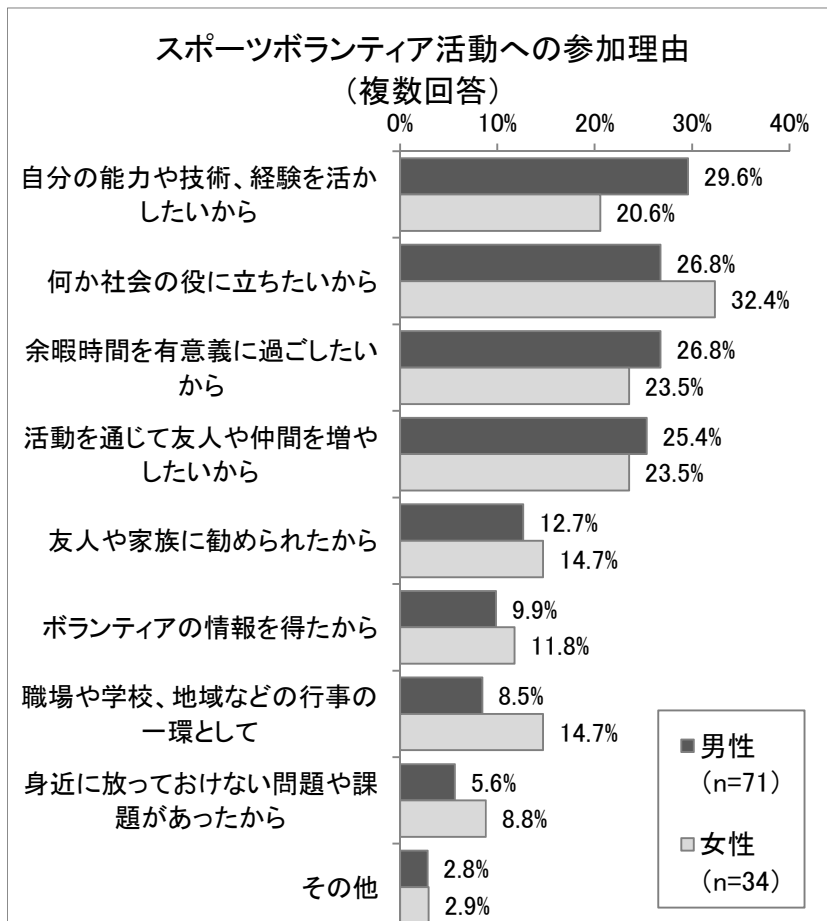
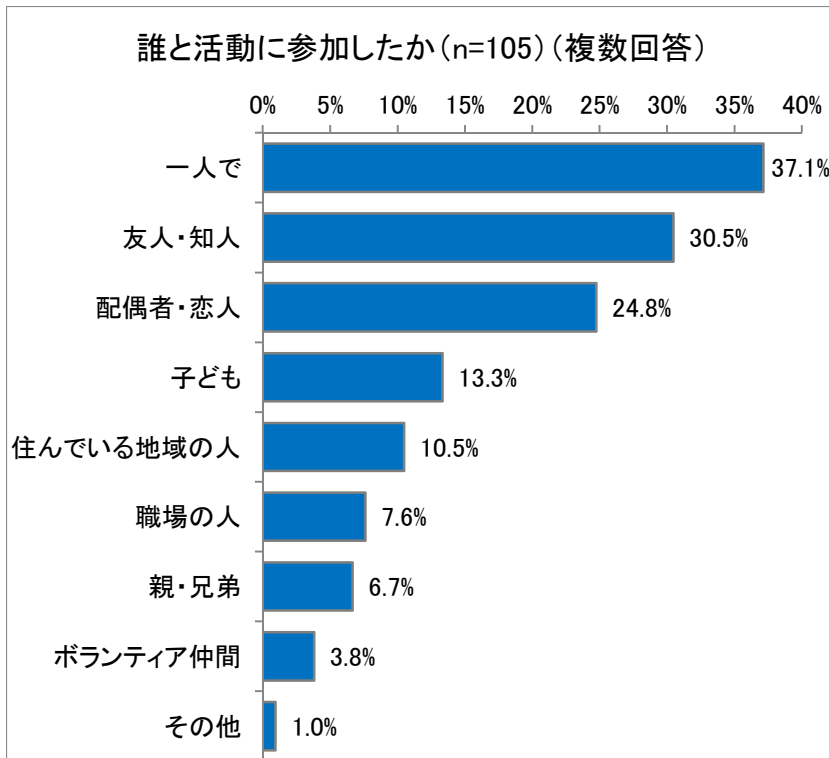


図 55

「男性」は、「自分の能力や技術、経験を活かしたいから」(29.6%)が最も高くとなり、「女性」とは10ポイント近い差が出たが、有意差はなかった。
一方「女性」は、「何か社会の役に立ちたいから」が最も高くとなり、30%を越える結果となった。
また、「女性」は、「職場や学校、地域などの行事の一環として」も14.7%と高く、「男性」とは6ポイント以上の差が出たが有意差はなかった。
男性よりは、周囲の環境に影響される結果となった。

2-19 スポーツボランティア活動への参加仲間

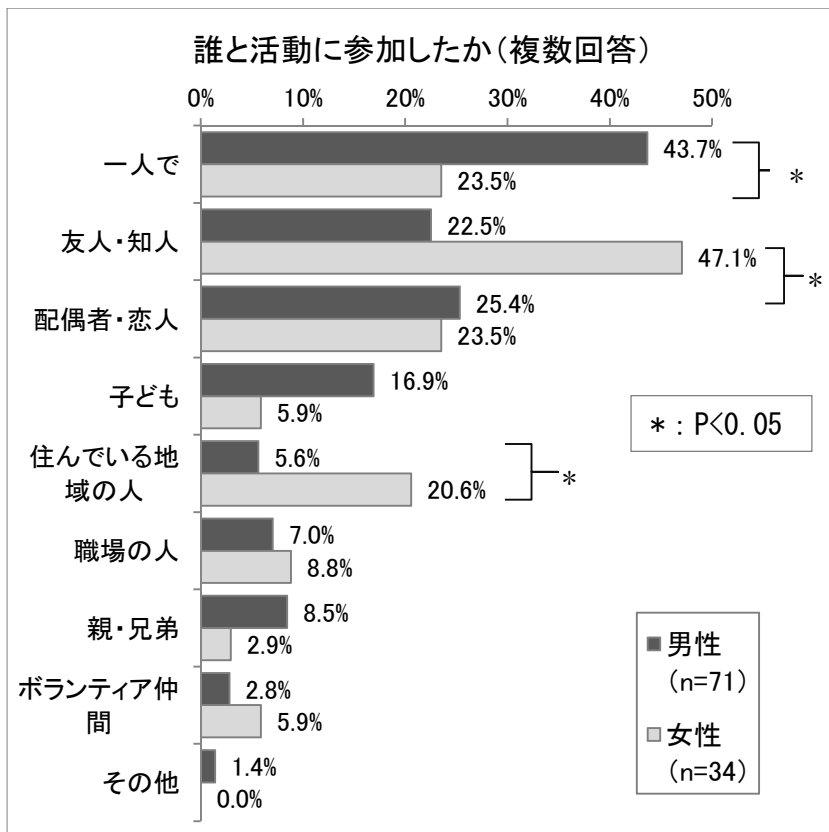
(1) 単純集計



スポーツボランティア活動に参加したのは、「一人で」(37.1%)、「友人・知人」(30.5%)、「配偶者・恋人」(24.8%)となった。「一人で」参加した割合が最も高かったが、「友人・知人」「配偶者・恋人」と参加した割合も高くなった。

図 56

(2) 性別による比較



「男性」は半数近くが「一人で」となり、「女性」とは有意差があった。

「女性」は半数近くが「友人・知人」となり、「男性」とは有意差があった。

また、「男性」は、「子ども」と参加した割合も 16.9%と高く、「女性」とは 10 ポイント以上の差が出たが、有意差はなかった。

一方「女性」は、「住んでいる地域の人」の割合が 20.6%と高く「男性」とは、15 ポイントもの差があり、有意差があった。

参加理由として、「職場や学校、地域などの行事の一環」が高かったことにつながる結果となった。(P.44 図 55 参照)

図 57

2-20 興味のあるスポーツボランティア活動

(1) 前年度比較

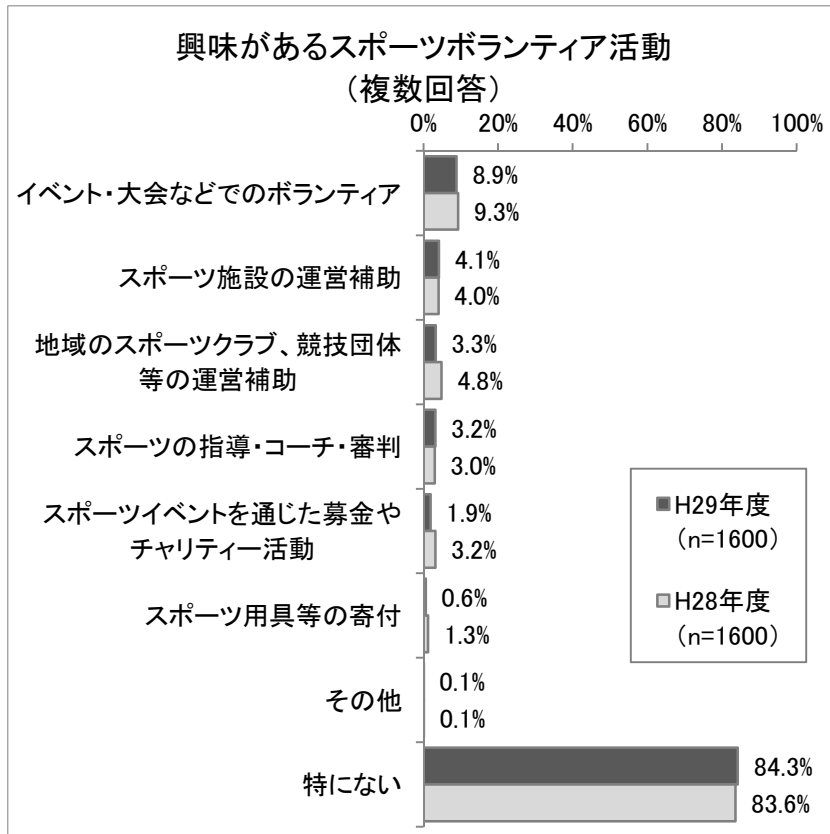


図 58

興味があるスポーツボランティア活動は、「イベント・大会などでのボランティア」(8.9%)、「スポーツ施設の運営補助」(4.1%)となった。

しかし、「特にない」が80%を越えており、スポーツボランティアに関する興味・関心はまだまだ低い状況となった。

28年度と比較しても、傾向に大きな変化は見られなかった。

(2) 性別による比較

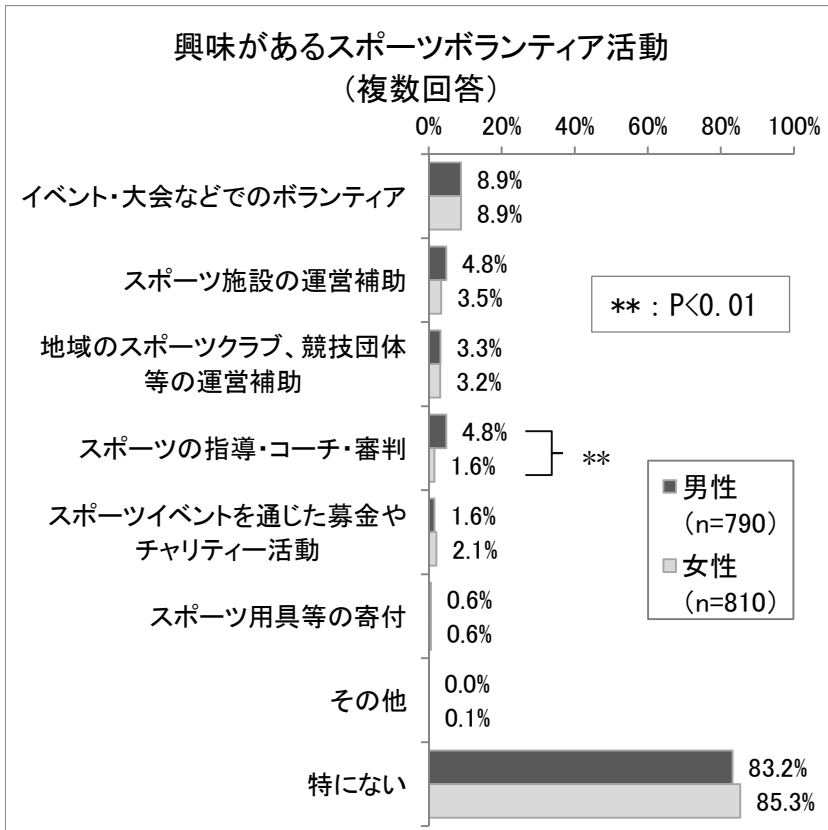


図 59

「男性」・「女性」ともに、「イベント・大会などでのボランティア」が1位となった。

「男性」は、「スポーツの指導・コーチ・審判」が4.8%と比較的高くなっており、「女性」とは有意差があった。

参加理由として、「自分の能力や技術、経験を活かしたいから」が1位に入っていたことにもつながる結果となった。(P.44 図 55 参照)

(3) 年代による比較

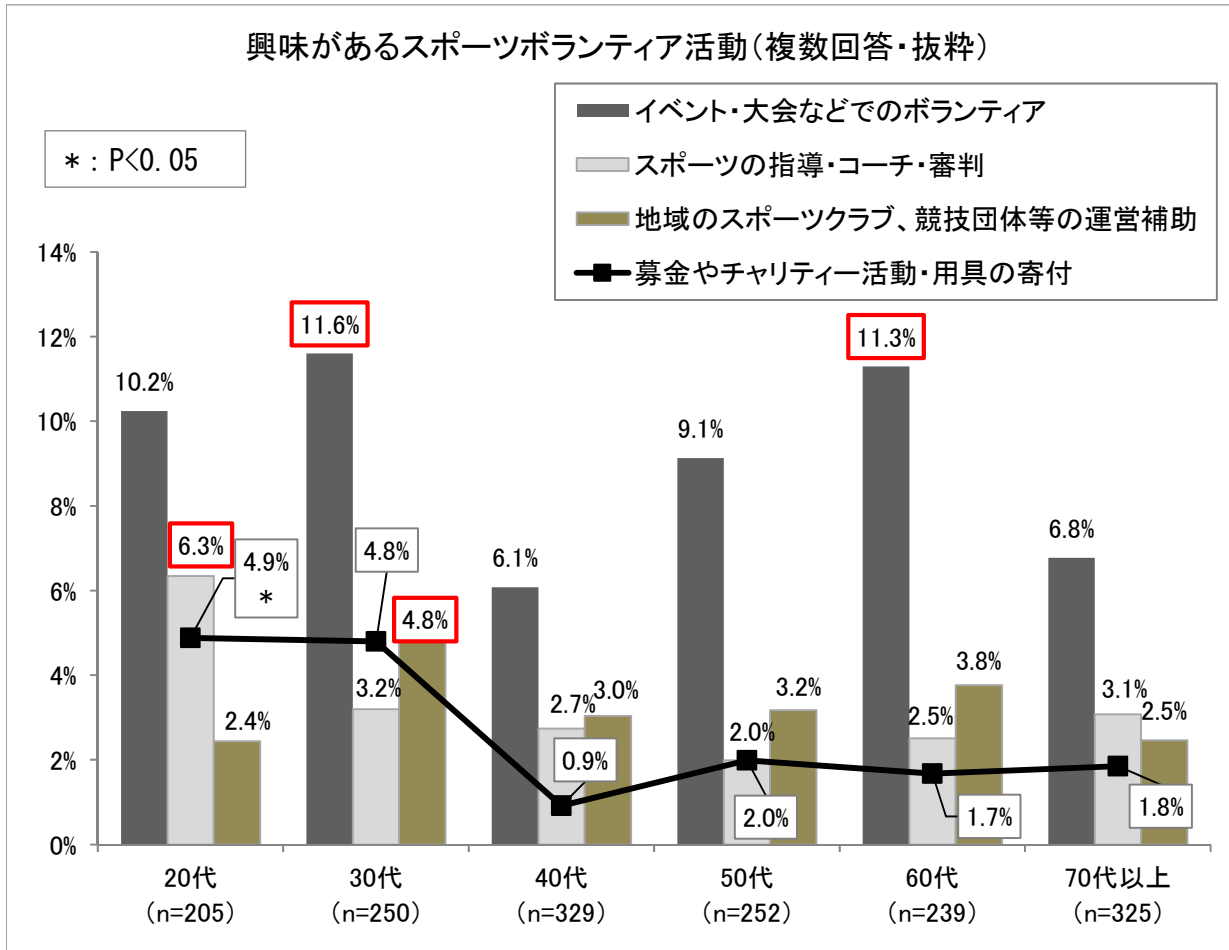


図 60

いずれの年代も、「イベント・大会などでのボランティア」が最も高くなった。中でも、「30代」・「60代」は他の年代よりも比較的高い結果となった。

ボランティアの実施率が最も高かった「20代」は（P.43 図 52 参照）、「スポーツの指導・コーチ・審判」が 6.3%と高くなった。また、実施率が次いで高かった「30代」は、「地域のスポーツクラブ、競技団体等の運営補助」が 4.8%と高くなった。

さらに、「20代」・「30代」とともに、「募金やチャリティー活動・用具の寄附」への興味が高い結果となった。「20代」は、「40代」・「50代」・「60代」・「70代以上」に対して有意差があった。

イベントや大会のボランティアだけではなく、これらの活動への参加を促すことも実施率向上につながる可能性がある。

2-21 スポーツに関する情報の入手先

(1) 前年度比較

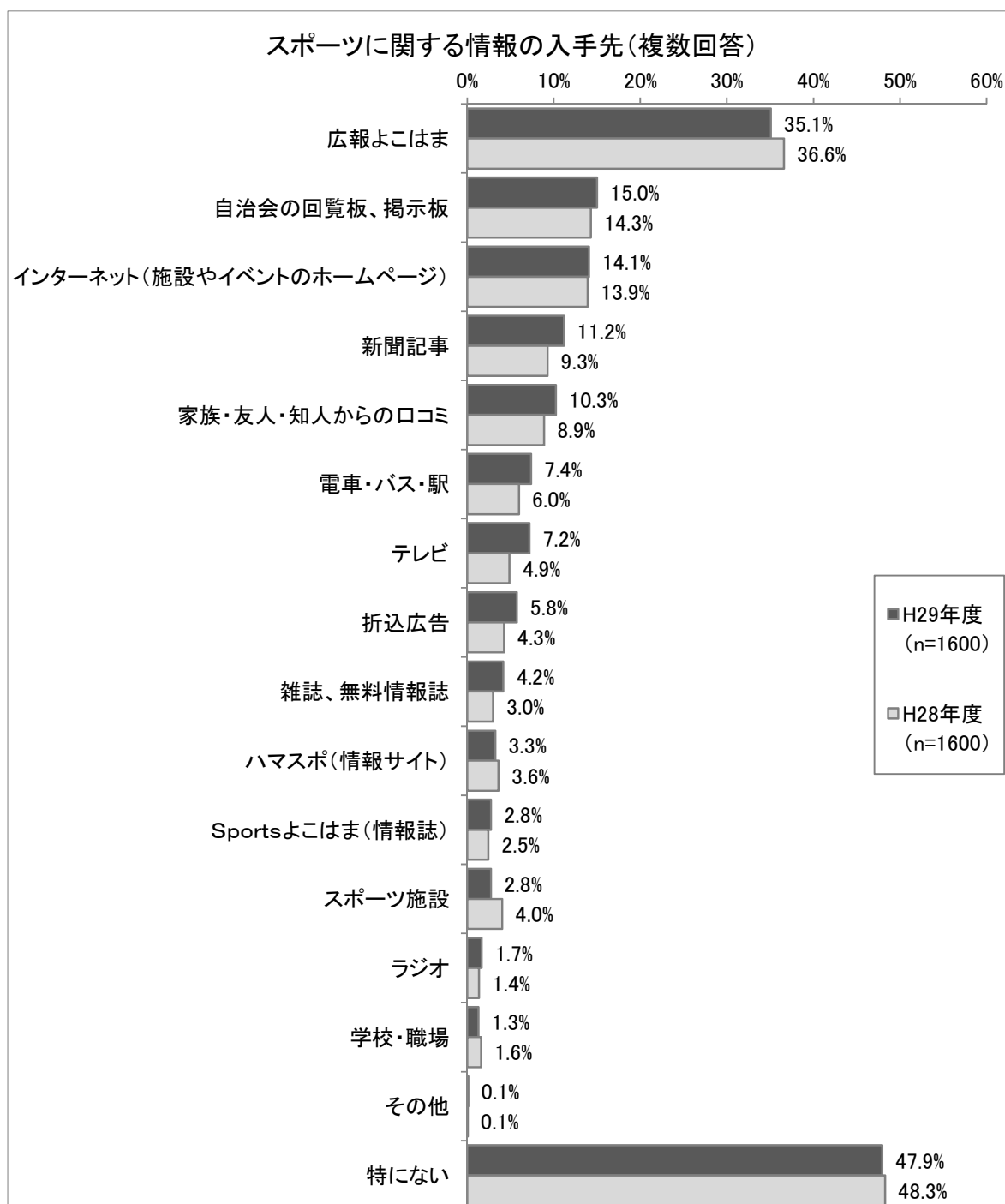


図 61

情報の入手先は、「広報よこはま」(35.1%)が圧倒的に高く、「自治会の回覧板・掲示板」(15.0%)、「インターネット(施設やイベントのホームページ)」(14.1%)となった。
 また、「特にない」が47.9%と過半数に迫る結果となった。
 28年度と比較しても、順位や傾向に大きな変動はなかった。

(2) 性別による比較

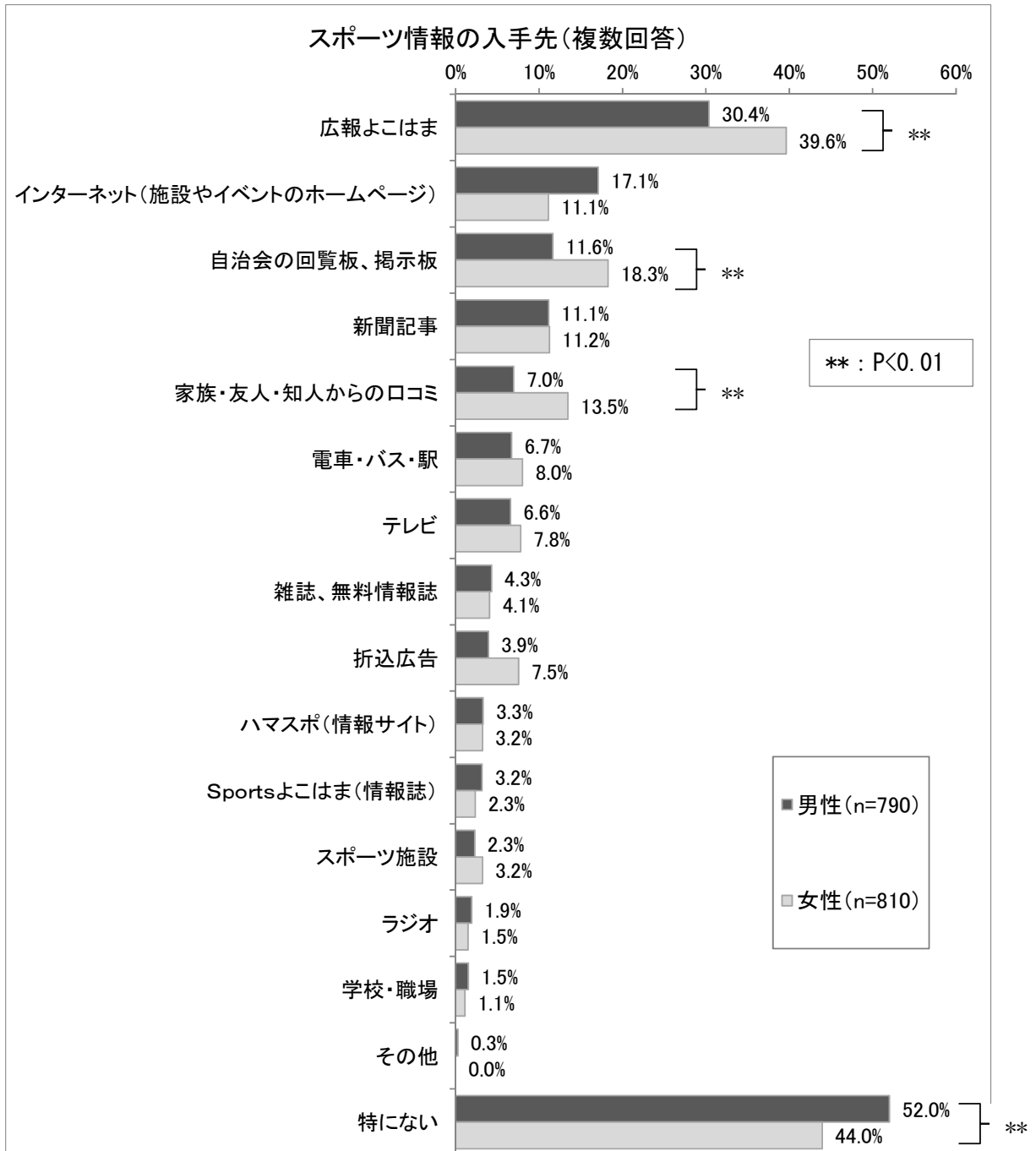


図 62

「男性」の方が「特にない」が 52.0%と「女性」よりも 8 ポイント高く、有意差があった。「女性」の方が情報を入手している傾向となった。

「男性」・「女性」ともに「広報よこはま」が最も高くなっているが、「女性」の方が 39.6%と 10 ポイント程度高く、有意差があった。また、2 位以降には、男女の情報入手先には違いが見られた。

「男性」は、「インターネット」が 17.1%で 2 位に入ったが、「女性」は、「自治体の回覧板、掲示板」が 18.3%で 2 位に入った。また、「女性」は、「家族・友人・知人からの口コミ」(13.5%) が 3 位に入った。

「女性」は、紙媒体や電子媒体、口コミと様々な経路から情報を入手している傾向となった。

(2) 年代による比較

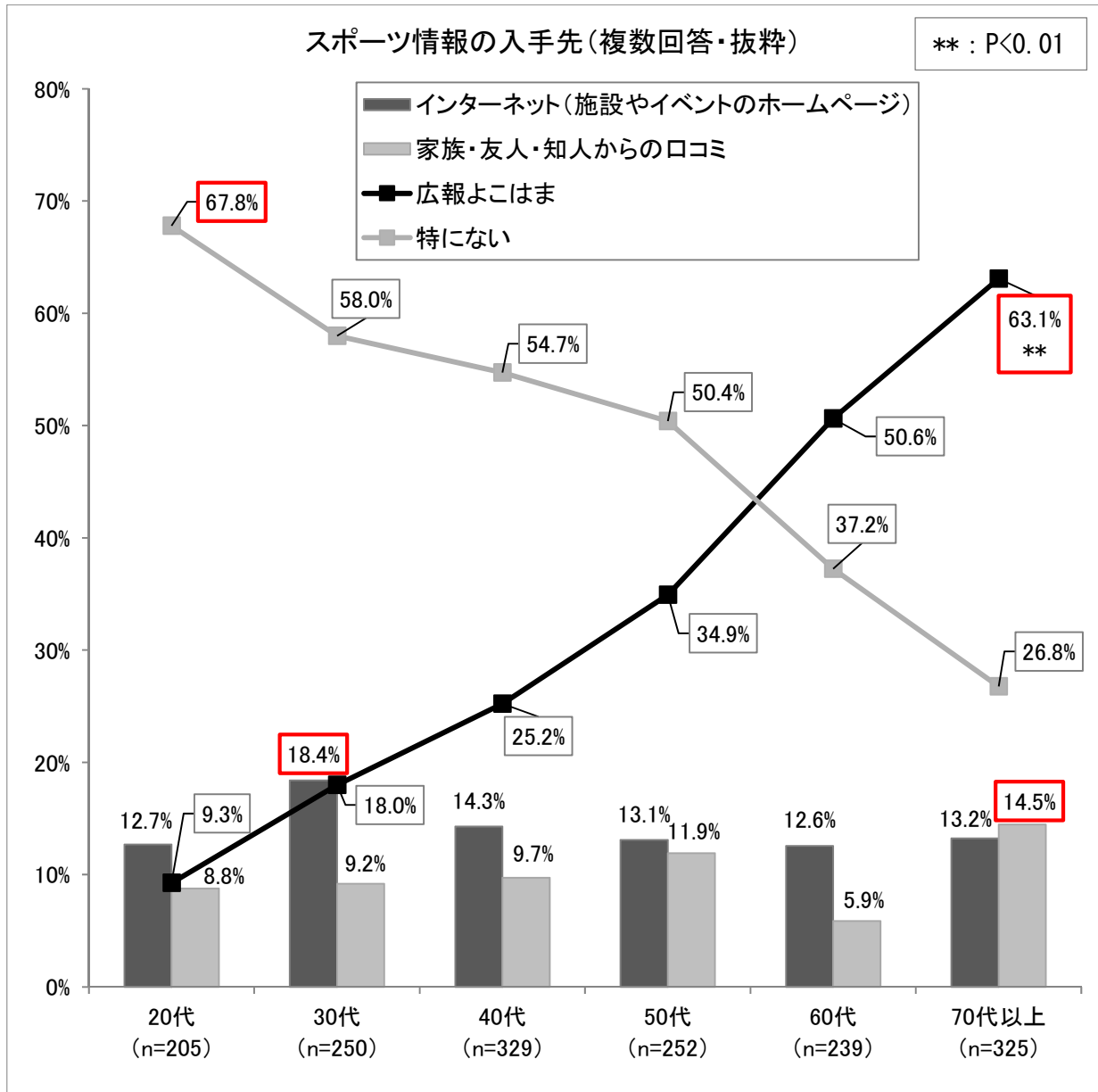


図 63

年代で比較すると、いずれの年代においても、「インターネット」が15%前後と一定数を占める結果となった。ただし、「30代」は、18.4%と他の年代よりも比較的高い結果となった。

また、「家族・友人・知人からの口コミ」は年代が上がるにつれて、徐々に高くなる傾向にあり、「70代以上」が14.5%と最も高くなった。ただし、「60代」は5.9%と最も低くなった。

「広報よこはま」も年代が上がるにつれて高くなり、最も低い「20代」(9.3%)と「70代以上」(63.1%)の差は6倍以上となり、有意差があった。

一方で、「特に入手していない」は年代が下がるにつれて高くなり、20代では70%近くが情報を入手していない結果となった。

積極的に情報を入手していない若年層に向けて、いかに情報を届けるかが課題となる。

2-22 知っている施設

(1) 前年度比較

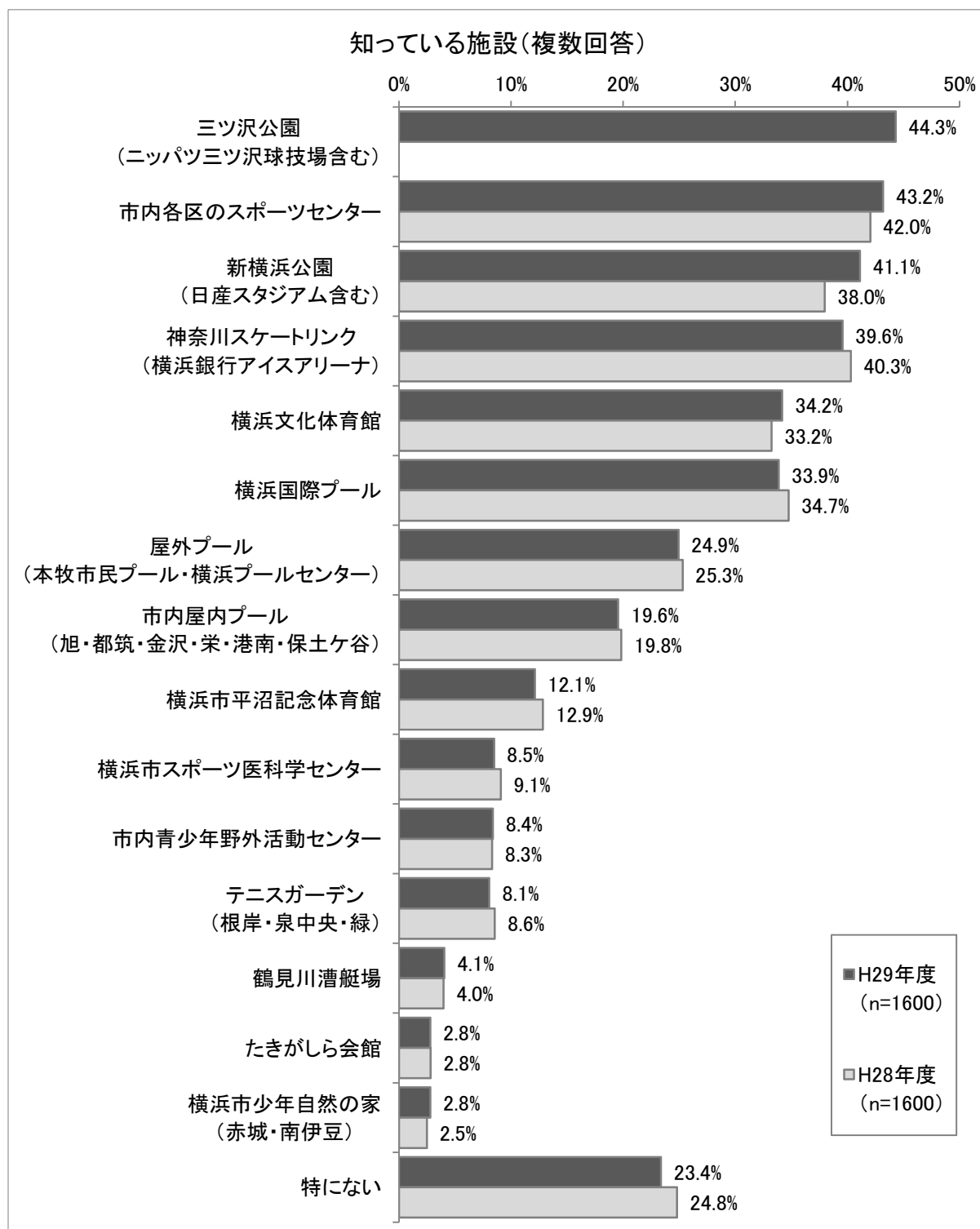


図 64

知っている施設は、今回から追加した「三ツ沢公園」(44.3%)が最も高く、「市内各区のスポーツセンター」(43.2%)、「新横浜公園」(41.1%)となった。

28年度と比較しても、順位や割合に若干の変動はあるものの、傾向に大きな差はなかった。

(2) 性別による比較

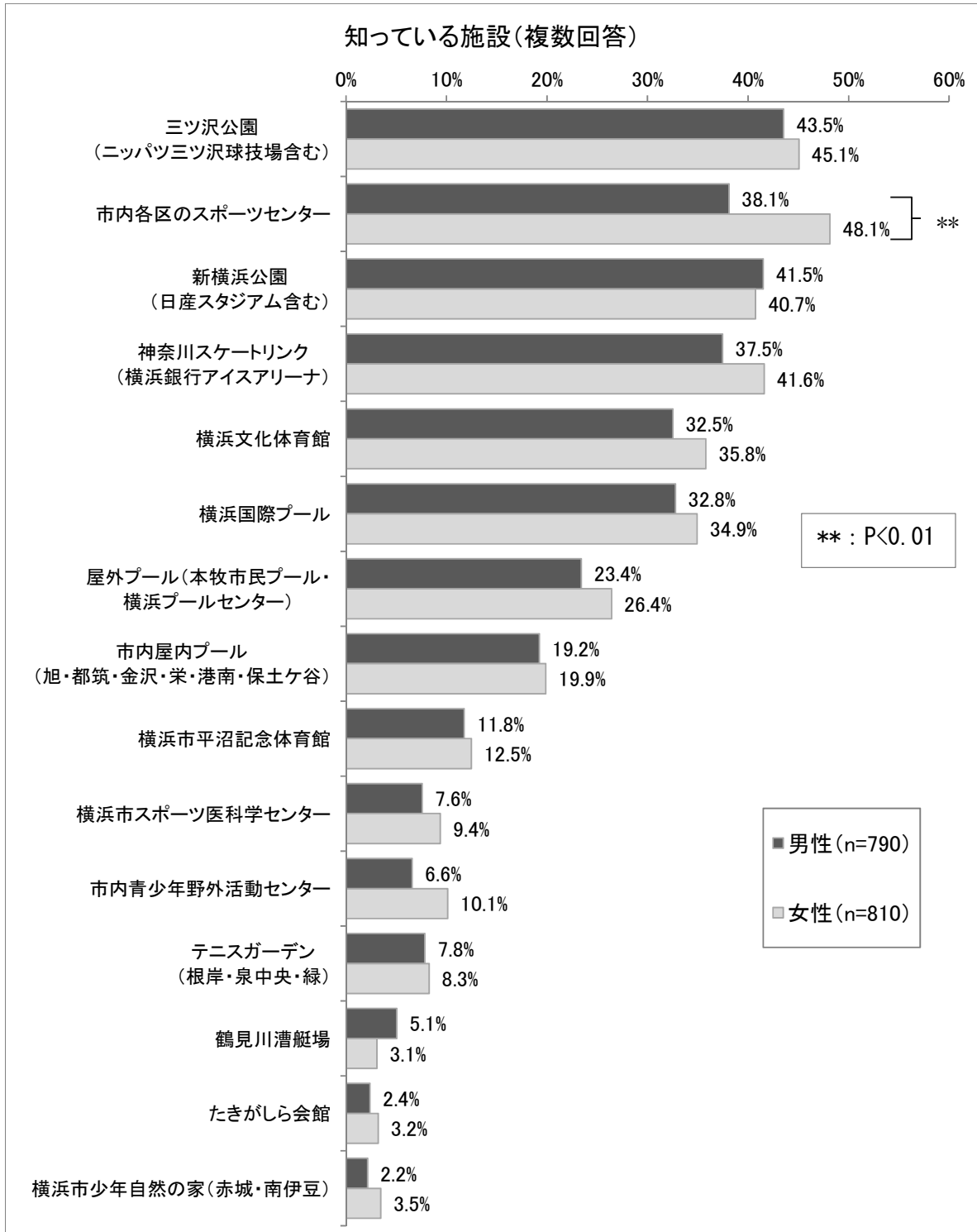


図 65

「男性」は、「三ツ沢公園」(43.5%)、「新横浜公園」(41.5%)、「市内各区のスポーツセンター」(38.1%)となった。

一方「女性」は、「市内各区のスポーツセンター」が48.1%で1位となった。「男性」との差は10ポイント近くになり、有意差があった。

また、「女性」の3位には「神奈川スケートリンク」(41.6%)が入るなど、施設の種類や利用者層が順位差に表れている。

(3) 年代による比較

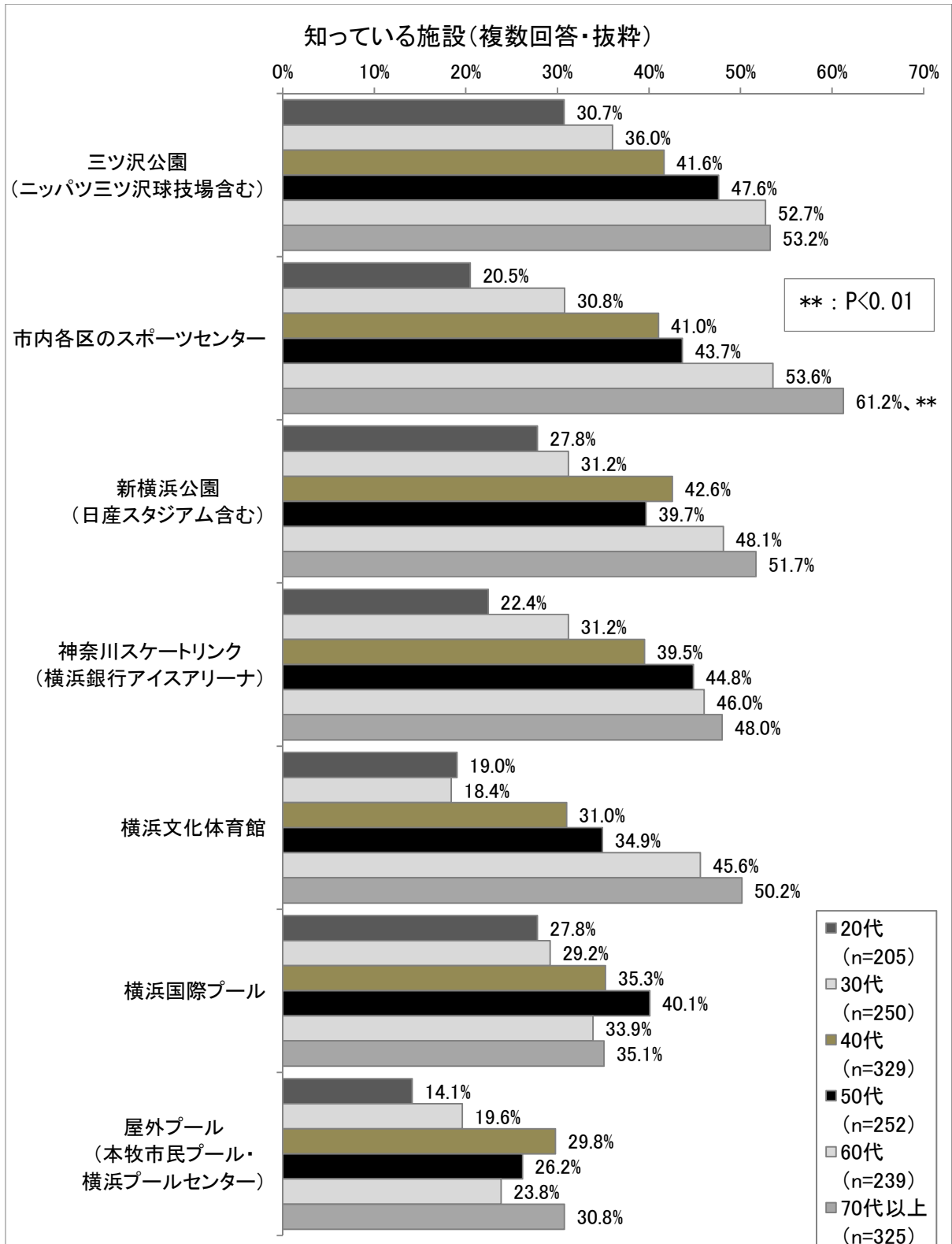


図 66

いずれの施設も、「70代以上」・「60代」の認知度が比較的高くなった。

「スポーツセンター」は、年齢層が高いほど認知度が高く、「70代以上」の認知度が60%を越え、「20代」とは40ポイントもの差が出た。「70代以上」は、「20代」・「30代」・「40代」・「50代」に対して、有意差があった。

「横浜国際プール」は、「20代～50代」の認知度が比較的高いものの、平均的に全世代から認知度が高くなる結果となった。

2-23 知っている事業

(1) 前年度比較

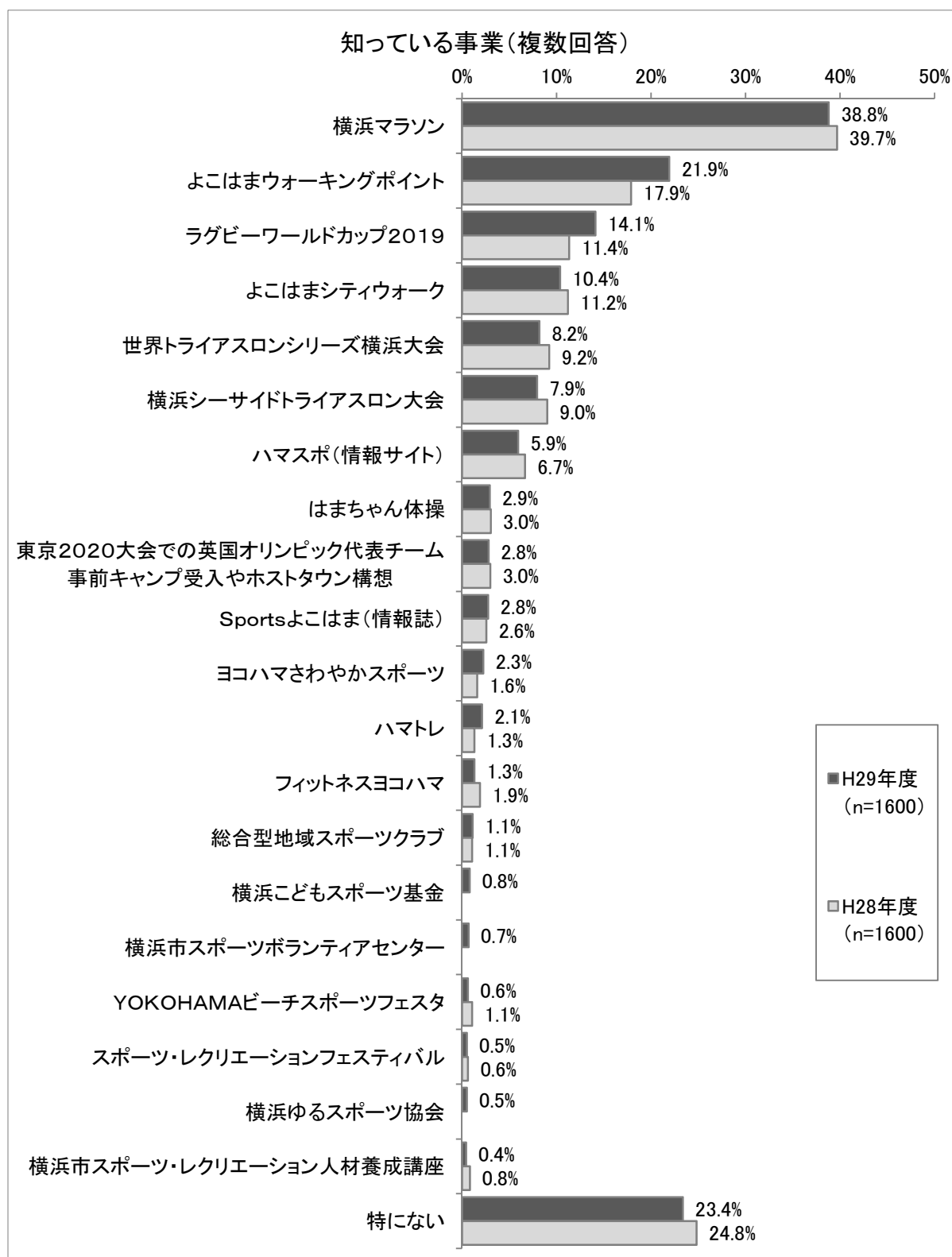


図 67

知っている事業は、「横浜マラソン」(38.8%)、「よこはまウォーキングポイント」(21.9%)、「ラグビーワールドカップ2019™」(14.1%)となった。

28年度と比較しても、傾向に大きな差は見られなかったが、「よこはまウォーキングポイント」・「ラグビーワールドカップ2019™」の認知度が若干高くなった。

(2) 性別による比較

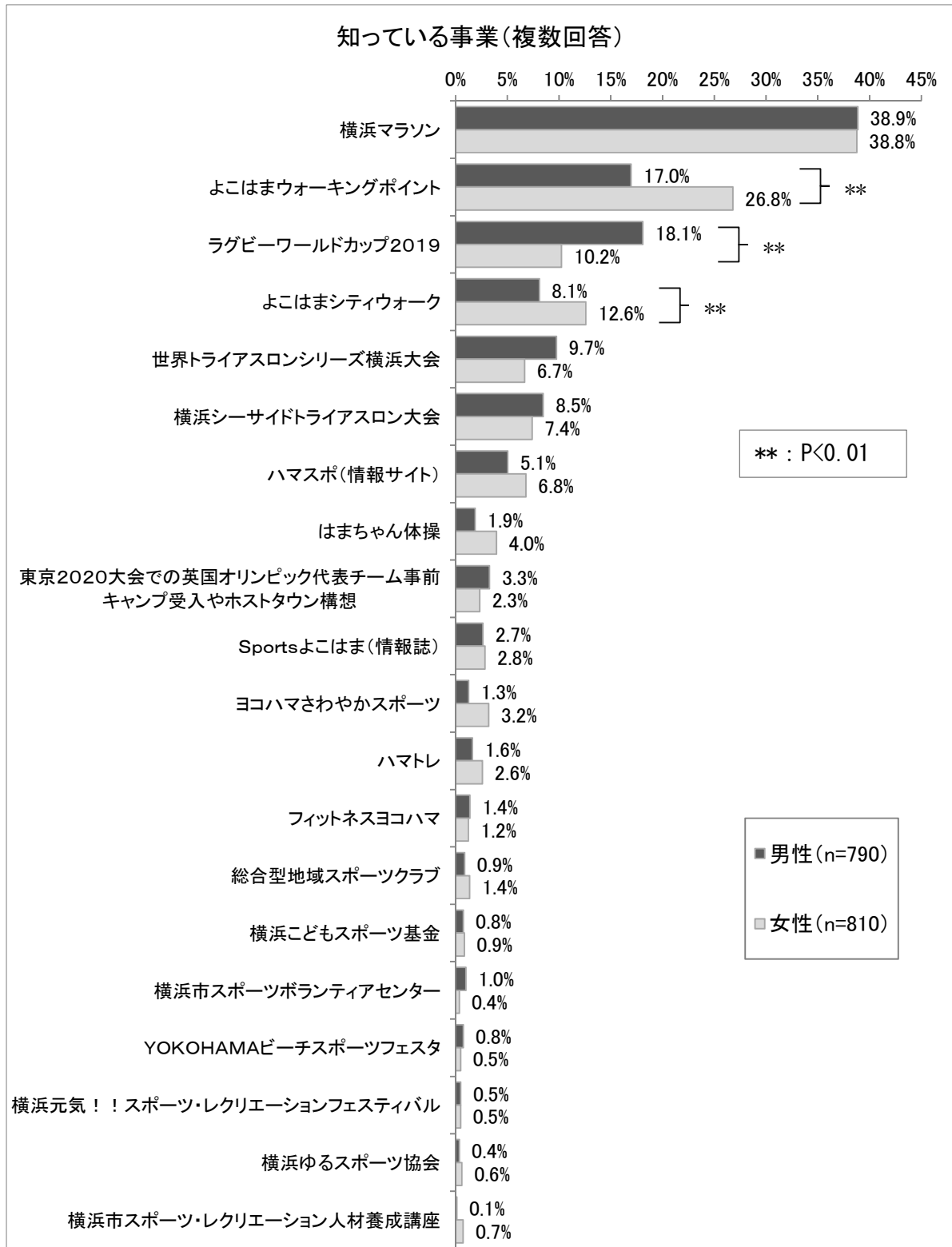


図 68

「男性」・「女性」とともに、「横浜マラソン」が1位となり、男女間で差はほぼなかった。

「男性」の2位に入った、「ラグビーワールドカップ2019™」は、「男性」の方が18.1%と認知度が高く、「女性」との差は約8ポイントとなり、有意差があった。

一方で、「女性」の2位に入った「よこはまウォーキングポイント」は、「女性」の方が26.8%と認知度が高く、「男性」との差は10ポイント近くなり、有意差があった。また、「よこはまシティウォーク」も「女性」(12.6%)の方が4ポイント程高くなり、有意差があった。

(3) 年代による比較

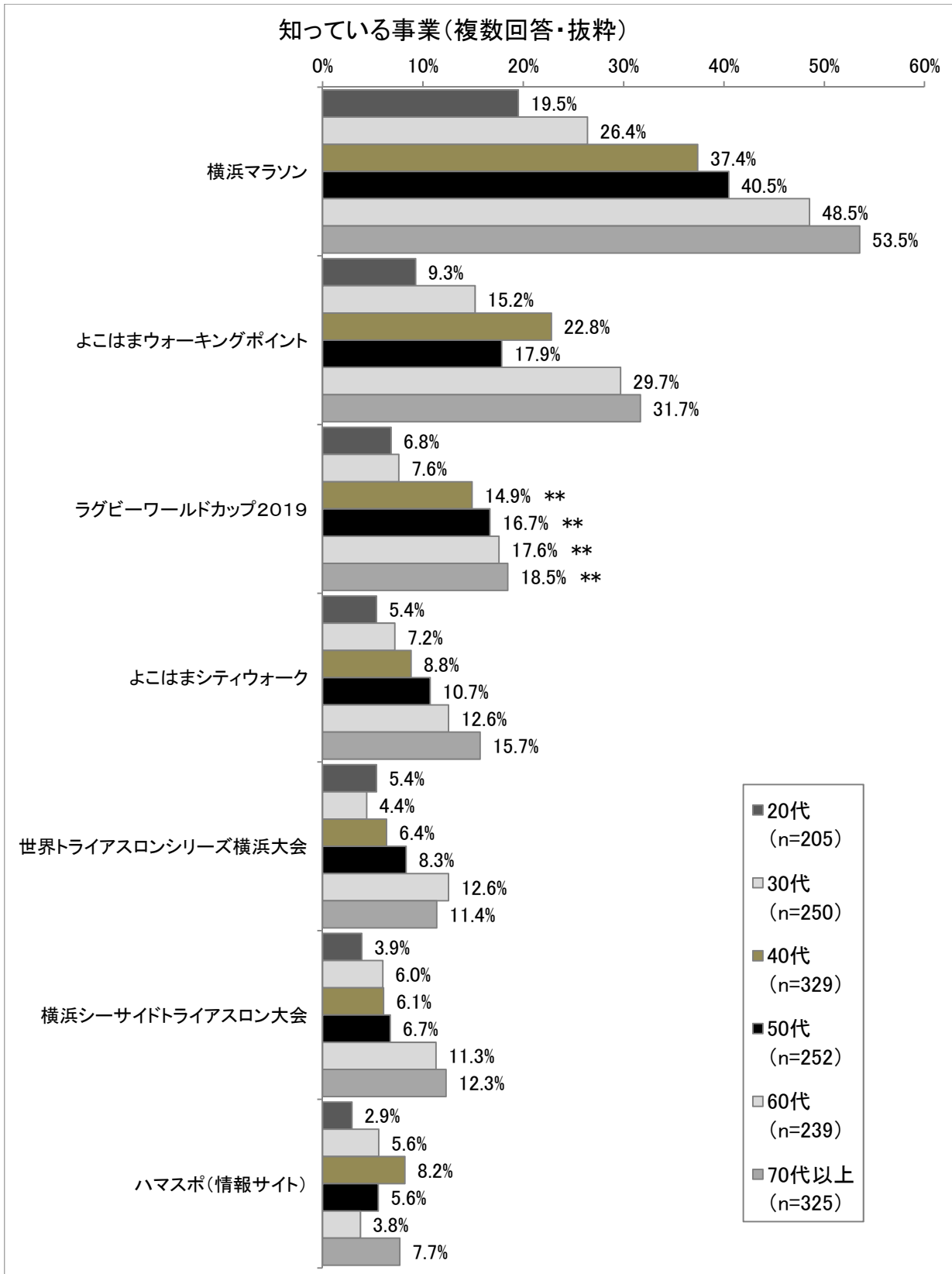


図 69

いずれの事業も、「60代」・「70代以上」の認知度が比較的高くなった。

「横浜マラソン」は、全ての年代で認知度が1位となった。

「ラグビーワールドカップ2019™」は、「20代」・「30代」が7%程度に対して、「40代以上」は15～19%と認知度が2倍以上となった。「40代」・「50代」・「60代」・「70代以上」は、それぞれ「20代」・「30代」に対して有意差があった。

2-24 公共スポーツ施設に望むこと

(1) 前年度比較

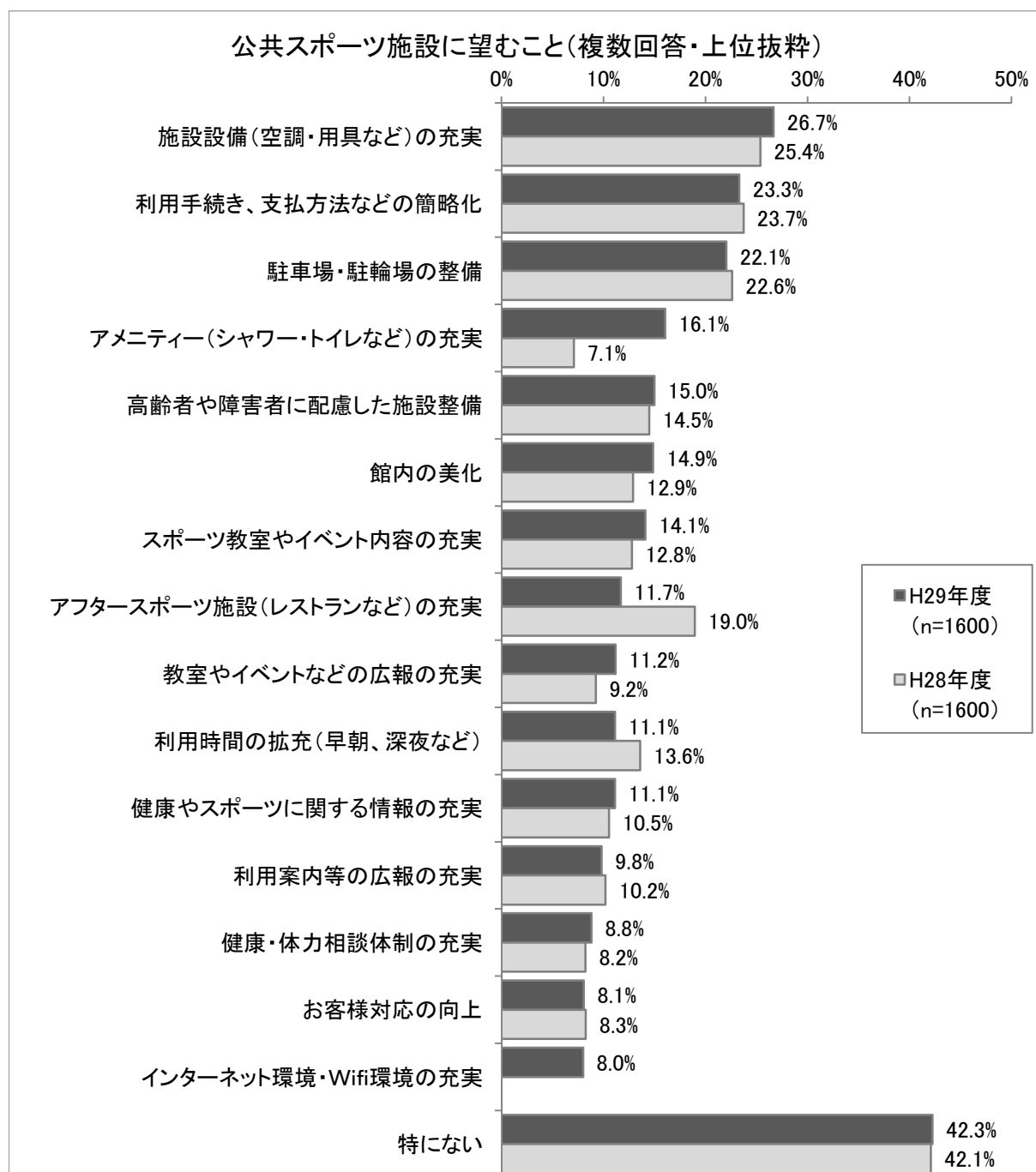


図 70

公共スポーツ施設に望むことは、「施設設備(空調・用具など)の充実」(26.7%)、「利用手続き、支払方法などの簡略化」(23.3%)、「駐車場・駐輪場の整備」(22.1%)となった。

28年度と比較すると、「アメニティー(シャワー・トイレなど)の充実」が16.1%と9ポイント程度増加し、「アフタースポーツ施設(レストランなど)の充実」が11.7%と7ポイント程度減少した。「アメニティー」に関する説明を入れたことが影響している可能性が考えられる。

今回から追加した「インターネット環境・Wi-fi環境の充実」は、8.0%にとどまり、単純な環境整備だけではあまり要望は伸びなかった。

(2) 性別による比較

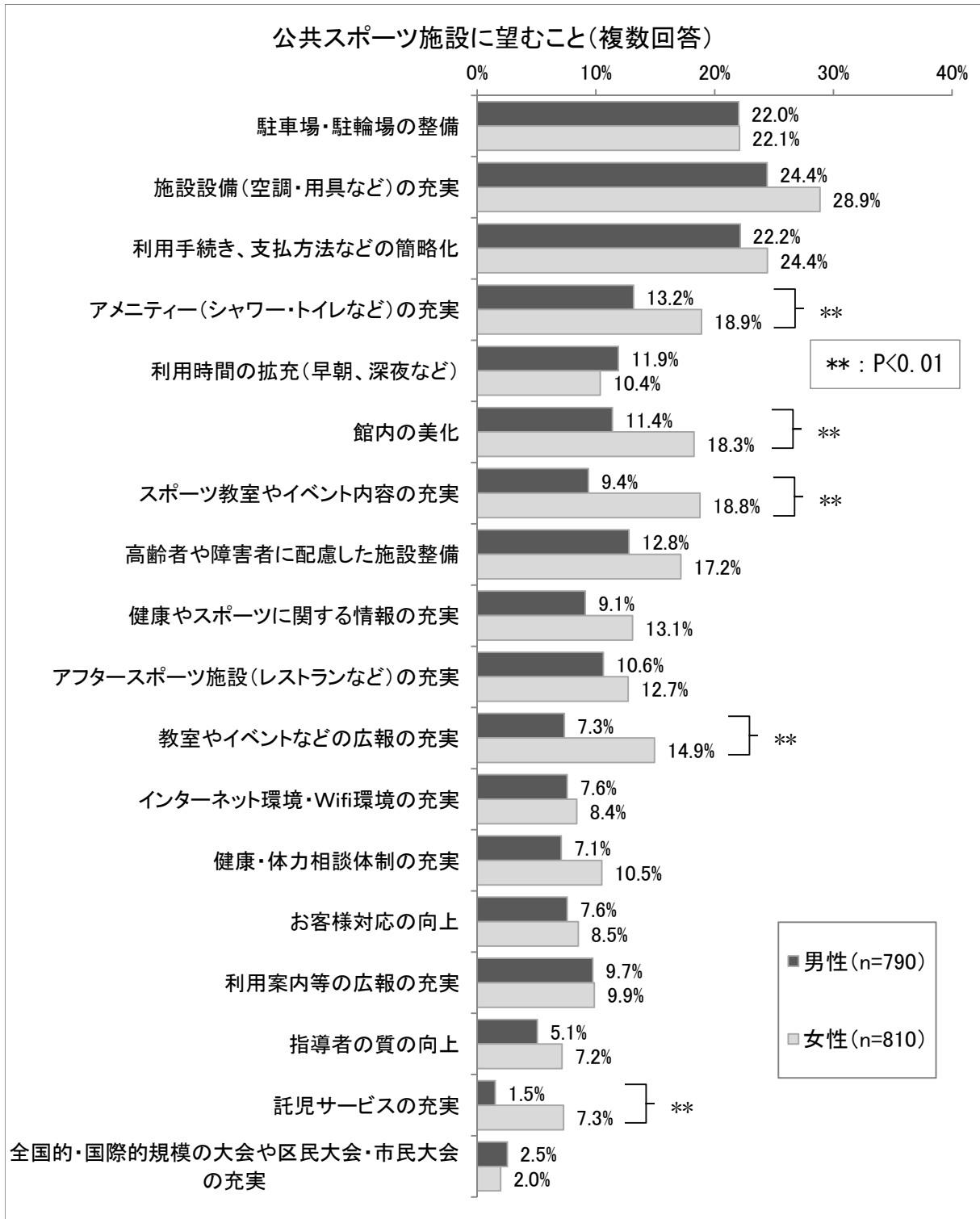


図 71

「男性」・「女性」とともに、「施設設備（空調・用具など）の充実」、「利用手続き、支払い方法などの簡略化」、「駐車場・駐輪場の整備」の順となった。

「女性」は、3位以下も比較的高い割合となっているものが多く、「男性」よりもポイントが高いものがあった。特に、「館内の美化」（18.3%）、スポーツ教室やイベントの「内容の充実」（18.8%）と「広報の充実」（14.9%）、「託児サービスの充実」（7.3%）は、「男性」よりも6ポイント～10ポイント以上高くなり、有意差があった。

(3) 年代による比較

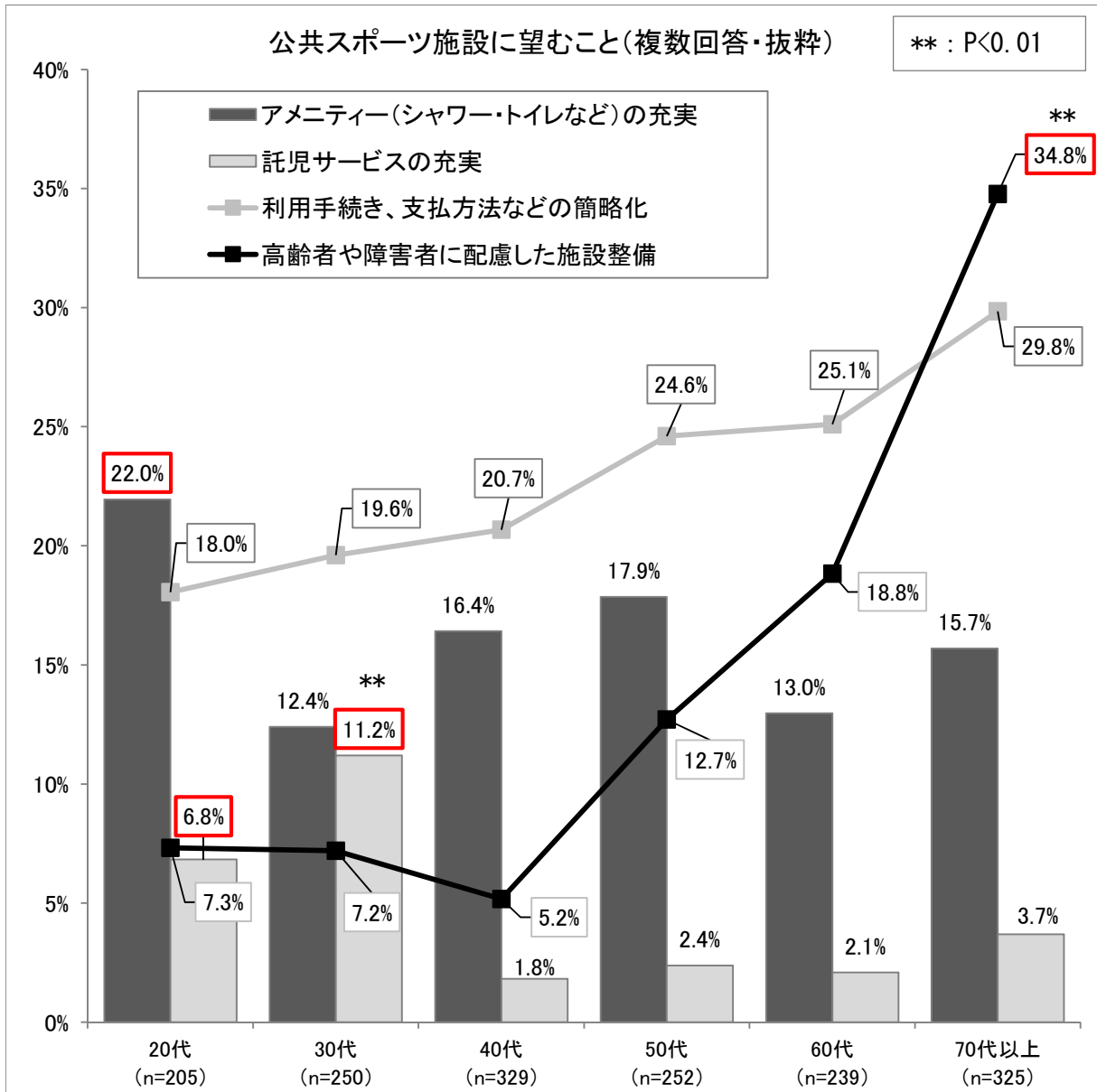


図 72

「アメニティーの充実」は、「20代」で22.0%と最も高くなった。

「高齢者や障害者に配慮した施設設備」は、「70代以上」で34.8%と圧倒的に高くなり、「60代」を除く、他の年代の2倍以上となった。「70代以上」は、「20代」・「30代」・「40代」・「50代」・「60代」に対して有意差があった。また、「利用手続き、支払方法の簡略化」も年代が上がるにつれて高くなり、「70代以上」で29.8%と最も高くなった。

「託児サービスの充実」は、「20代」・「30代」でそれぞれ6.8%、11.2%と高くなった。「30代」は「40代」・「50代」・「60代」・「70代以上」に対して有意差があった。

いずれも、近年スポーツ施設以外でも充実が求められている各種サービスなどが挙げられる結果となった。

2-25 現在の健康状態

(1) 前年度比較

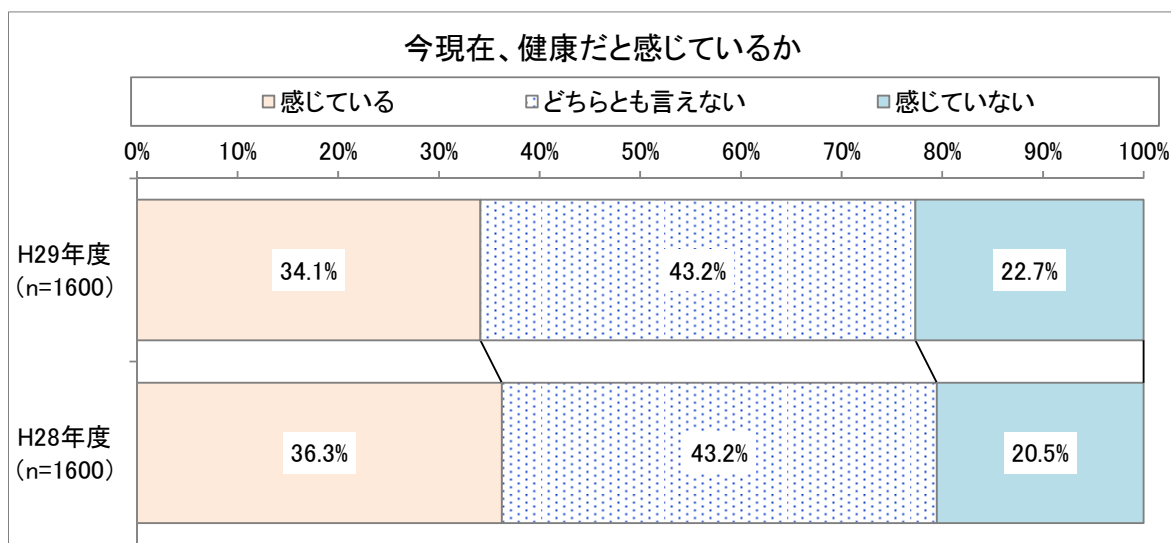


図 73

今現在、健康だと「感じている」(34.1%)、「感じていない」(22.7%)となった。
28年度と比較しても、健康だと「感じている」が35%程度となっており、割合、傾向ともにあまり変化はなかった。

(2) 性別による比較

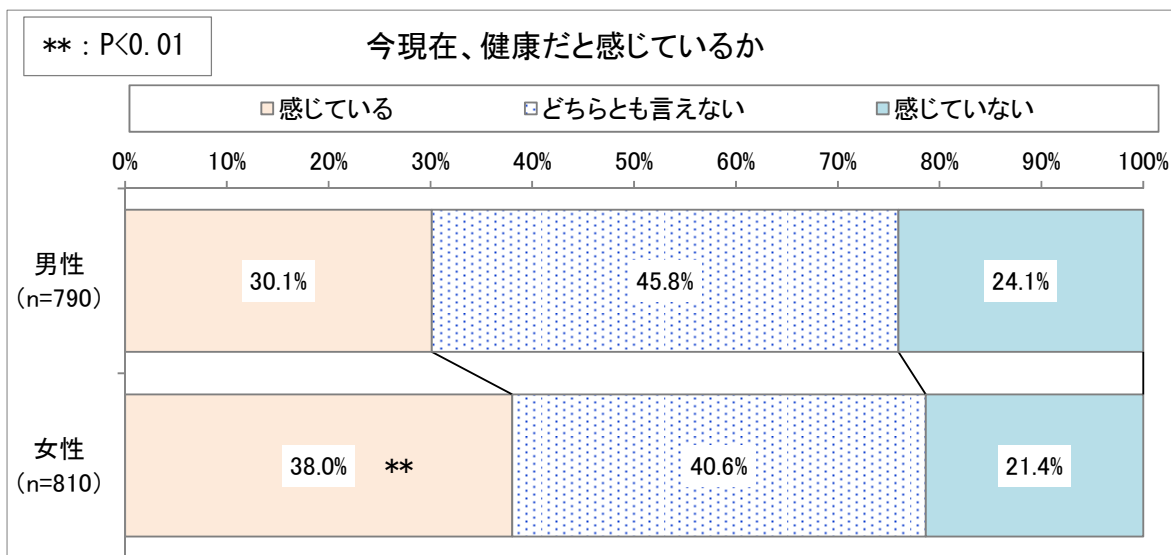


図 74

「女性」の方が、「男性」よりも健康だと「感じている」割合が高く、その差は約8ポイントとなり、有意差があった。

また、健康だと「感じていない」は、「男性」の方が2.7ポイント高く、「男性」の方が比較的健康的に不安を感じている割合が高い結果となった。

(3) 年代による比較

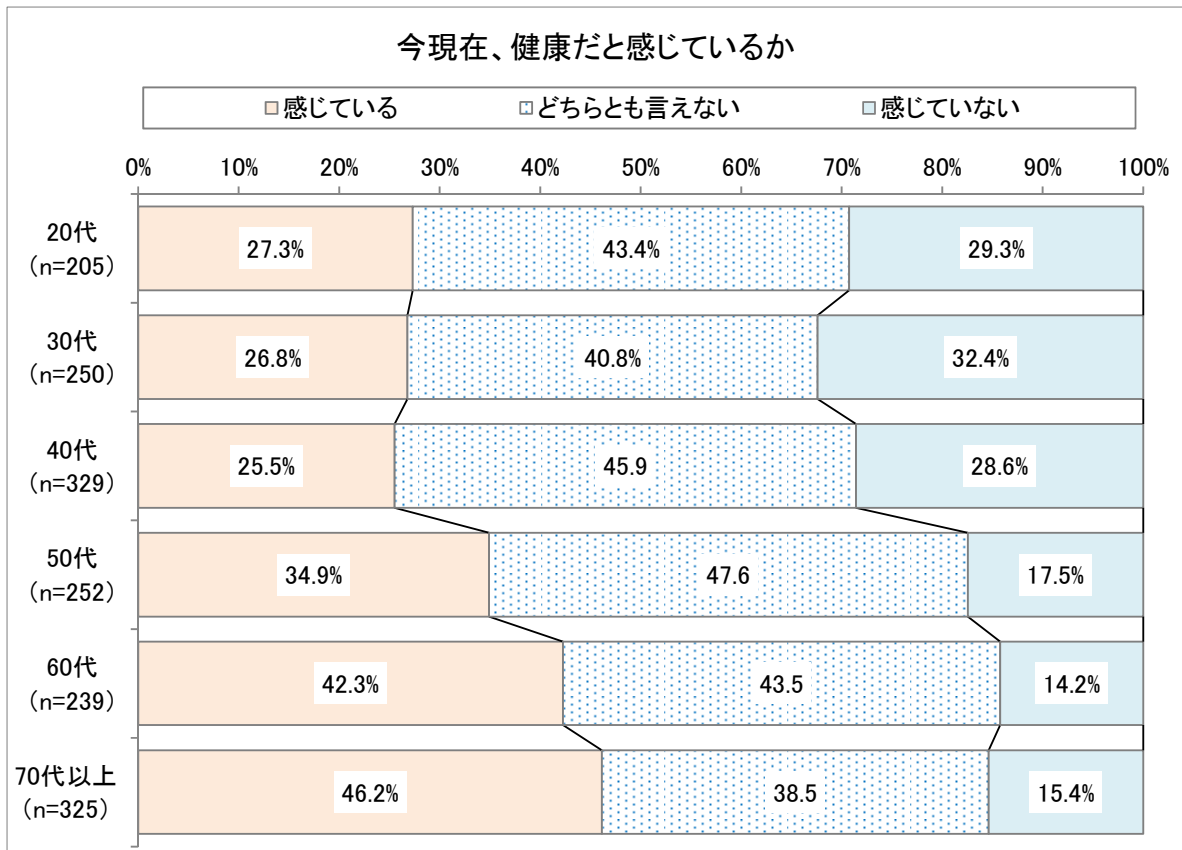


図 75

年代で比較すると、年代が上がるにつれて、健康だと「感じている」割合が徐々に高くなった。
 一方で、健康だと「感じていない」割合は、「20～40代」で約30%、「50代以上」は、約15%前後となった。
 健康への感じ方は、「50代」を境に約1.3～2倍もの差が見られ、若年層の方が、健康に不安を感じている割合が高い傾向となった。

2-26 直近1年間の医療費

(1) 前年度比較

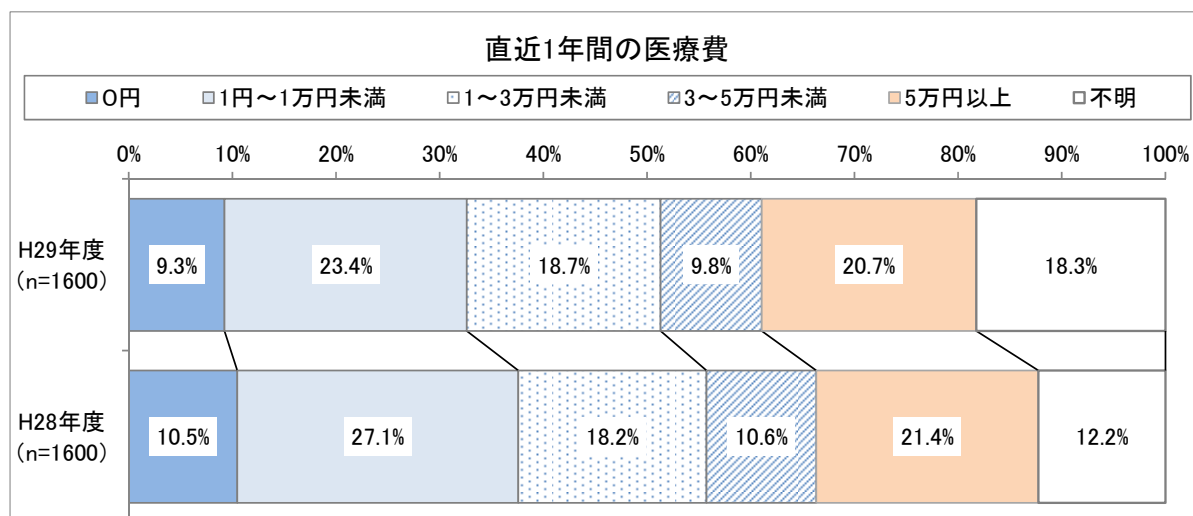


図 76

直近1年間の医療費は、「1円~1万円未満」(23.4%)、「5万円以上」(20.7%)、「1~3万円未満」(18.7%)となった。

「0円」は約10%に止まり、「1万円以上」が49.2%と過半数近くを占める結果となった。

28年度と比較しても、「0円」が約10%、「1万円以上」が過半数を占める傾向にあまり大きな差は見られなかった。ただし、「1万円未満」は3.7ポイント減少した。

(2) 性別による比較

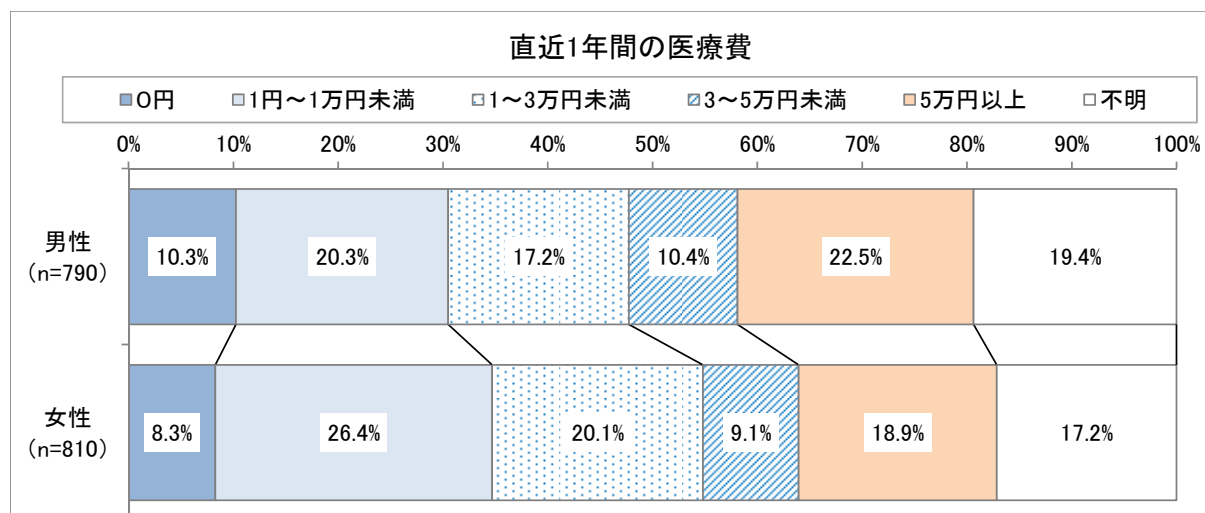


図 77

「男性」は「0円」が10.3%、「女性」は「0円」が8.3%となった。医療費がかかったと回答した割合は、「男性」が70.4%、「女性」が74.5%となり、「女性」の方が、医療費を払っている人の割合が高い傾向にある。

一方で「1円~1万円未満」の割合は、「男性」の方が6.1ポイント低いことから、「男性」の方が、若干個人の医療費が高い傾向となった。

(3) 年代による比較

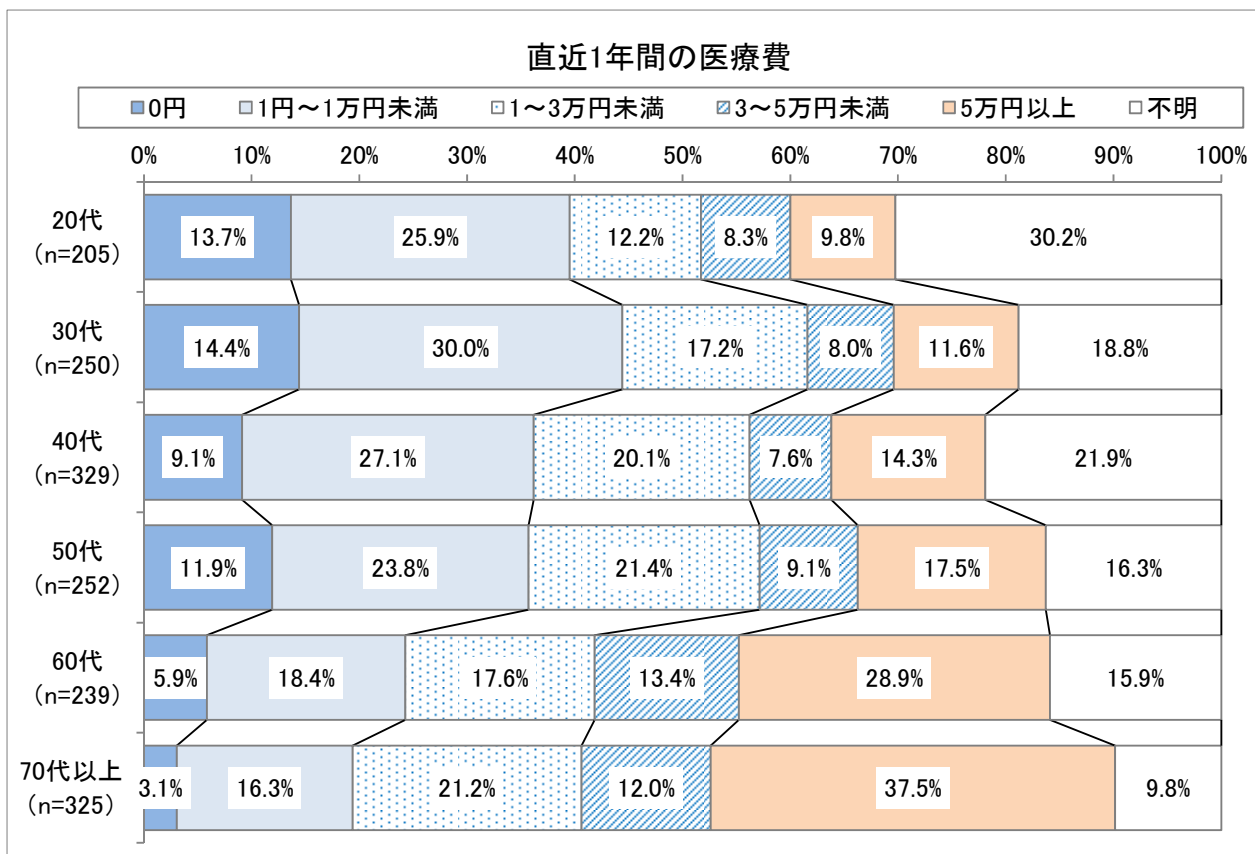


図 78

「20代」は、「0円」の割合が13.7%と高く、「5万円以上」の割合が10%以下と最も低いものの、「不明」が30%程度いることから、医療費への関心がまだ低い状況と推測される。

「60代」・「70代以上」は、スポーツ実施率が高かったものの、医療費がかかったと回答する割合が80~90%近くに達しており、「0円」はわずか3~6%に止まった。特に、「70代以上」は「5万円以上」が37.5%を占めており、「50代以下」とは、2倍以上の差が出た。

年代が上がるにつれて、5万円以上の医療費を支払っている割合が増える傾向となった。

2-27 健康寿命の延伸に向けて取り組みたいこと

(1) 前年度比較

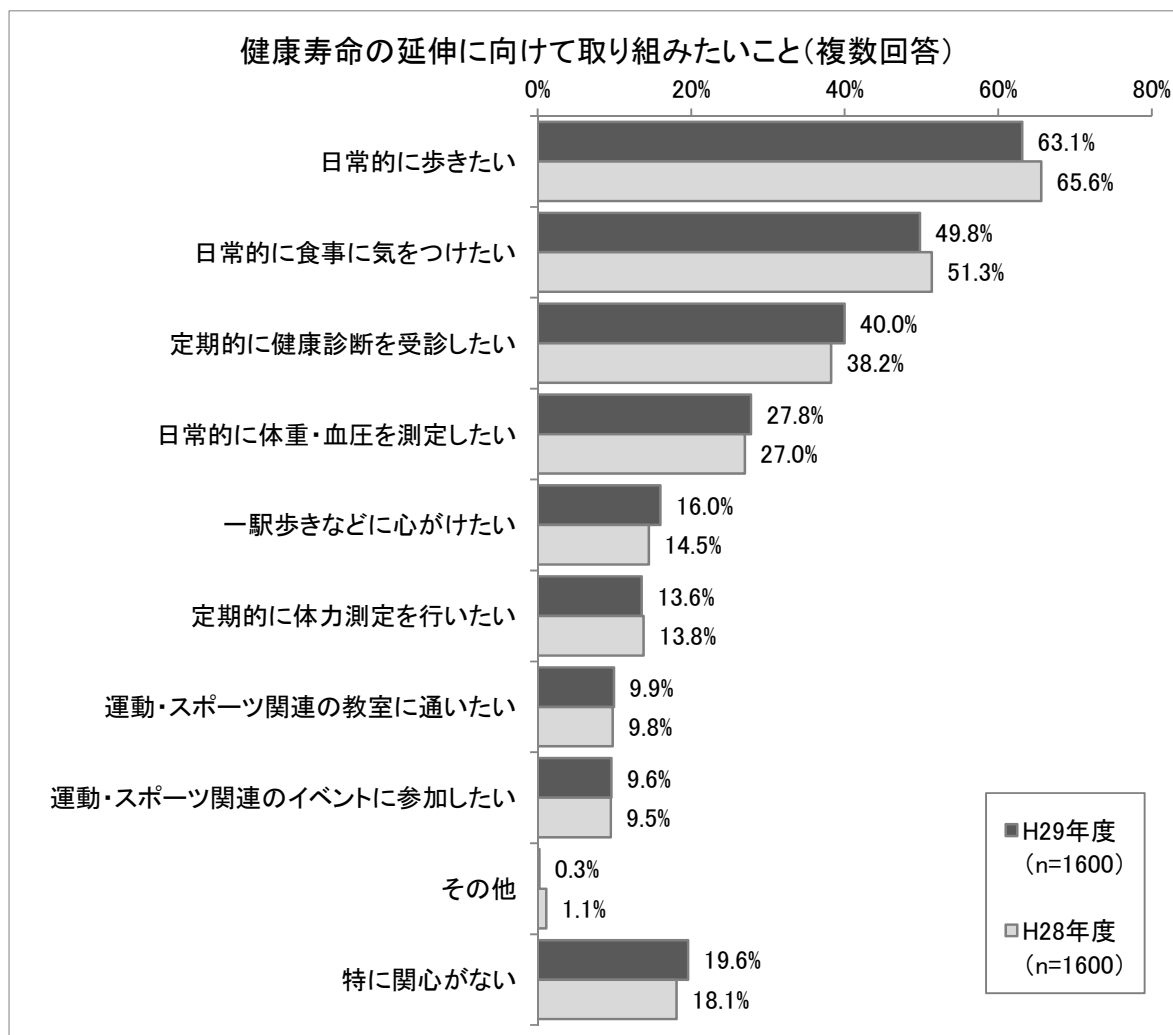


図 79

健康寿命の延伸に向けて、「日常的に歩きたい」(63.1%)、「日常的に食事に気をつけたい」(49.8%)、「定期的に健康診断を受診したい」(40.0%)となった。

運動・食事・自身の健康状態の確認という順位となり、28年度と比較しても順位や傾向に大きな変化はなかった。

(2) 性別による比較

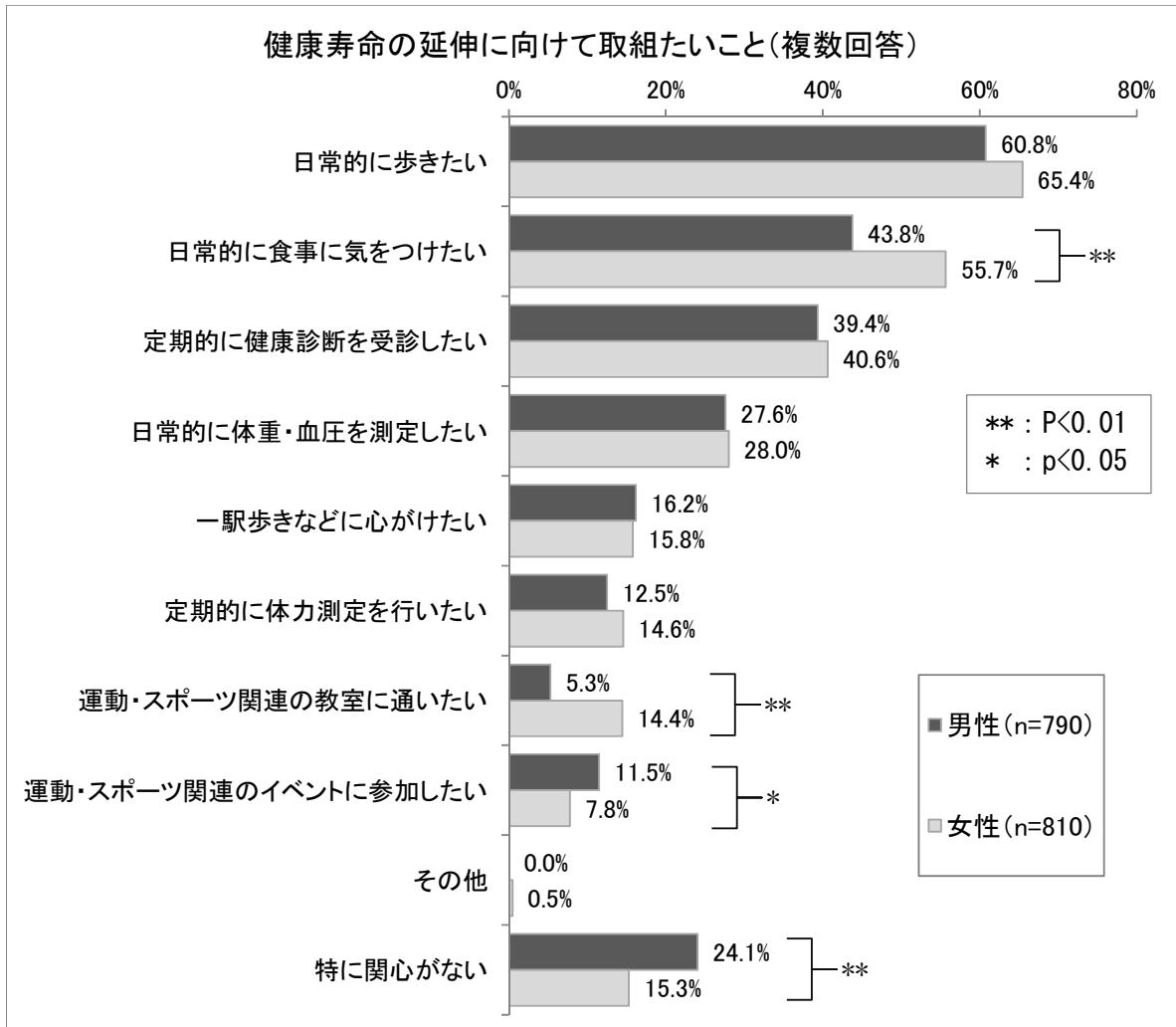


図 80

「男性」・「女性」とともに、「日常的に歩きたい」、「日常的に食事に気をつけたい」、「定期的に健康診断を受診したい」の順となった。

「女性」は、日常的に「歩きたい」(65.4%)・「食事に気をつけたい」(55.7%)がともに「男性」よりも高い結果となった。特に、「食事」は10ポイント以上も差が出ており有意差があった。「女性」の方が「食事」に気を使っている傾向となった。

また、「女性」は、「運動・スポーツ関連の教室に通いたい」も14.4%と高く、「教室」に通うことで「定期的に」運動に取り組みたいという傾向がみられた。

一方で、「男性」は、「教室」よりも「イベントに参加したい」が11.5%と高く、定期的に活動するよりは、単発的に活動したいという傾向となった。

また、男女間では、「特に関心がない」に10ポイント近い差が出ており、「男性」は「女性」に対して、有意差があった。「男性」の関心の低さが出る結果となった。

(3) 年代による比較

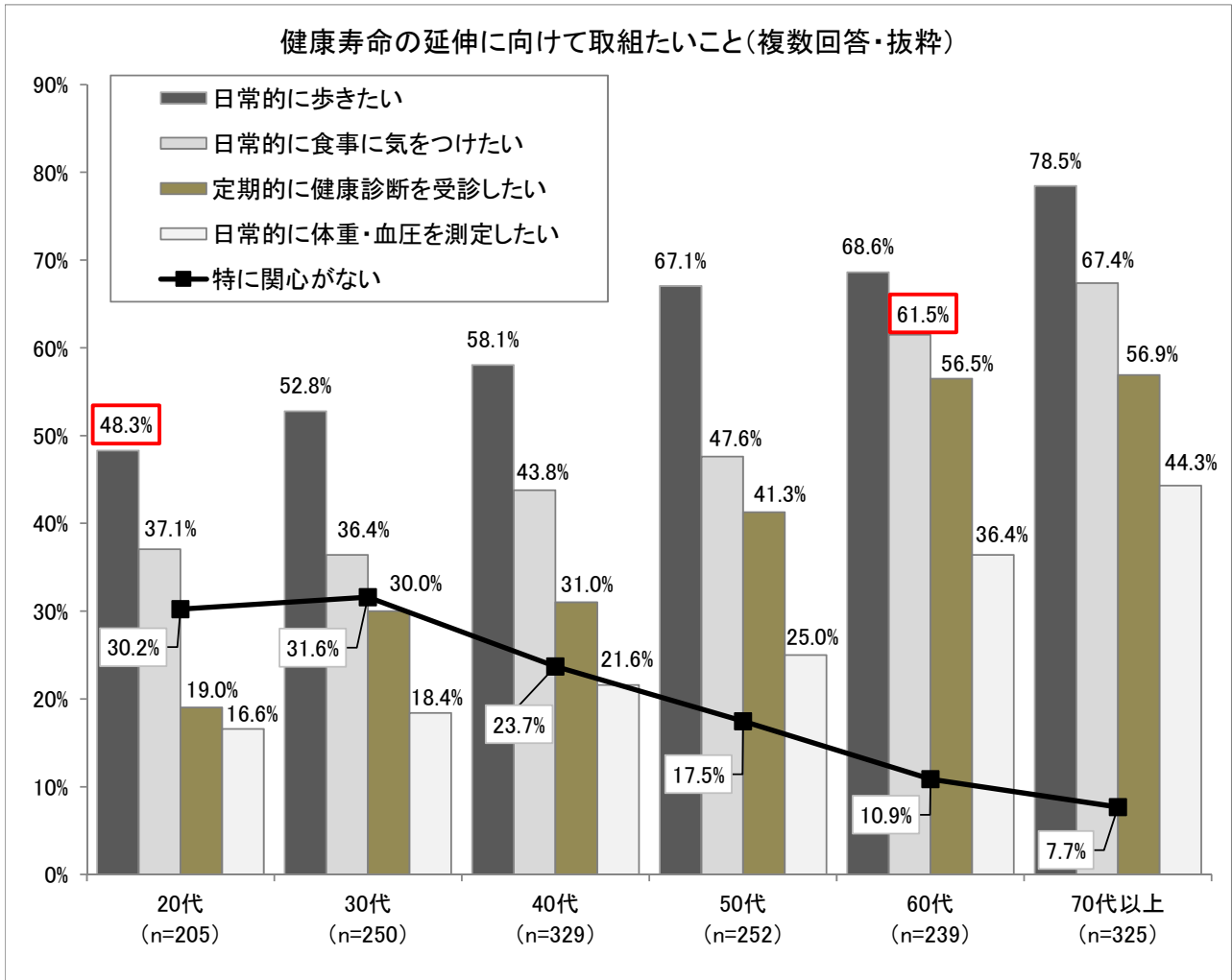


図 81

「60代」・「70代以上」は健康寿命への関心が高く、いずれの回答も高い結果となった。一方で、「20代」・「30代」では、「特に興味がない」が30%を越える結果となった。

関心の低い世代に対して、いかに関心を高めてもらい実践してもらうかが課題となるが、その中でも、「日常的に歩きたい」は、健康寿命の延伸に関心の低い「20代」でも48.3%と過半数に迫る結果となっており、関心の低い世代にも効果的な取り組みとなる可能性がある。

「日常的に食事に気をつけたい」も、年代が上がるにつれて高くなる傾向にあり、「40代」を境に40%を越え、「60代」では61.5%と過半数を越える結果となった。

「定期的に健康診断を受診したい」は、「20代」では約20%にとどまったものの、職場等での受診機会が減少する「60代」・「70代以上」では過半数を越えるニーズが出る結果となった。

2-28 自身で持っている健康器具・運動用具・トレーニング機器

(1) 単純集計

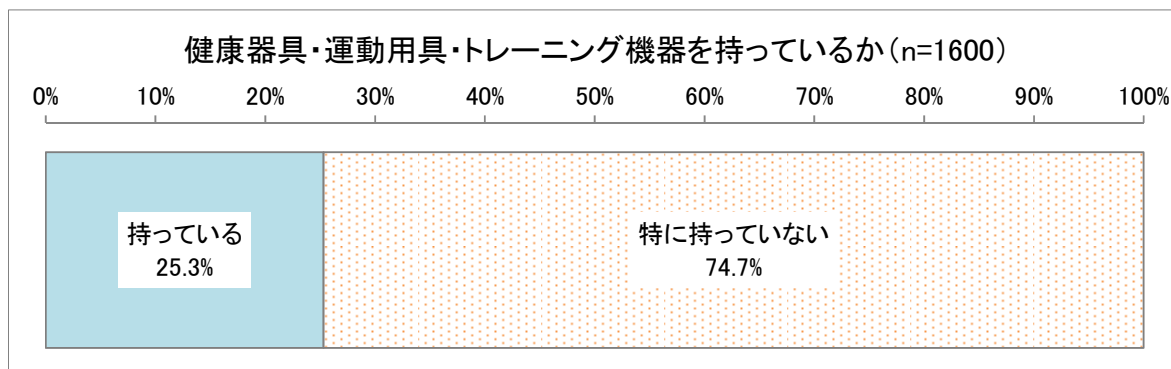


図 82

自身で健康器具・運動器具・トレーニング器具を「持っている」(25.3%)、「持っていない」(74.7%)となった。

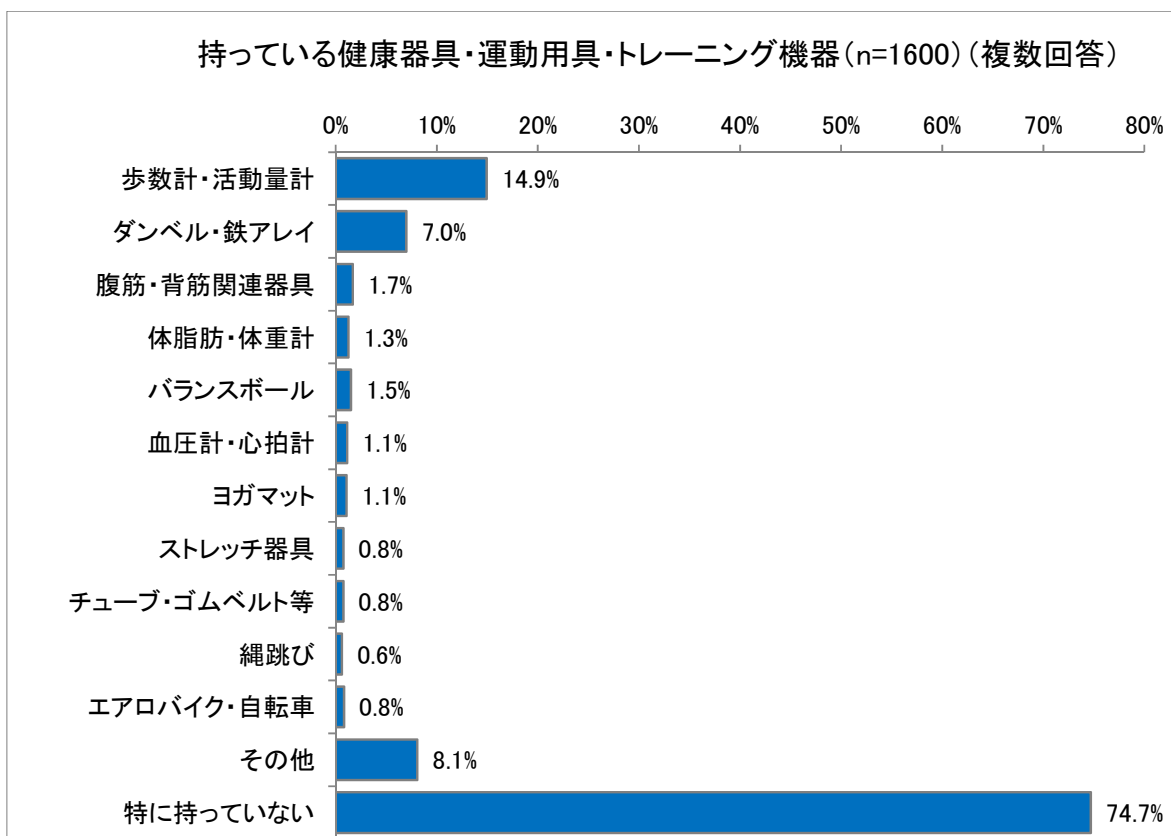


図 83

持っている器具の中では、「歩数計・活動量計」が 14.9%と最も高く、「ダンベル・鉄アレイ」(7.0%)、「腹筋・背筋関連器具」(1.7%)が続いた。

「ウォーキング」「散歩」の実施率が高く、スマートフォンに歩数計機能が付いている事も多いことから、「歩数計・活動量計」の所有者が多いことにつながる結果となった。

(2) 性別・年代別による比較

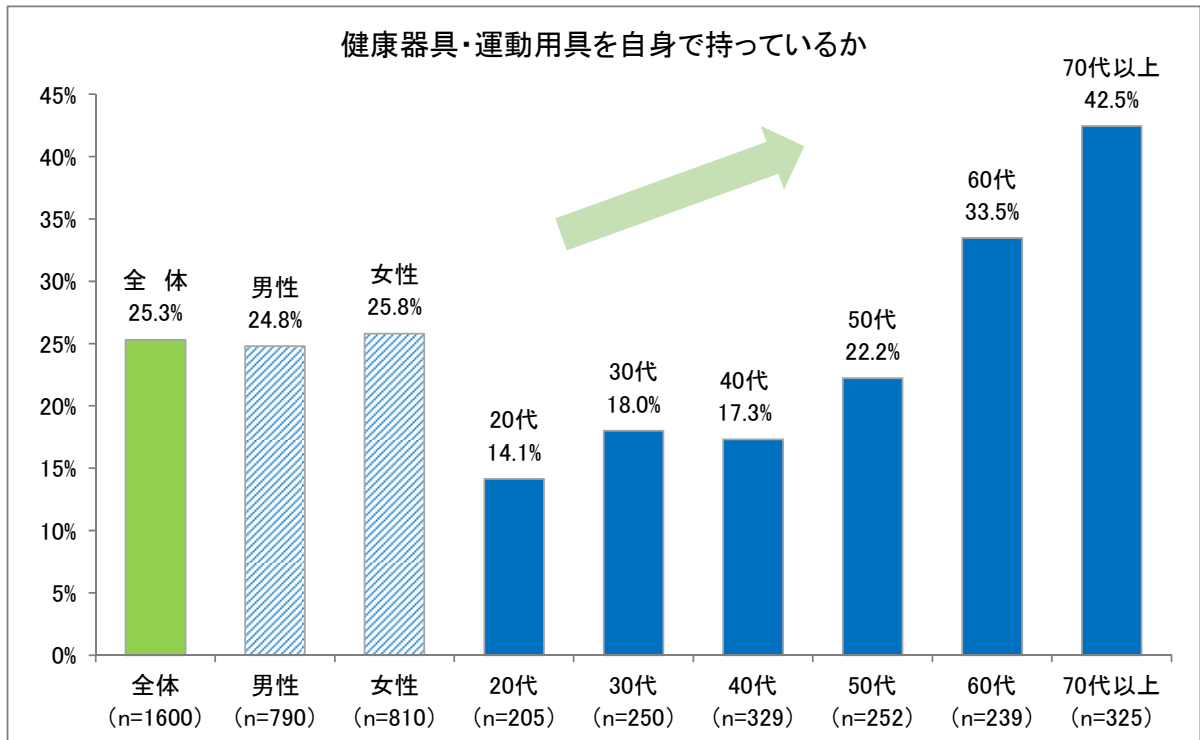


図 84

全回答者の保有率 25.3%に対して、「男性」・「女性」ともに保有率は 25%程度となり、男女間での大きな差は見られなかった。

年代で比較すると、年代が上がるにつれて保有率が徐々に高くなり、「70 代以上」で最も高くなった。保有器具の中でも、「歩数計」の保有率が高かったことから、「ウォーキング」や「散歩」の実施率が高い「60 代」・「70 代以上」の保有率が高くなったと推測される。健康への関心、スポーツ実施率の高さが反映された結果となった。

第3章 考察

3-1 スポーツ実施種目と頻度との関係

各種目を選択した回答者がどの程度の頻度でスポーツを行っているのかを比較し、スポーツの実施種目による頻度の差について分析を行った。

ただし、回答者は複数の種目を行っている場合もあり、この種目のみの実施頻度ではないことに留意する必要がある。

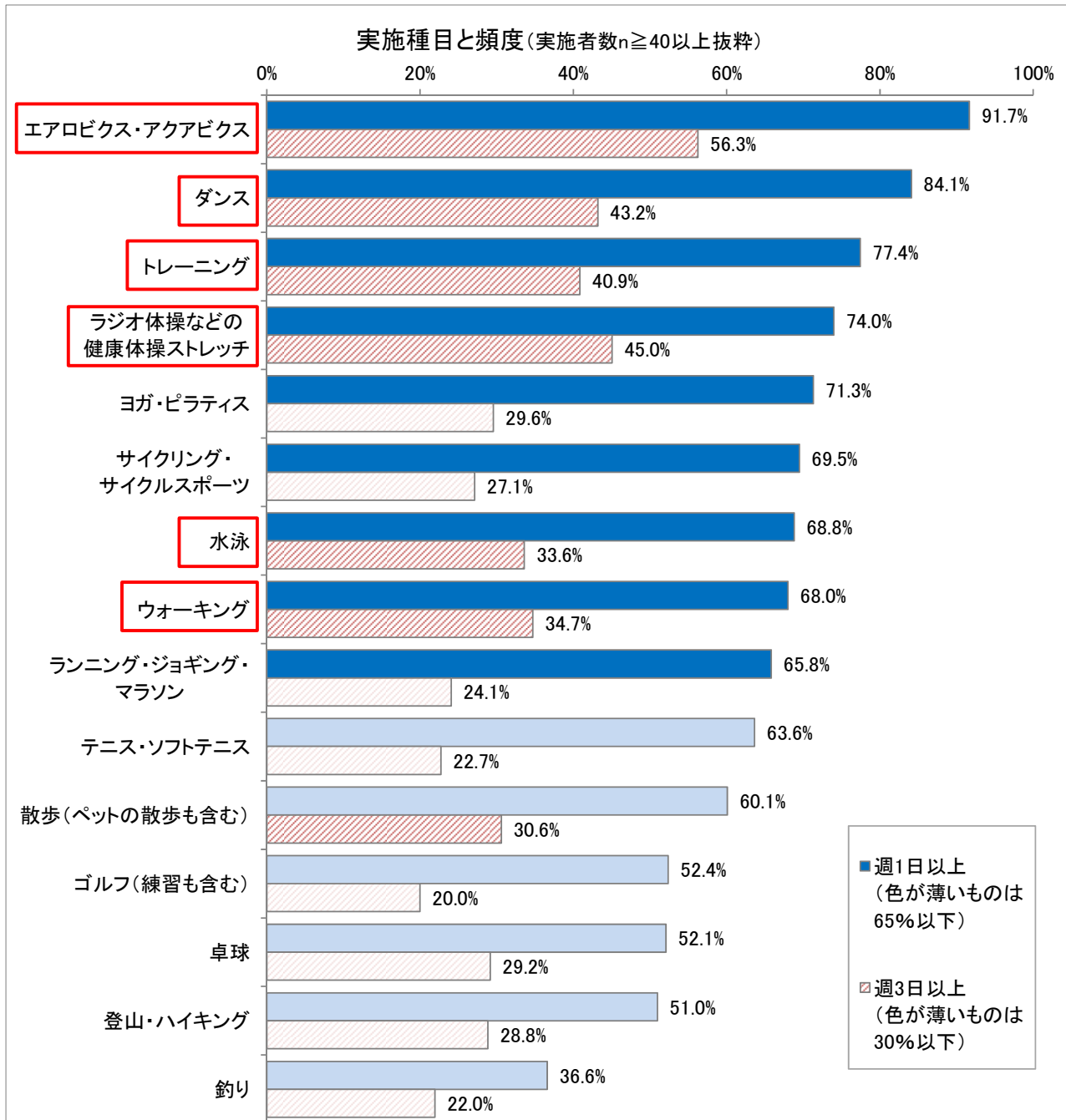


図 85

国や市が掲げる目標は、「週1日以上の実施率65%以上」、「週3日以上の実施率30%以上」となっている。今回は、回答者数が40人以上の種目(n≥40)のみを掲載しているが、両方の目標を満たす実施率となった種目は、わずか6種目だけであった。そこで、6種目について実施頻度が高い要因を探った。

「エアロビクス・アクアビクス」の実施者は、実施頻度が高く、「週1日以上」・「週3日以上」の実施率がともに、どの種目よりも高くなった。また、「ダンス」も同様に実施頻度が高い傾向にある。これらの2種目は、定期的に教室などに通って行っている可能性が高く、教室などに参加することが、スポーツの習慣化につながっていると言える。また、実施者の約8割以上が「女性」ということが大きな特徴である。

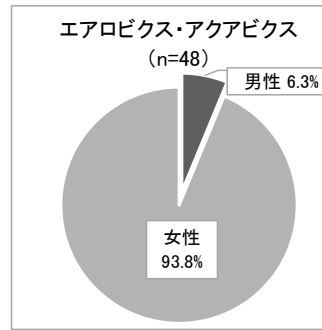


図 86

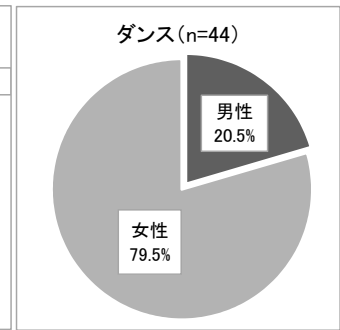


図 87

一方で、「水泳」・「トレーニング」は、実施頻度が高い種目の中でも「男性」の割合が比較的高いことが特徴的である。「水泳」は、教室等に参加している場合だけでなく、個人が定期的に行っている場合もあり、比較的自身で習慣化が図られている種目と考えられる。ただし、いつでもどこでもできる種目ではないことが難点となる。

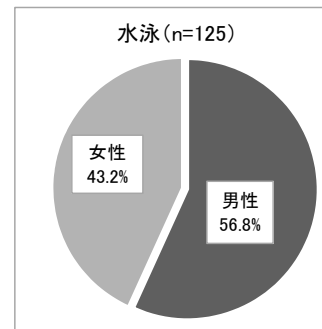


図 88

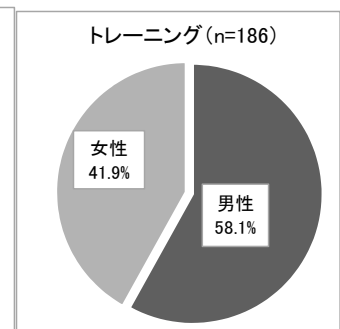


図 89

「健康体操・ストレッチ」や「トレーニング」は、どこかに通って実施している場合と、家庭や職場、身近な場所で行っている場合も考えられ、比較的实施しやすい種目であると言える。習慣化も図りやすいためか、「週に3日以上」の実施率が比較的高いことも特徴となっている。

「健康体操・ストレッチ」は「女性」が、「トレーニング」は、やや「男性」が多くなっているが、いずれも実施者が比較的多い中で、定期的に行っている種目となっている。

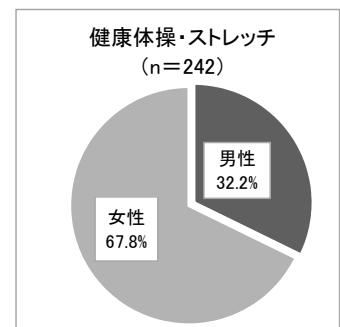


図 90

また、「ウォーキング」は、実施者が最も多い中で、「男性」・「女性」の割合がほぼ同率であり、さらには実施頻度も目標を上回っている種目である。なお、「ウォーキング」の実施者 (n=706) の半数以上が、「ウォーキング」・「散歩」以外にも併行して何かしらの種目を実施している結果となった。

「ウォーキング」や「健康体操・ストレッチ」、「トレーニング」などの種目は、他のスポーツの基礎的な要素ともなることから、これらの種目からまずは始めることが、スポーツの習慣化に向けてもよい取り組みとなる可能性がある。

各種目間には実施頻度に差が見られたことから、実施頻度が目標に達していない種目の実施状況を改善し、頻度の向上につなげる必要がある。

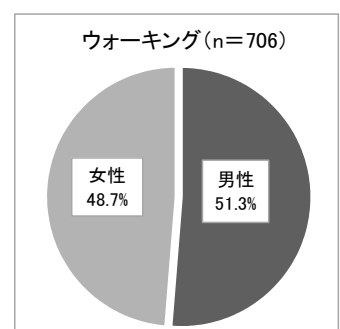


図 91

3-2 年収によるスポーツ実施率の差

回答者の年収とスポーツ実施率を比較し、年収の違いがスポーツ実施率にどのような影響を及ぼすのかについて分析を行った。回答者は「世帯年収」を回答しているため、必ずしも回答者自身の年収を反映している訳ではないことには留意する必要がある。

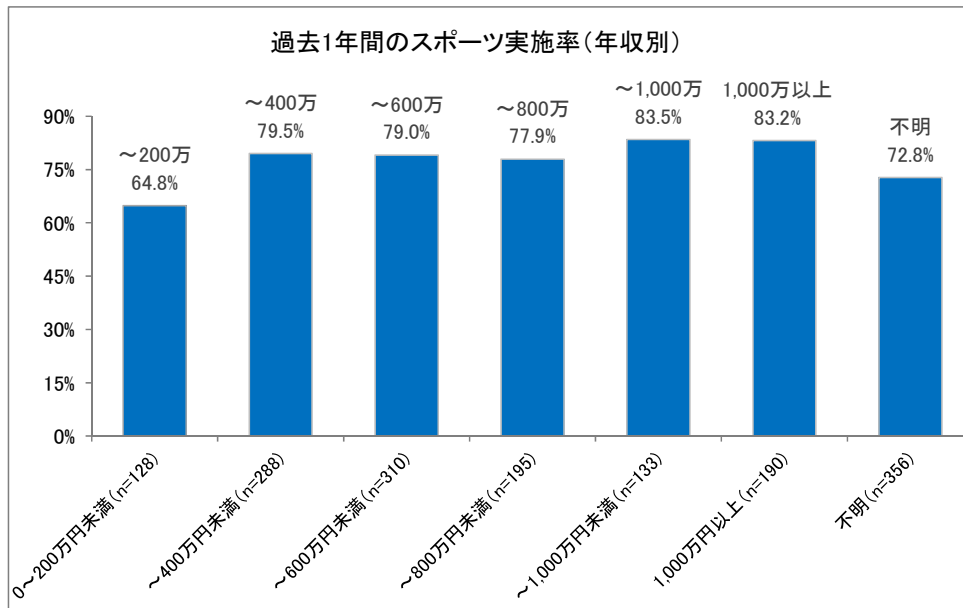


図 92

1年間のスポーツ実施率を年収で比較すると、「800万円」を境に実施率に差が生じており、「800万円以上」は実施率が若干高くなっているものの、有意差はなかった。

次に、世代間における収入差を考慮するため、年代と年収について比較した。

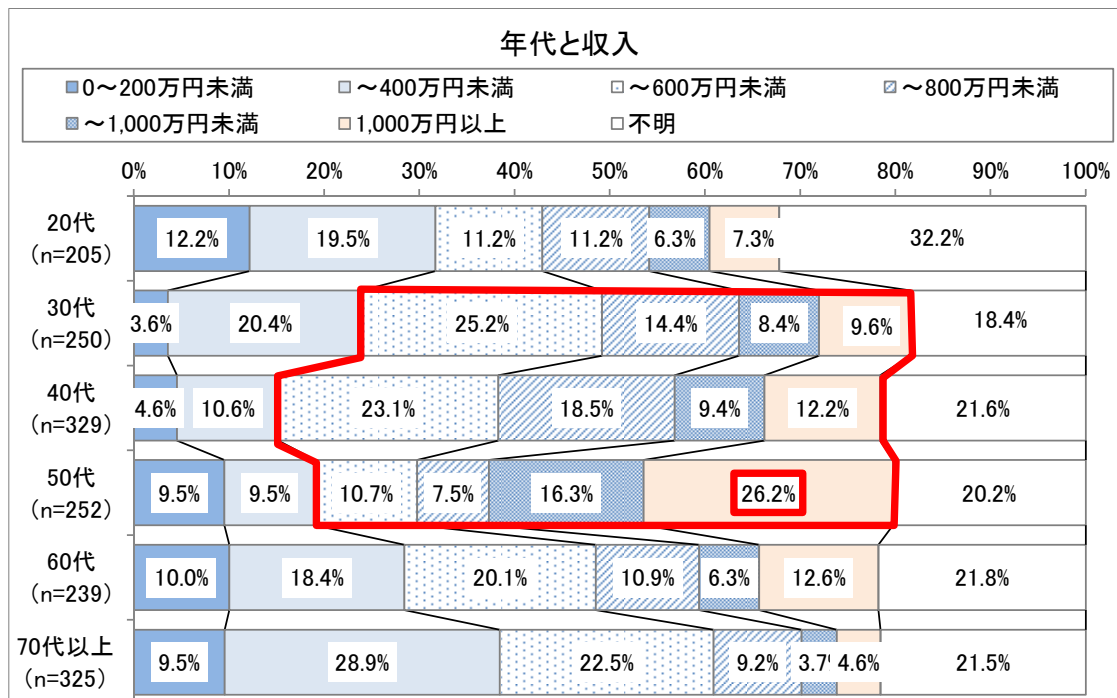


図 93

「20代」は「不明」の割合が高く「0~200万円未満」の割合も高い。「30~50代」は、どの世代も「400万円以上」が60%程度と同程度の割合となっている。「50代」は、「1,000万円以上」が最も高くなっているが、「30代」・「40代」は、「400万円以上」の割合がほぼ同程度となっており、比較がしやすい状況となっている。

そこで、世代間での収入差を考慮し、かつ、実施率が70%台だった「30～50代」に着目し、収入と実施率について比較した。

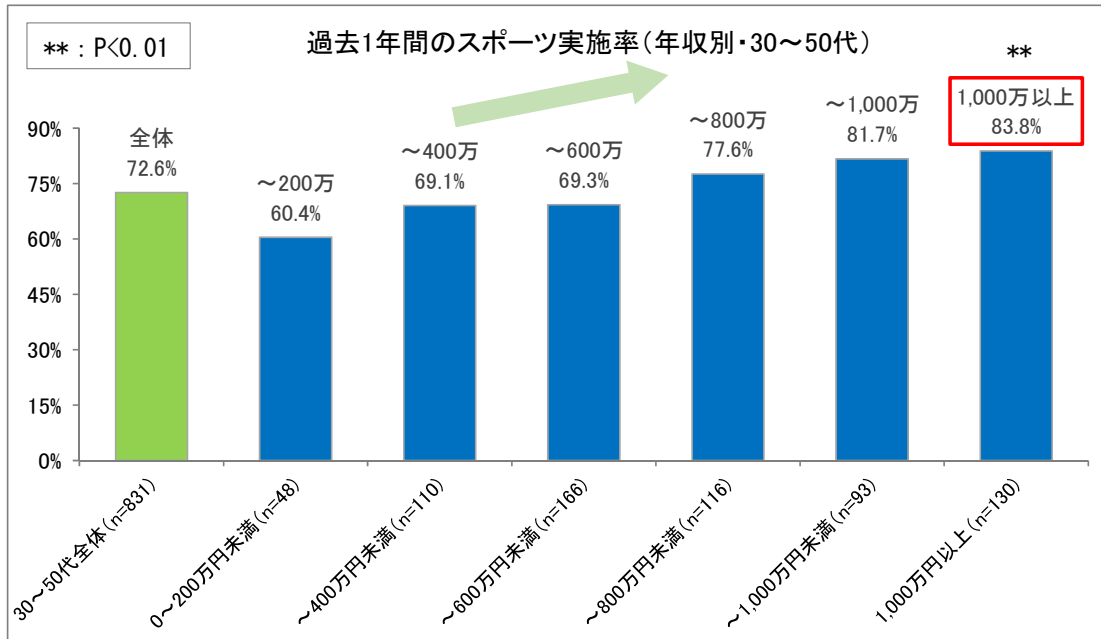


図 94

すると、実施率が最も高い「1,000万円以上」と、実施率が最も低い「0～200万円未満」では、23.4ポイントもの差が出る結果となり、年収が高くなるにつれて、実施率が高くなる傾向となった。

なお、1,000万円以上は、「～200万円未満」・「～400万円未満」・「～600万円未満」に対して有意差があった。

このことから、世帯収入がスポーツ実施率に何らかの影響を与えている可能性がある。スポーツは余暇活動となる部分もあるため、収入差が少なからず影響を与える部分もあるのかもしれない。各世代別での比較も行った結果、同様の傾向が見られたが、「n数」が少なかったためここには掲載していない。

また、年収と実施頻度についても比較したが、相関関係は特に見られなかった。

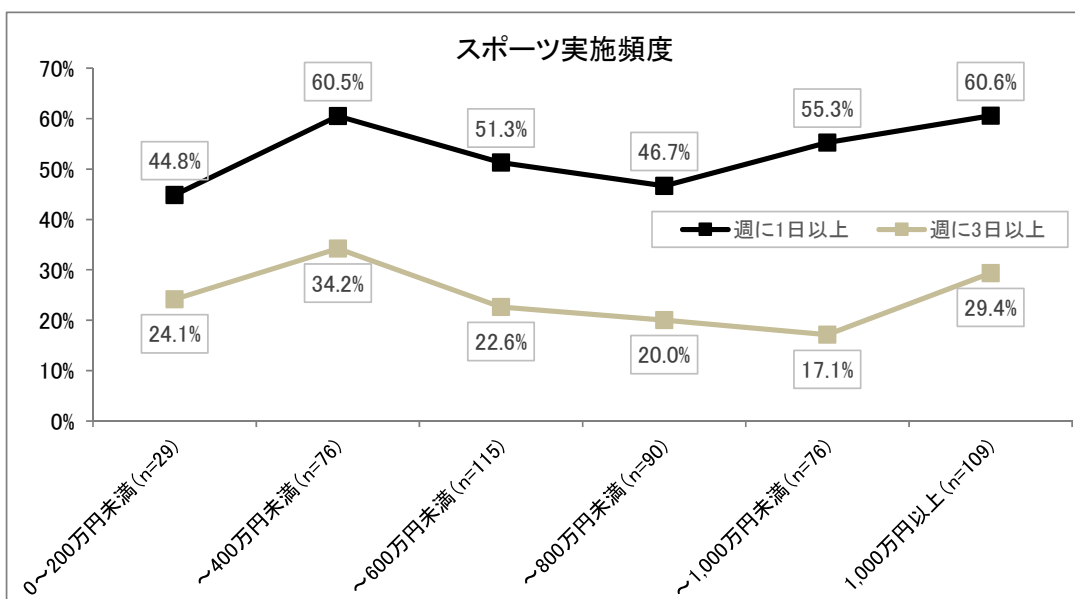


図 95

3-3 働く世代のスポーツ実施者と非実施者【健康に関する意識と行動・医療費】

前項目の「収入とスポーツ実施率」で着目した「30～50代」は、働く世代である。現在、この働く世代に対する健康づくりに注目が高まっていることから、この世代におけるスポーツ「実施者」と「非実施者」に着目し、それぞれの健康への意識や医療費などを比較し分析を行った。

なお、以下のとおり、職業による実施状況の違いも発生することから、「30～50代」の職業として割合が高い、企業に勤めている「正社（職）員」、「契約・嘱託・派遣社（職）員」について分析した。

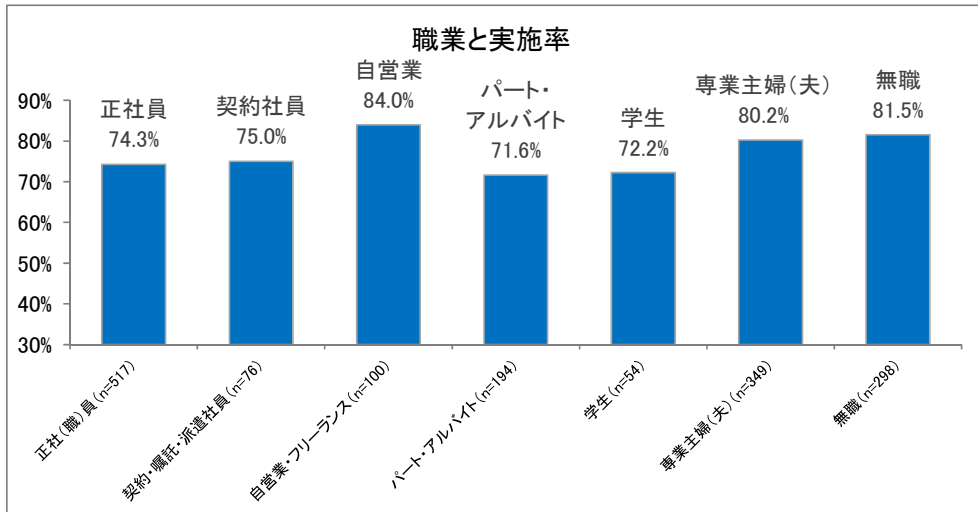


図 96

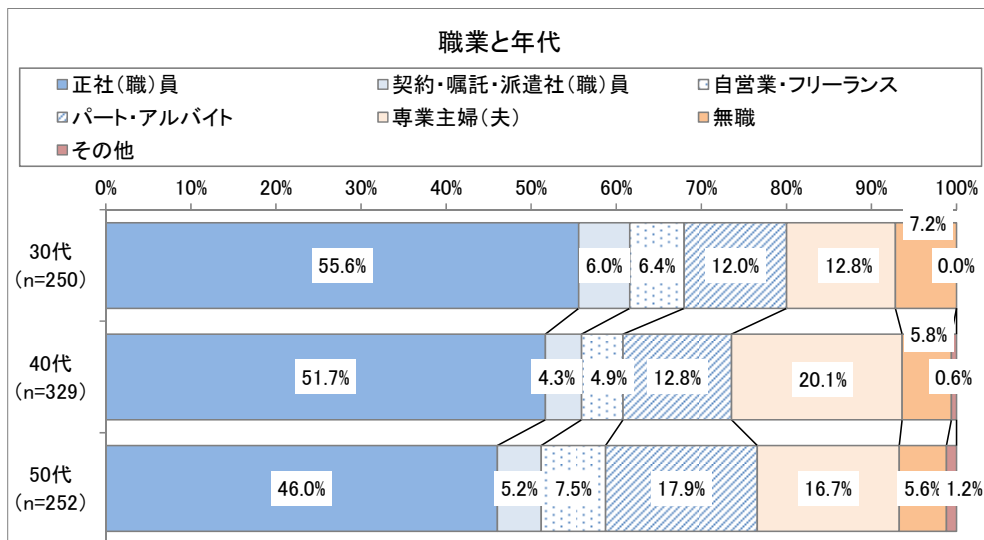


図 97

「働く世代（社（職）員）」の実施率は、74.5%となり、「全体」の実施率よりは若干低くなった。しかし、「30～50代全体」と比較すると、実施率は若干高くなった。

次に、「実施者」と「非実施者」の傾向を分析することとする。

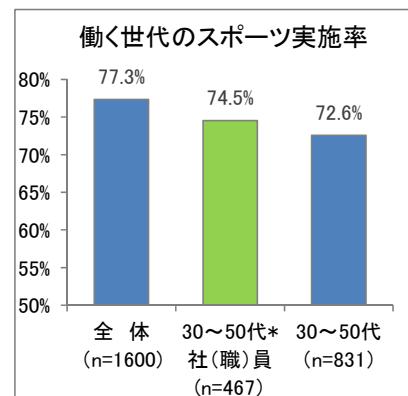


図 98

「実施者」は、スポーツ実施状況に対する「満足」・「やや満足」を足した「満足傾向」が29.6%、「不満」・「やや不満」を足した「不満傾向」が34.2%となり、やや「不満傾向」の方が高くなっている。

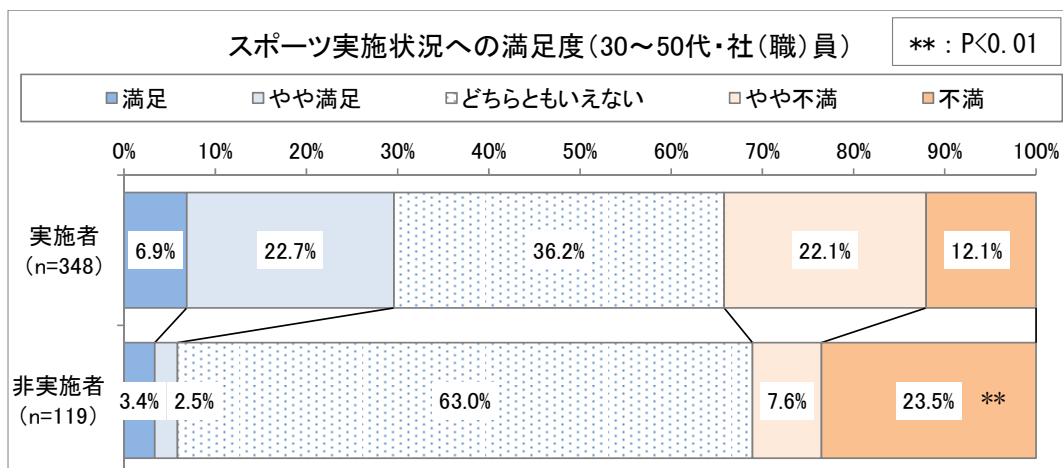


図 99

しかし、「非実施者」の「満足傾向」は、わずか5.9%にとどまっていることに加え、「不満」が23.5%にも達しており、「実施者」との差は10ポイント以上となり、有意差があった。

「非実施者」は、実施できないことに対する「不満」が大きく、「実施者」の抱える「不満」よりも深刻である。やりたくてもできない現状に対して、どのように「できる環境を整えるか」、また、現状の環境でも「できるものを提供するか」が問われている。

ただし、以下のとおり「非実施者」は、運動不足だと「感じている」割合が、「実施者」よりも低く3.5ポイントの差が出たものの、有意差はなかった。「非実施者」も70%近くが「運動不足」を感じているため、この現状の改善が求められる。

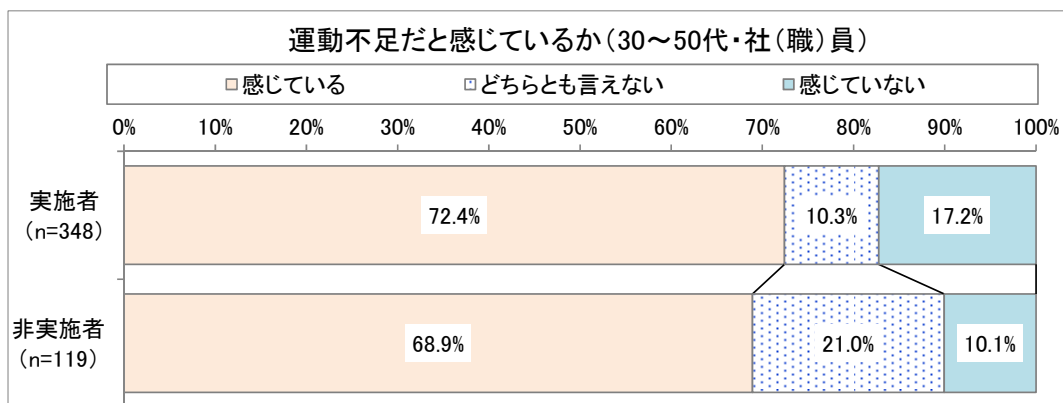


図 100

次に、健康に関する意識に着目すると、「実施者」の方が「非実施者」よりも健康だと「感じている」が32.8%と高く、「非実施者」とは2倍程度の差が生じており、有意差があった。一方で「非実施者」は、健康だと「感じていない」割合が40.3%と高く、「実施者」に対して2倍程度の差が生じており、有意差があった。

「非実施者」は、健康だと「感じていない」意識も高いため、「健康」に向けた取り組みを推奨することで、「スポーツ実施者」に変えていくことも可能な潜在因子でもある。「健康とスポーツ」を関連させ、この層に向けた取り組みを推進していくことがより一層求められる。

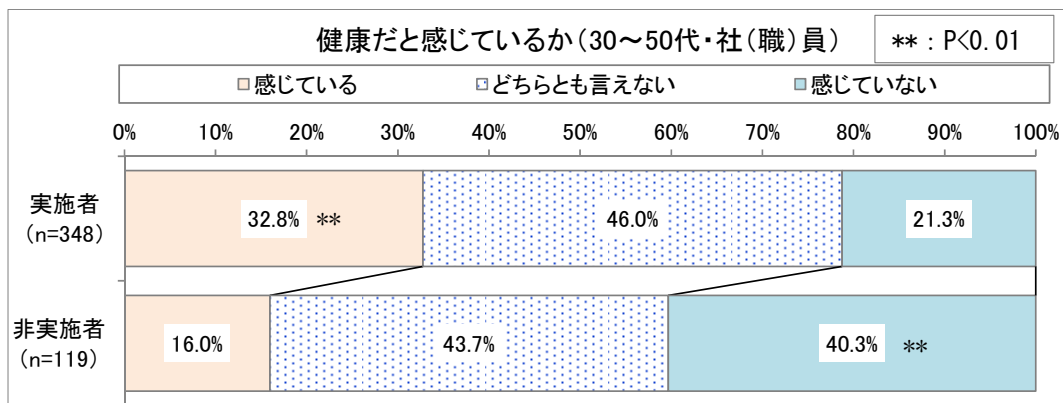


図 101

ただし、「非実施者」は、健康寿命の延伸に対しては、「特に関心がない」が54.6%と過半数を越えており、まずは「関心を持ってもらうこと」から始めることが重要となる。

「日常的に歩きたい」が30%程度いることから、「日常的に歩くようになる仕掛け」も必要である。例えば、スポーツを行うことを主目的とせず、楽しみながら、気づいたら「歩いていた」という形にしていくことも、日常的に歩くようになる仕掛けの1つとして考えられる。

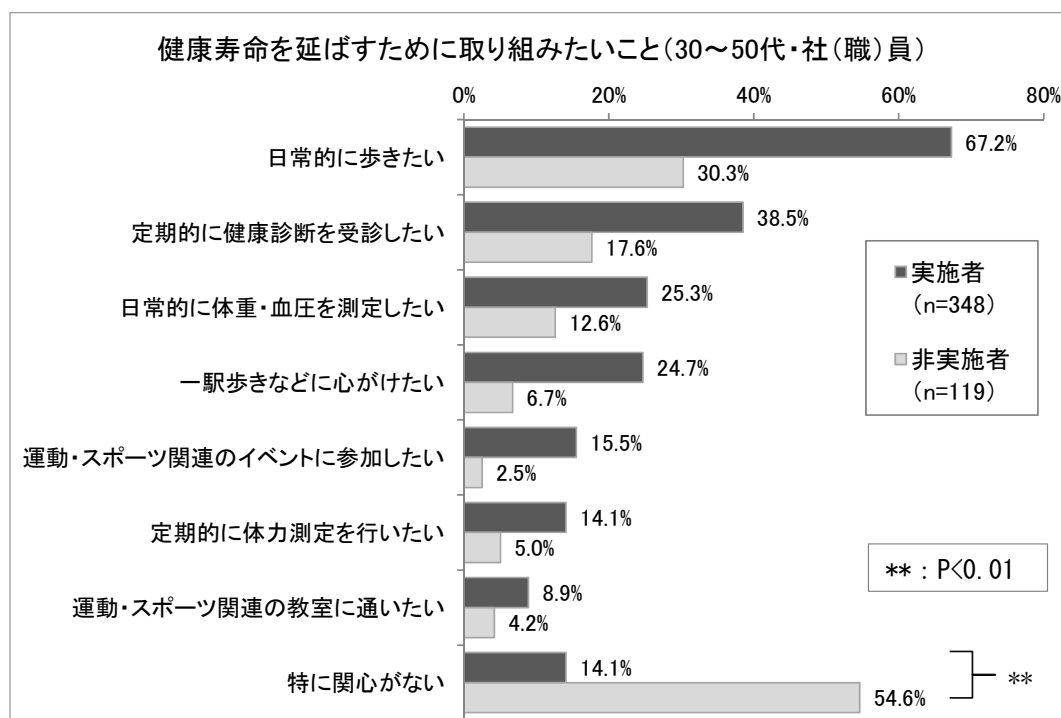


図 102

次に、医療費について着目すると、「実施者」よりも「非実施者」の方が、関心が低いためか「不明」の割合が 33.6%と高かった。また、「実施者」の方が、健康維持に投資する意識の高さの現われか、「非実施者」よりも「5 万円以上」の割合が 18.4%と高い結果となった。

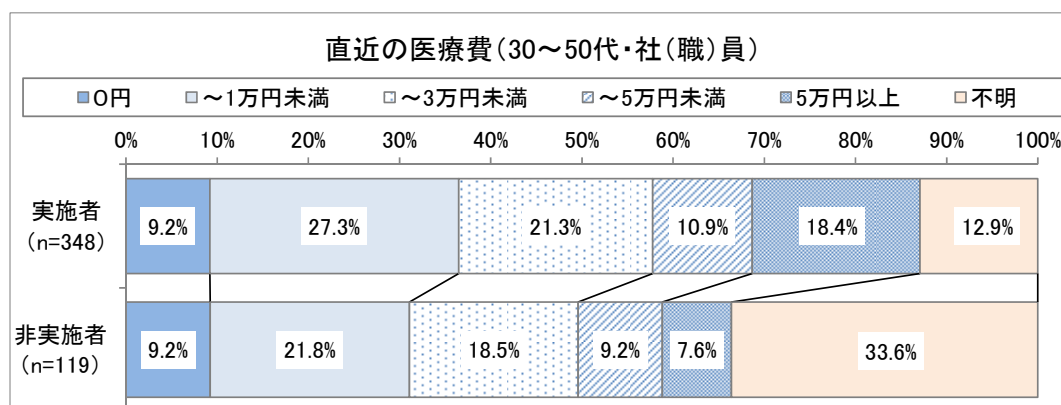


図 103

なお、厚生労働省保険局調査課の『医療保険に関する基礎資料』によると、平成 27 年度の年齢階級別 1 人あたりの自己負担額、保険料及び医療費は、下のとおりとなっている。

30~50 代の平均自己負担額は 3.98 万円となり、「5 万円以上」は平均以上となる。

歳	万円	自己負担額	保険料	医療費
30~34		2.5	24.6	11.4
35~39		2.9	27.5	12.8
40~44		3.3	30.6	14.5
45~49		4.0	33.5	17.9
50~54		5.0	35.3	22.8
55~59		6.2	33.6	28.8
平均		3.98	30.85	18.03

表 9

「非実施者」は、「不明」の割合が高いことが、その他の割合を低くしている可能性もあるため、「不明」回答を除き、再度、医療費を再度検証した。

「実施者」と「非実施者」では、「5 万円未満」の各項目に大きな差は見られなかった。一方、「実施者」の方が「5 万円以上」が 21.2%と高く、2 倍近い差が出る結果となった。

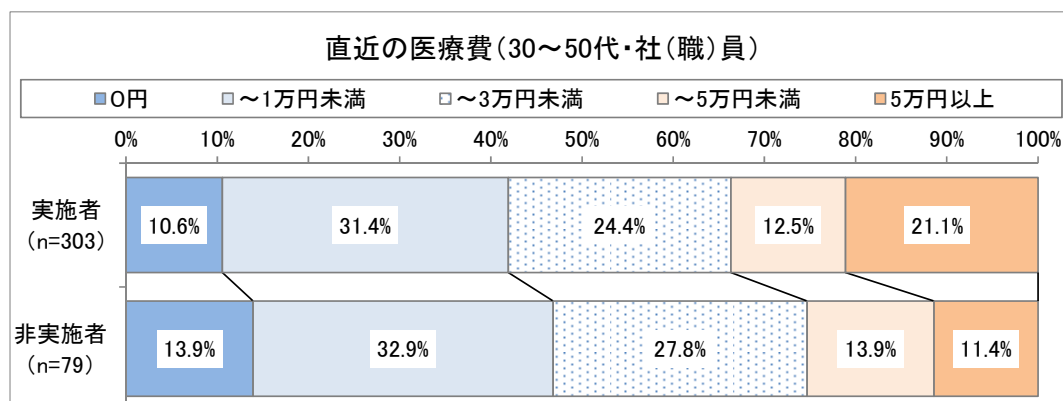


図 104

なお、30～50代の各年代での「実施者」・「非実施者」の傾向も念のため比較した。「30代」は「3万円未満」（医療保険に関する基礎資料による30代の平均値2.7万円）の割合を比較すると「実施者」の方が若干低くなった。それ以外の年代は「n数」が少ないため参考となる。

今回の結果からは、「医療費とスポーツの実施状況」には関係性が見られなかった。医療費は、病状等による費用の変動要素も大きく、また、定期的な検診など各個人の受診状況なども影響が及ぶ。そのため、今回の調査の形式からは、医療費とスポーツとの関係を導き出すことは難しい状況となった。

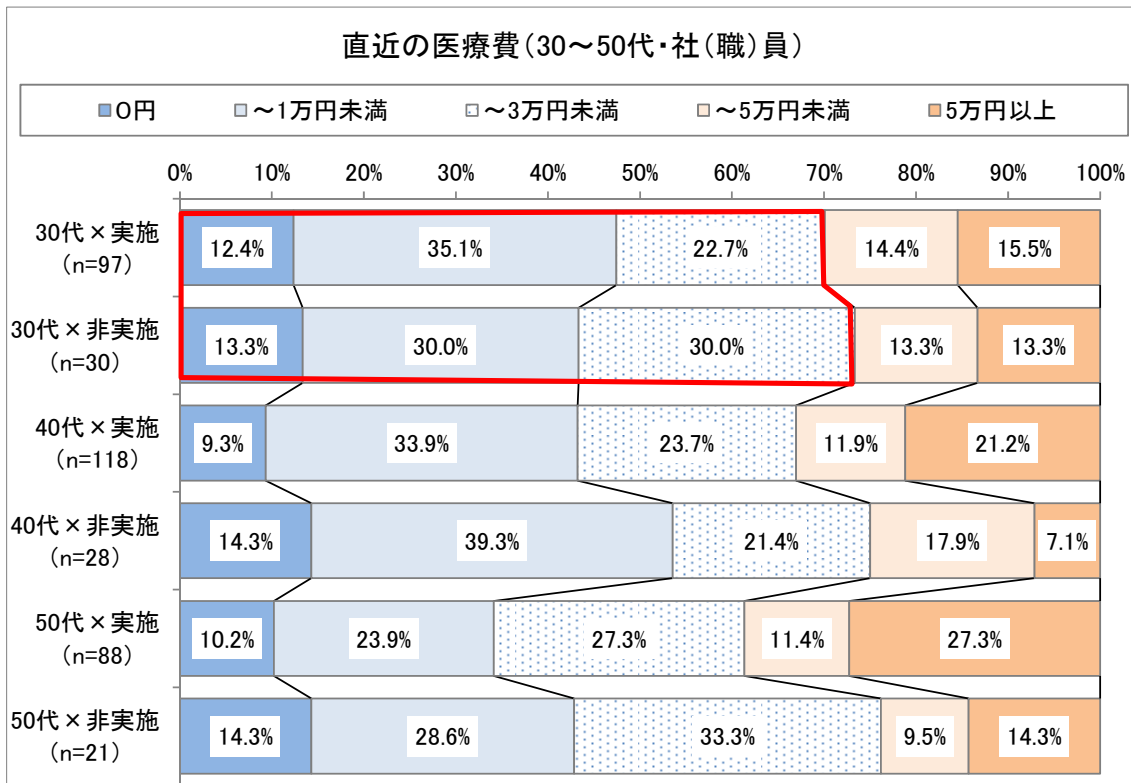


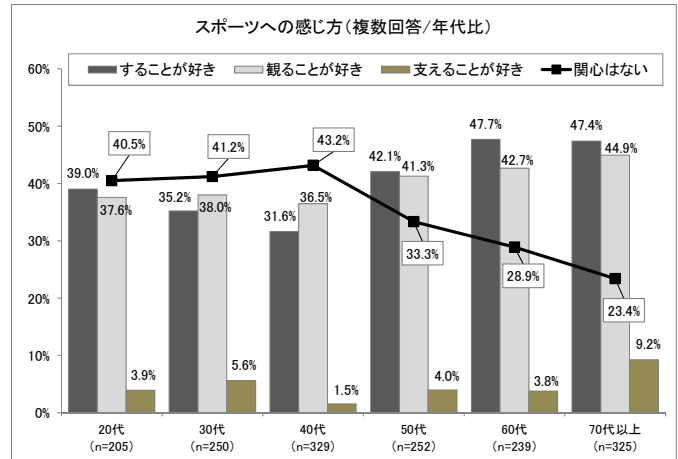
図 105

第4章 まとめ

4-1 スポーツへの感じ方

スポーツは、「することが好き」(40.4%)、「観ることが好き」(40.3%)、「支える活動が好き」(4.8%)、「関心はない」(34.8%)となり、28年度と比較しても、感じ方の割合や傾向ともあまり変化はなかった。「女性」は「男性」よりもスポーツへの関心が低く、「関心はない」が10ポイント以上高く、有意差があった。

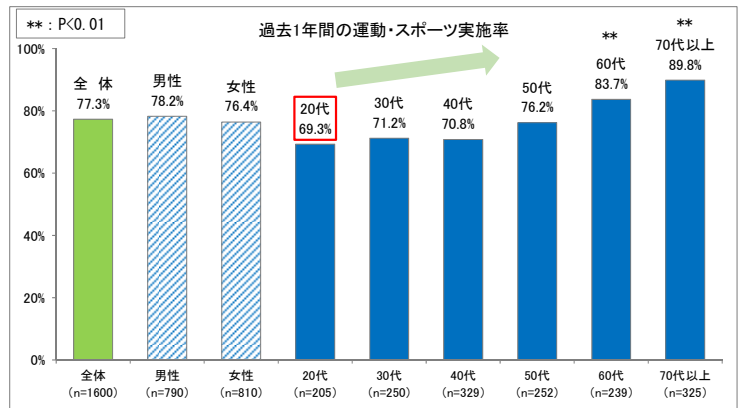
右図のとおり「40代」は、「関心はない」の割合が最も高く、「する・観る・支える」のいずれの割合も最も低くなっている。また、年代が高くなるにつれてスポーツへの関心が高くなる傾向が見られた。



4-2 「する」スポーツ

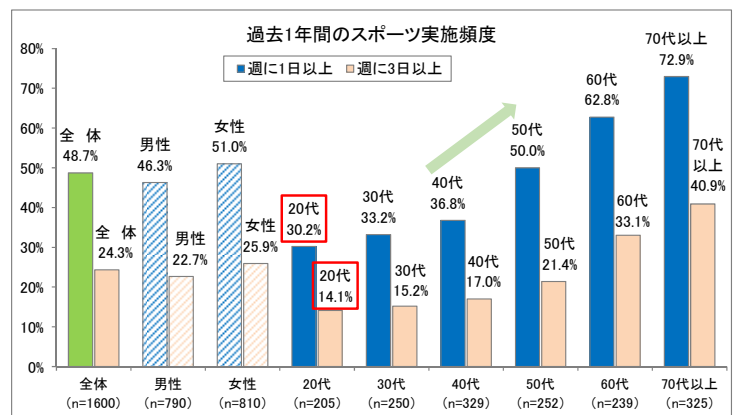
右図のとおり、過去1年間の運動・スポーツ実施率は77.3%(28年度調査▲1.7ポイント減)となった。「男性」の実施率は78.2%、「女性」の実施率は76.4%となり、「男性」の方が「女性」よりも若干実施率が高い結果となった。

年代では、「20代」の実施率が最も低い結果となり、年代が上がるにつれて徐々に実施率が上がる傾向となった。実施率が低



かった20代の中でも、「20代男性」が65.7%と他世代と比較しても大幅に低い結果となった。一方で、「70代以上の男性」は、90%を越える実施率となった。「20代男性」は「70代以上の男性」に対する差が約30ポイント近くなり、有意差があった。女性の中では、「40代女性」の実施率が68.3%と「20代男性」に次ぐ低さとなった。

右図のとおり「週に1日以上」の実施率は48.7%(28年度調査▲3.9ポイント減)、「週に3日以上」の実施率が24.3%(28年度調査▲2.5ポイント減)となった。国・市が掲げる目標(65%・30%)には、それぞれ16.3ポイント、5.7ポイント及ばなかった。



「週に1日以上」・「週に3日以上」とともに、「男性」よりも「女性」の方が高い結果となり、「男性」の方が、1年間のスポーツ実施率が高いものの、その頻度は「女性」の方が高く、定期的に運動・スポーツを行っている結果となった。

「週に1日以上・3日以上」とともに「20代」は最も低く、中でも「20代男性」が最も低くなった。一方で、「70代以上の女性」は最も高くなり、その差は約3倍近くなった。この結果「20代男性」は、実施率も低く、またその実施頻度も低い状態となった。また、女性では「30代女性」が最も低くなった。

4-3 「みる」スポーツ

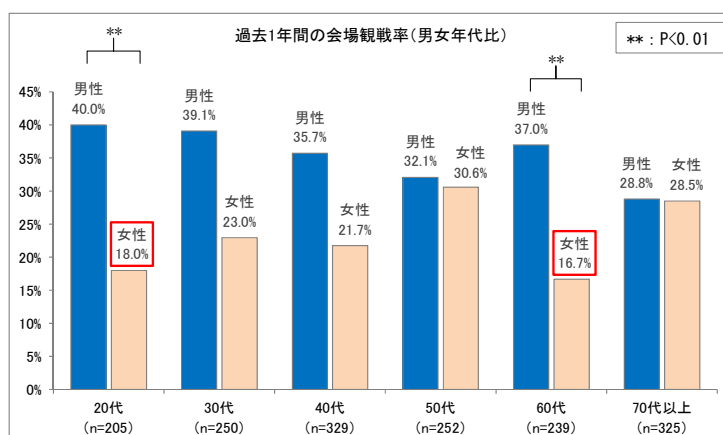
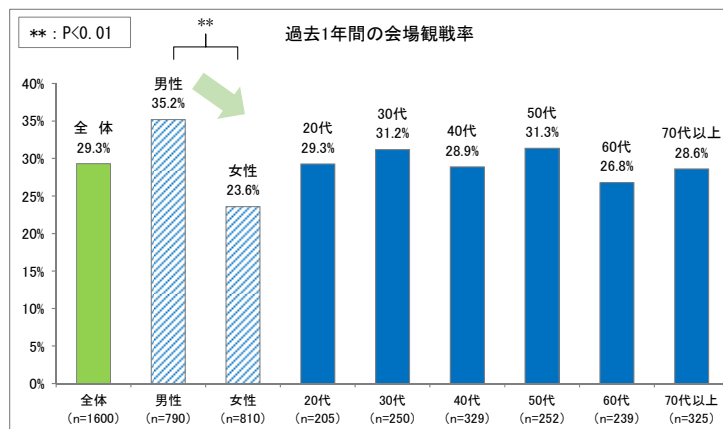
右図のとおり、過去1年間の会場観戦率は、29.3%（28年度調査▲1.2ポイント減）となり、国や市が目標とする50%には及ばなかった。「男性」の観戦率は35.2%、「女性」の観戦率は23.6%となった。「男性」の方が「女性」よりも大幅に観戦率が高く、男女間での観戦率の差は10ポイント以上となり、有意差があった。

年代では、「60代」の観戦率が最も低い結果となり、「50代」が最も高い結果となった。しかし、各年代の観戦率はいずれも概ね30%前後となり、有意差はなかった。

右図のとおり、観戦率が低かった60代の中でも、「60代女性」の観戦率が16.7%と最も低くなった。同じ60代でも「60代男性」は、37.0%と比較的高い観戦率となっており、「60代」における男女間の観戦率には有意差があった。

一方で、「50代」・「70代以上」では、男女間の観戦率に大きな差が見られず、女性の観戦率が比較的高い結果となった。「50代」・「70代以上」は、「配偶者・恋人」との観戦割合が高くなったことから、「夫婦や恋人」との観戦により、「女性」の観戦率の底上げを図ることができる可能性もある。

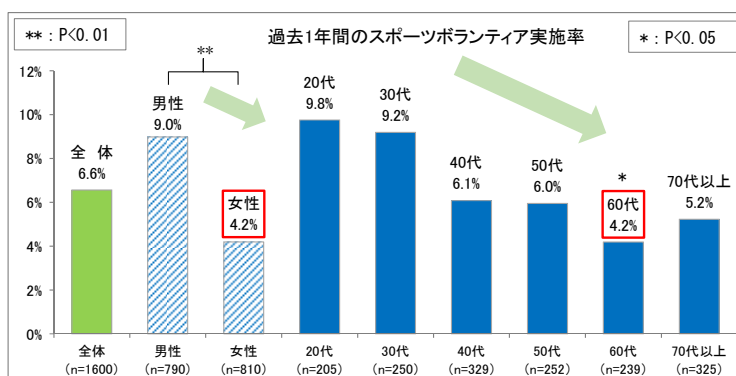
また、「女性」は、「配偶者以外の家族」（24.6%）とも観戦に出かけることが多く、個人よりも複数人で観戦することが多いことから、複数人による観戦環境の整備も求められる。



4-4 「ささえる」スポーツ

右図のとおり、1年間に実施したスポーツボランティア活動の実施率は6.6%（28年度調査+0.3ポイント）となった。「男性」は9.0%、「女性」はわずか4.2%となり、有意差があった。「男性」の方が、「女性」よりもスポーツボランティアの実施率が高い結果となった。

年代では、「20代」・「30代」の実施率が比較的高く、「60代」が4.2%と最も低くなる結果となった。中でも、「60代女性」がわずか2.5%と他の年代と比較しても大幅に低い結果となった。一方で、「20代男性」・「30代男性」は実施率が最も高く、13%を越える結果となった。「20代」・「30代」は、イベント・大会のボランティア情報だけでなく、多種多様なボランティア活動に関する情報を発信することや、情報を得やすい環境を整えること、また、若年層に向けた活動仲間のつながりを作る交流サイトなども実施率の向上につながる可能性がある。

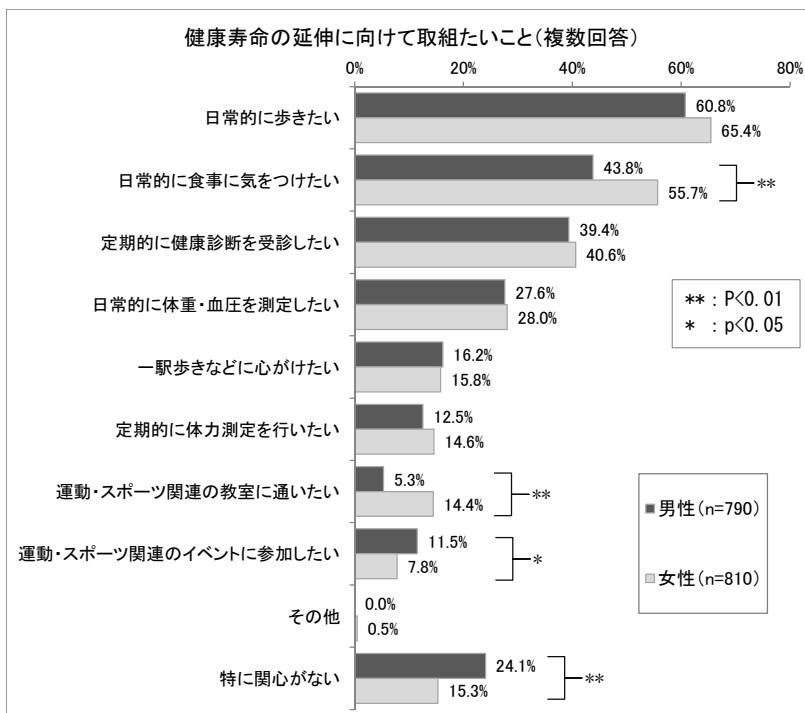


4-5 健康に関する意識と行動

今現在、健康だと「感じている」(34.1%)、「感じていない」(22.7%)となった。「女性」の方が、「男性」よりも健康だと「感じている」割合が高く、その差は約8ポイントとなり、有意差があった。

右図のとおり「女性」は、日常的に「歩きたい」(65.4%)・「食事に気をつけたい」(55.7%)がともに「男性」よりも高い結果となった。特に、「食事」は10ポイント以上も差が出ており有意差があった。「女性」の方が「食事」に気を使っている傾向となった。

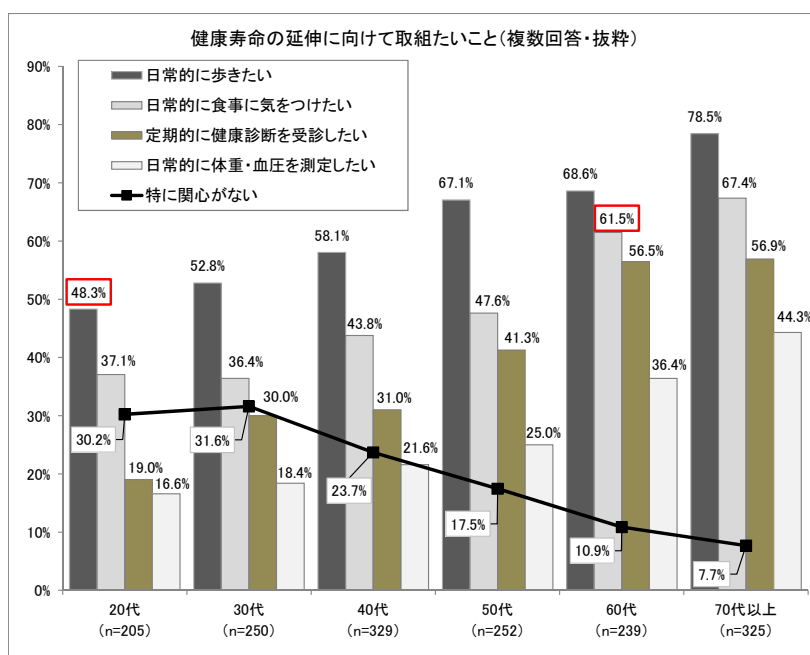
また、「女性」は、「運動・スポーツ関連の教室に通いたい」も14.4%と高く、「教室」に通うことで「定期的に」運動に取り組みたいという傾向がみられた。一方で、「男性」は、「教室」よりも「イベントに参加したい」が11.5%と高く、定期的に活動するよりは、単発的に活動したいという傾向となった。



右図のとおり、年代で見ると「20代」・「30代」では、「特に関心がない」が30%を越える結果となった。関心の低い世代に対して、いかに関心を高めてもらい実践してもらうかが課題となる。その中でも、「日常的に歩きたい」は、健康寿命の延伸に関心の低い「20代」でも48.3%と過半数に迫る結果となっており、関心の低い世代にも効果的な取り組みとなる可能性がある。

「定期的に健康診断を受診したい」は、「20代」では約20%に止まったものの、職場等での受診機会が減少する

「60代」・「70代以上」では過半数を越えるニーズが出る結果となった。



4-6 考察より

(1) スポーツ実施種目と頻度との関係

国や市が掲げる目標「週1日以上・週3日以上の実施率（65%以上・30%以上）」の両方を満たす実施率となった種目は、わずか6種目だけであった。「ウォーキング」は、実施者が最も多い中で、実施者における「男性」・「女性」の割合がほぼ同率であり、さらには実施頻度も両目標を上回る種目となった。なお、「ウォーキング」の実施者（n=706）の半数以上が、「ウォーキング」・「散歩」以外にも併行して何かしらの種目を実施している結果となった。

各種目間には実施頻度に差が見られたことから、実施頻度が目標に達していない種目の実施状況を改善し、頻度の向上につなげる必要がある。

(2) 年収によるスポーツ実施率の差

世代間での収入差を考慮し、かつ、実施率が70%台だった「30～50代」に着目すると、年収が高くなるにつれて、実施率が高くなる傾向となった。1,000万円以上は、「～200万円未満」・「～400万円未満」・「～600万円未満」に対して有意差があった。このことから、世帯収入がスポーツ実施率に何らかの影響を与えている可能性がある。スポーツは余暇活動となる部分もあるため、収入差が少なからず影響を与える部分もあるのかもしれない。

(3) 働く世代のスポーツ実施者と非実施者

右図のとおり「非実施者」は、スポーツの実施状況に対する「不満」が23.5%にも達しており、「実施者」に対して有意差があった。

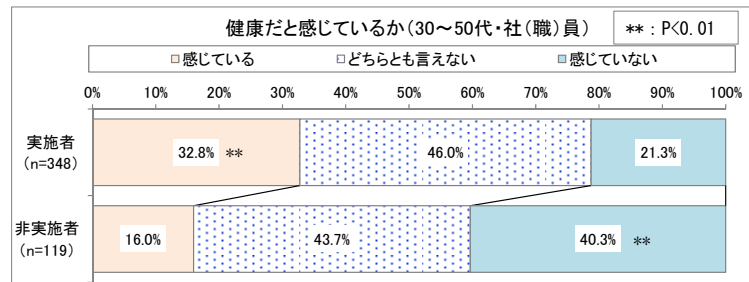
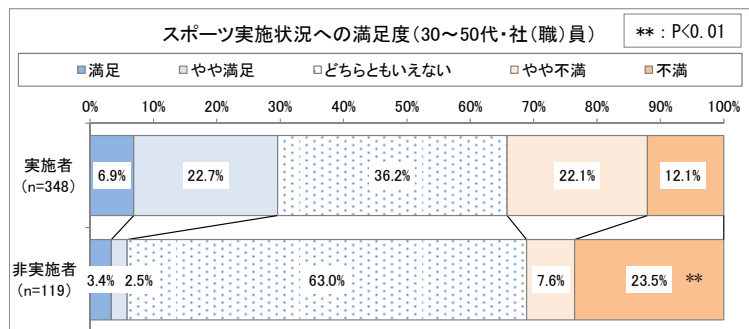
また、70%近くが「運動不足」を感じているため、やりたくてもできない現状に対して、どのように「できる環境を整えるか」、また、現状の環境でも「できるものを提供するか」が問われている。

さらに、右図のとおり「非実施者」は、健康だと「感じていない」意識も高いため、「健康」に向けた取り組みを推奨することで、「スポーツ実施者」に変えていくことも可能な潜在因子でもある。

「健康とスポーツ」を関連させ、この層に向けた取り組みを推進していくことがより一層求められる。

「非実施者」は、健康寿命の延伸に「特に関心がない」が過半数を越えているものの、「日常的に歩きたい」が30%程度いることから、「日常的に歩くようになる仕掛け」も必要である。例えば、スポーツを行うことを主目的とせず、楽しみながら、気づいたら「歩いていた」という形にしていくことも、日常的に歩くようになる仕掛けの1つとして考えられる。

最後に、今後、スポーツ・運動を市民が継続的に実施していくためには、市民のニーズをしっかりと調査・分析した事業を展開する必要がある。いつまでもスポーツが楽しめる明るく豊かな社会が実現されるよう、スポーツに関わる方々にはこの調査結果を参考にさせていただきたい。



付録

1：調査項目と単純集計結果

F1 あなたの性別を教えてください。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	男性	790	49.4
2	女性	810	50.6

F2_1 あなたの年齢はおいくつですか。/歳 (NU)

		回答数	%
全体		1600	100.0
平均値			51.03
最小値			20.00
最大値			90.00

F3 あなたのお住まいの地域をお知らせください。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
14	神奈川県	1600	100.0

F4 あなたのお住まいの区はどちらですか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	横浜市鶴見区	123	7.7
2	横浜市神奈川区	103	6.4
3	横浜市西区	44	2.8
4	横浜市中区	67	4.2
5	横浜市南区	88	5.5
6	横浜市港南区	93	5.8
7	横浜市保土ヶ谷区	89	5.6
8	横浜市旭区	107	6.7
9	横浜市磯子区	73	4.6
10	横浜市金沢区	87	5.4
11	横浜市港北区	147	9.2
12	横浜市緑区	76	4.8
13	横浜市青葉区	129	8.1
14	横浜市都筑区	85	5.3
15	横浜市戸塚区	117	7.3
16	横浜市栄区	53	3.3
17	横浜市泉区	66	4.1

18	横浜市瀬谷区	53	3.3
19	その他の市区町村	0	0.0

F5 いつから横浜市内に住んでいらっしゃいますか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	1歳未満から	420	26.3
2	1歳以上10歳未満から	170	10.6
3	10代から	135	8.4
4	20代以降	875	54.7

F6 あなたのご職業を教えてください。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	正社(職)員	517	32.3
2	契約・嘱託・派遣社(職)員	76	4.8
3	自営業・フリーランス	100	6.3
4	パート・アルバイト	194	12.1
5	学生	54	3.4
6	専業主婦(夫)	349	21.8
7	無職	298	18.6
8	その他	12	0.8

F7 あなたのご家庭の世帯年収はおおよそどのくらいですか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	収入はない	25	1.6
2	200万円未満	103	6.4
3	200万～400万円未満	288	18.0
4	400万～600万円未満	310	19.4
5	600万～800万円未満	195	12.2
6	800万～1,000万円未満	133	8.3
7	1,000万円以上	190	11.9
8	わからない	356	22.3

F8 あなたはご結婚されていますか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	未婚	520	32.5
2	既婚	1080	67.5

F9 お子様はいらっしゃいますか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	いる	887	55.4
2	いない	713	44.6

F10 お子様の年齢層について該当するものを全てお選びください。(MA)

		回答数	%
全体		887	100.0
1	未就学児	123	13.9
2	小学生	105	11.8
3	中学生	63	7.1
4	高校生	73	8.2
5	大学(院)生・短期大学生・専門学校生	101	11.4
6	社会人(正社員・アルバイト・フリーター含む)	509	57.4
7	専業主婦・主夫	112	12.6
8	その他	1	0.1

F11 あなたは、地域のコミュニティー活動やクラブなどに参加していますか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	自治会・町内会・管理組合	352	22.0
2	スポーツクラブ・サークル(総合型地域スポーツクラブなど)	96	6.0
3	カルチャークラブ・サークル	82	5.1
4	お祭りなどのイベントの実行委員会	44	2.8
5	老人会(クラブ)	33	2.1
6	P T A	30	1.9
7	青少年指導員・スポーツ推進委員・民生委員	21	1.3
8	消防団	12	0.8
9	その他	21	1.3
10	特に参加していない	1128	70.5

Q1 運動・スポーツについて、どのように感じていますか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	することが好き	646	40.4
2	観ることが好き	644	40.3
3	ボランティア活動などの支える活動が好き(大会の手伝いや指導など)	76	4.8
4	関心はない	557	34.8

Q2 現在の運動・スポーツ実施状況に満足していますか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	満足	128	8.0
2	やや満足	299	18.7
3	どちらともいえない	700	43.8
4	やや不満	274	17.1
5	不満	199	12.4

Q3 今現在、ご自身は運動不足だと感じていますか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	感じている	1069	66.8
3	どちらとも言えない	218	13.6
2	感じていない	313	19.6

Q4 この1年間に、どのような運動・スポーツをしましたか。あてはまるものを全て教えてください。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	ウォーキング(意識して長く歩く、速く歩く、通勤通学の際の一駅歩きなども含む)	706	44.1
2	散歩(ペットの散歩も含む)	644	40.3
3	ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ	242	15.1
4	トレーニング(エアロバイクなど室内運動器具を使ってする運動・腹筋・腕立て等含む)	186	11.6
5	ランニング・ジョギング・マラソン	158	9.9
6	水泳	125	7.8
7	ヨガ・ピラティス	115	7.2
8	ゴルフ(練習も含む)	105	6.6
9	登山・ハイキング	104	6.5
10	テニス・ソフトテニス	66	4.1
11	サイクリング・サイクルスポーツ	59	3.7
12	エアロビクス・アクアビクス	48	3.0
13	卓球	48	3.0

14	ダンス（社交ダンス、フラダンス、バレエなど含む）	44	2.8
15	釣り	41	2.6
16	スキー・スノーボードなどの雪上スポーツ	38	2.4
17	サッカー・フットサル	36	2.3
18	ボウリング	36	2.3
19	野球・ソフトボール	35	2.2
20	キャッチボールなどの軽い球技	32	2.0
21	バドミントン	32	2.0
22	さわやかスポーツ・ゆるスポーツなどの軽スポーツ	32	2.0
23	キャンプ・野外活動	31	1.9
24	海水浴（遊泳）	24	1.5
25	太極拳・気功	22	1.4
26	バスケットボール	16	1.0
27	バレーボール・ソフトバレーボール	12	0.8
28	ゲートボール・グラウンドゴルフ	9	0.6
29	サーフィン・ダイビングなどの水上（中）スポーツ	7	0.4
30	空手・ボクシング・柔道・相撲などの武道・格闘技	7	0.4
31	器械体操・新体操	5	0.3
32	陸上競技	5	0.3
33	ボルタリング	4	0.3
34	インラインスケート・スケートボードなどのローラースポーツ	4	0.3
35	ラグビー	3	0.2
36	スケート・ホッケーなどの氷上スポーツ	3	0.2
37	弓道などの射的スポーツ	2	0.1
38	その他	11	0.7
39	行っていない	363	22.7

Q5 この1年間に前問でお答えになった運動・スポーツの実施日数は全部でどのくらいになりますか。（S A）

		回答数	%
全体		1237	100.0
1	年に1～3日	119	9.6
2	3ヶ月に1～2日（年4～11日）	111	9.0
3	月に1～3日程度（年12～50日）	228	18.4
4	週に1日程度（年51～100日）	208	16.8
5	週に2日程度（年101～150日）	182	14.7
6	週に3日以上（年151日以上）	220	17.8
7	ほぼ毎日	169	13.7

Q6 今後はどのような運動・スポーツを行ってみたいですか。今行っているものも含めてご回答ください。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	ウォーキング（意識して長く歩く、速く歩く、通勤通学の際の一駅歩きなども含む）	730	45.6
2	散歩（ペットの散歩も含む）	578	36.1
3	トレーニング（エアロバイクなど室内運動器具を使ってする運動・腹筋・腕立て等含む）	275	17.2
4	ラジオ体操などの健康体操・美容体操・ストレッチ	267	16.7
5	ヨガ・ピラティス	242	15.1
6	水泳	219	13.7
7	ランニング・ジョギング・マラソン	208	13.0
8	登山・ハイキング	177	11.1
9	テニス・ソフトテニス	113	7.1
10	ゴルフ（練習も含む）	103	6.4
11	サイクリング・サイクルスポーツ	95	5.9
12	さわやかスポーツ・ゆるスポーツなどの軽スポーツ	95	5.9
13	スキー・スノーボードなどの雪上スポーツ	85	5.3
14	ダンス（社交ダンス、フラダンス、バレエなど含む）	84	5.3
15	卓球	83	5.2
16	釣り	83	5.2
17	エアロビクス・アクアビクス	81	5.1
18	バドミントン	77	4.8
19	キャンプ・野外活動	75	4.7
20	ボウリング	70	4.4
21	太極拳・気功	65	4.1
22	キャッチボールなどの軽い球技	50	3.1
23	野球・ソフトボール	48	3.0
24	ボルタリング	47	2.9
25	サッカー・フットサル	40	2.5
26	海水浴（遊泳）	38	2.4
27	サーフィン・ダイビングなどの水上（中）スポーツ	35	2.2
28	弓道などの射的スポーツ	28	1.8
29	空手・ボクシング・柔道・相撲などの武道・格闘技	27	1.7
30	バスケットボール	26	1.6
31	バレーボール・ソフトバレーボール	20	1.3
32	スケート・ホッケーなどの氷上スポーツ	16	1.0
33	陸上競技	10	0.6
34	インラインスケート・スケートボードなどのローラースポーツ	9	0.6
35	ゲートボール・グラウンドゴルフ	7	0.4
36	器械体操・新体操	5	0.3

37	ラグビー	2	0.1
38	その他	9	0.6
39	行ってみたいものはない	315	19.7

Q7 この1年間に、プロスポーツやトップアスリートが参加するスポーツを、開催会場や間近で直接観戦しましたか。あてはまるものを全て教えてください。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	野球・ソフトボール	217	13.6
2	マラソン(駅伝も含む)	144	9.0
3	サッカー・フットサル	99	6.2
4	陸上競技(マラソン・駅伝以外)	42	2.6
5	ゴルフ	42	2.6
6	テニス・ソフトテニス	29	1.8
7	バレーボール・ソフトバレーボール	26	1.6
8	プロレス・空手・ボクシング・柔道・相撲などの武道・格闘技	26	1.6
9	ラグビー	24	1.5
10	水泳競技	23	1.4
11	体操競技	22	1.4
12	ダンス(社交ダンス、フラダンス、バレエなど含む)	21	1.3
13	バスケットボール	21	1.3
14	卓球	19	1.2
15	バドミントン	15	0.9
16	スケート・ホッケーなどの氷上スポーツ	15	0.9
17	モータースポーツ	14	0.9
18	トライアスロン	9	0.6
19	アメリカンフットボール	8	0.5
20	スキー・スノーボードなどの雪上スポーツ	6	0.4
21	サイクリング・サイクルスポーツ	4	0.3
22	ボウリング	3	0.2
23	釣り	2	0.1
24	その他	6	0.4
25	観ていない	1131	70.7

Q8 観戦に行った回数はこの1年間でどのくらいですか。(SA)

		回答数	%
全体		469	100.0
1	1～2回	311	66.3
2	3～5回(3ヶ月に1回程度)	98	20.9
3	6～8回(2ヶ月に1回程度)	31	6.6
4	約10回(月に1回程度)	16	3.4
5	それ以上	13	2.8

Q9 観戦に行ったのはどのような理由からですか。(MA)

		回答数	%
全体		469	100.0
1	好きな種目・競技だから	285	60.8
2	好きなチーム(選手)が出場するから	173	36.9
3	チケットが手に入ったから	120	25.6
4	家族や友人、仲間に誘われたから	120	25.6
5	会場へのアクセスが良いから	79	16.8
6	飲食・物販が楽しみだから	18	3.8
7	会場の席やモニターなどの観戦環境が良いから	16	3.4
8	会場周辺の観光が楽しみだから	14	3.0
9	会場内・周辺でのアトラクションが楽しみだから	10	2.1
10	選手と交流ができるから	7	1.5
11	会場内での特別コンテンツ配信が充実しているから	4	0.9
12	その他	11	2.3

Q10 観戦には、誰と行くことが多かったですか。(MA)

		回答数	%
全体		469	100.0
1	配偶者・恋人	187	39.9
2	友人・知人	135	28.8
3	一人で	134	28.6
4	配偶者以外の家族	102	21.7
5	職場の人	41	8.7
6	観戦仲間	12	2.6
7	住んでいる地域の人	10	2.1
8	その他	5	1.1

Q11 どのようなきっかけがあれば（どのような点が変われば）、今よりも観戦に出かけますか。（MA）

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	チケットが手に入れば	530	33.1
2	家族や友人、仲間に誘われれば	382	23.9
3	会場へのアクセスが良ければ	367	22.9
4	好きなチーム（選手）ができれば	298	18.6
5	好きなチーム（選手）が強ければ	185	11.6
6	会場の席やモニターなどの観戦環境が良くなれば	107	6.7
7	会場周辺の観光が楽しければ	83	5.2
8	飲食・物販の質が上がれば	53	3.3
9	会場内・周辺でのアトラクションが楽しければ	50	3.1
10	選手と交流ができれば	48	3.0
11	会場内での特別コンテンツ配信が充実すれば	19	1.2
12	その他	21	1.3
13	どのようなきっかけがあっても観戦には行かない／頻度は変わらない	594	37.1

Q12 あなた自身がこの1年間にスポーツ観戦に費やしたチケット代金はどのくらいですか。（SA）

		回答数	%
全体		469	100.0
1	0円	99	21.1
2	1円～3千円未満	66	14.1
3	3千円～5千円未満	77	16.4
4	5千円～1万円未満	77	16.4
5	1万円～2万円未満	57	12.2
6	2万円～5万円未満	40	8.5
7	5万円以上	17	3.6
8	わからない	36	7.7

Q13 プロスポーツやトップアスリートが参加するスポーツについて今後開催会場や間近で直接観戦したい種目はありますか。あてはまるものを全て教えてください。（MA）

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	野球・ソフトボール	358	22.4
2	マラソン（駅伝も含む）	264	16.5
3	サッカー・フットサル	243	15.2
4	テニス・ソフトテニス	174	10.9
5	体操競技	138	8.6
6	バレーボール・ソフトバレーボール	128	8.0
7	陸上競技（マラソン・駅伝以外）	121	7.6

8	ゴルフ	107	6.7
9	プロレス・空手・ボクシング・柔道・相撲などの武道・格闘技	106	6.6
10	バスケットボール	101	6.3
11	ラグビー	92	5.8
12	ダンス（社交ダンス、フラダンス、バレエなど含む）	85	5.3
13	水泳競技	85	5.3
14	卓球	82	5.1
15	スケート・ホッケーなどの氷上スポーツ	78	4.9
16	モータースポーツ	74	4.6
17	バドミントン	57	3.6
18	アメリカンフットボール	53	3.3
19	スキー・スノーボードなどの雪上スポーツ	39	2.4
20	トライアスロン	29	1.8
21	サイクリング・サイクルスポーツ	17	1.1
22	ボウリング	17	1.1
23	釣り	14	0.9
24	その他	8	0.5
25	特にない	697	43.6

Q14 お子さんはこの1年間に、プロスポーツやトップアスリートが参加するスポーツを、開催会場や間近で直接観戦していますか。あてはまるものを全て教えてください。（MA）

		回答数	%
全体		285	100.0
1	野球・ソフトボール	32	11.2
2	サッカー・フットサル	23	8.1
3	マラソン（駅伝も含む）	9	3.2
4	陸上競技（マラソン・駅伝以外）	8	2.8
5	バスケットボール	6	2.1
6	ダンス（社交ダンス、フラダンス、バレエなど含む）	4	1.4
7	バレーボール・ソフトバレーボール	4	1.4
8	テニス・ソフトテニス	3	1.1
9	サイクリング・サイクルスポーツ	2	0.7
10	スキー・スノーボードなどの雪上スポーツ	2	0.7
11	トライアスロン	1	0.4
12	水泳競技	1	0.4
13	卓球	1	0.4
14	バドミントン	1	0.4
15	ゴルフ	1	0.4
16	スケート・ホッケーなどの氷上スポーツ	1	0.4
17	ラグビー	1	0.4
18	体操競技	0	0.0

19	アメリカンフットボール	0	0.0
20	ボウリング	0	0.0
21	モータースポーツ	0	0.0
22	プロレス・空手・ボクシング・柔道・相撲などの武道・格闘技	0	0.0
23	釣り	0	0.0
24	その他	1	0.4
25	わからない	6	2.1
26	観ていない	210	73.7

Q15 お子さんが観戦に行った回数はこの1年間でどのくらいですか。(SA)

		回答数	%
全体		69	100.0
1	1～2回	40	58.0
2	3～5回(3ヶ月に1回程度)	15	21.7
3	6～8回(2ヶ月に1回程度)	7	10.1
4	約10回(月に1回程度)	7	10.1
5	それ以上	0	0.0

Q16 この1年間に何かしらのスポーツボランティア活動をしましたか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	イベント・大会などでのボランティア	43	2.7
2	スポーツの指導・コーチ・審判	36	2.3
3	地域のスポーツクラブ、競技団体等の運営補助	27	1.7
4	スポーツ施設の運営補助	16	1.0
5	スポーツイベントを通じた募金やチャリティー活動	9	0.6
6	スポーツ用具等の寄付	6	0.4
7	その他	1	0.1
8	活動していない	1495	93.4

Q17 どのような理由でスポーツボランティア活動に参加しましたか。(MA)

		回答数	%
全体		105	100.0
1	何か社会の役に立ちたいから	30	28.6
2	自分の能力や技術、経験を生かしたいから	28	26.7
3	余暇時間を有意義に過ごしたいから	27	25.7
4	活動を通して友人や仲間を増やしたいから	26	24.8
5	友人や家族に勧められたから	14	13.3
6	職場や学校、地域などの行事の一環として	11	10.5
7	ボランティアの情報を得たから	11	10.5
8	身近に放っておけない問題や課題があったから	7	6.7
9	その他	3	2.9

Q18 この1年間に参加したスポーツボランティア活動には、誰と参加しましたか。(MA)

		回答数	%
全体		105	100.0
1	一人で	39	37.1
2	友人・知人	32	30.5
3	配偶者・恋人	26	24.8
4	子ども	14	13.3
5	住んでいる地域の人	11	10.5
6	職場の人	8	7.6
7	親・兄弟	7	6.7
8	ボランティア仲間	4	3.8
9	その他	1	1.0

Q19 現在、興味のあるスポーツボランティア活動はありますか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	イベント・大会などでのボランティア	142	8.9
2	スポーツ施設の運営補助	66	4.1
3	地域のスポーツクラブ、競技団体等の運営補助	52	3.3
4	スポーツの指導・コーチ・審判	51	3.2
5	スポーツイベントを通じた募金やチャリティー活動	30	1.9
6	スポーツ用具等の寄付	10	0.6
7	その他	1	0.1
8	特にない	1348	84.3

Q20 横浜市内や区内のスポーツに関する情報はどこから入手していますか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	広報よこはま	561	35.1
2	自治会の回覧板、掲示板	240	15.0
3	インターネット（施設やイベントのホームページ）	225	14.1
4	新聞記事	179	11.2
5	家族・友人・知人からの口コミ	164	10.3
6	電車・バス・駅	118	7.4
7	テレビ	115	7.2
8	折込広告	92	5.8
9	雑誌、無料情報誌	67	4.2
10	ハマスポ（情報サイト）	52	3.3
11	Sportsよこはま（情報誌）	44	2.8
12	スポーツ施設	44	2.8
13	ラジオ	27	1.7
14	学校・職場	21	1.3
15	その他	2	0.1
16	特にない	767	47.9

Q21 次の施設・事業の中で知っているものを全て教えてください。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	三ツ沢公園（ニッパツ三ツ沢球技場含む）	709	44.3
2	市内各区のスポーツセンター	691	43.2
3	新横浜公園（日産スタジアム含む）	658	41.1
4	神奈川スケートリンク（横浜銀行アイスアリーナ）	633	39.6
5	横浜文化体育館	547	34.2
6	横浜国際プール	542	33.9
7	屋外プール（本牧市民プール・横浜プールセンター）	399	24.9
8	市内屋内プール（旭・都筑・金沢・栄・港南・保土ヶ谷）	313	19.6
9	横浜市平沼記念体育館	194	12.1
10	横浜市スポーツ医科学センター	136	8.5
11	市内青少年野外活動センター	134	8.4
12	テニスガーデン（根岸・泉中央・緑）	129	8.1
13	鶴見川漕艇場	65	4.1
14	たきがしら会館	45	2.8
15	横浜市少年自然の家（赤城・南伊豆）	45	2.8
16	横浜マラソン	621	38.8
17	よこはまウォーキングポイント	351	21.9
18	ラグビーワールドカップ2019	226	14.1
19	よこはまシティウォーク	166	10.4
20	世界トライアスロンシリーズ横浜大会	131	8.2
21	横浜シーサイドトライアスロン大会	127	7.9
22	ハマスポ（情報サイト）	95	5.9
23	はまちゃん体操	47	2.9
24	東京2020大会での英国オリンピック代表チーム事前キャンプ受入やホストタウン構想	45	2.8
25	Sportsよこはま（情報誌）	44	2.8
26	ヨコハマさわやかスポーツ	36	2.3
27	ハマトレ	34	2.1
28	フィットネスヨコハマ	21	1.3
29	総合型地域スポーツクラブ	18	1.1
30	横浜子どもスポーツ基金	13	0.8
31	横浜市スポーツボランティアセンター	11	0.7
32	YOKOHAMAビーチスポーツフェスタ	10	0.6
33	横浜元気！！スポーツ・レクリエーションフェスティバル	8	0.5
34	横浜ゆるスポーツ協会	8	0.5
35	横浜市スポーツ・レクリエーション人材養成講座	7	0.4
36	特になし	374	23.4

Q22 公共スポーツ施設にどのような事を望みますか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	施設設備（空調・用具など）の充実	427	26.7
2	利用手続き、支払方法などの簡略化	373	23.3
3	駐車場・駐輪場の整備	353	22.1
4	アメニティー（シャワー・トイレなど）の充実	257	16.1
5	高齢者や障害者に配慮した施設整備	240	15.0
6	館内の美化	238	14.9
7	スポーツ教室やイベント内容の充実	226	14.1
8	アフタースポーツ施設（レストランなど）の充実	187	11.7
9	教室やイベントなどの広報の充実	179	11.2
10	利用時間の拡充（早朝、深夜など）	178	11.1
11	健康やスポーツに関する情報の充実	178	11.1
12	利用案内等の広報の充実	157	9.8
13	健康・体力相談体制の充実	141	8.8
14	お客様対応の向上	129	8.1
15	インターネット環境・W i f i 環境の充実	128	8.0
16	指導者の質の向上	98	6.1
17	託児サービスの充実	71	4.4
18	全国的・国際的規模の大会や区民大会・市民大会の充実	36	2.3
19	その他	13	0.8
20	特にない	676	42.3

Q23 今現在、ご自身は健康だと感じていますか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	感じている	546	34.1
2	どちらとも言えない	691	43.2
3	感じていない	363	22.7

Q24 あなた自身の直近1年間の医療費はいくらくらいでしたか。(SA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	0円	148	9.3
2	1円～1万円未満	374	23.4
3	1万円～3万円未満	299	18.7
4	3万円～5万円未満	156	9.8
5	5万円～7万円未満	81	5.1
6	7万円～10万円未満	68	4.3
7	10万円～12万円未満	42	2.6
8	12万円以上	140	8.8
9	わからない・覚えていない	292	18.3

Q25 健康寿命を延ばすために、ご自身取り組みたいと思うことは何ですか。(MA)

		回答数	%
全体		1600	100.0
1	日常的に歩きたい	1010	63.1
2	日常的に食事に気をつけたい	797	49.8
3	定期的に健康診断を受診したい	640	40.0
4	日常的に体重・血圧を測定したい	445	27.8
5	一駅歩きなどに心がけたい	256	16.0
6	定期的に体力測定を行いたい	217	13.6
7	運動・スポーツ関連の教室に通いたい	159	9.9
8	運動・スポーツ関連のイベントに参加したい	154	9.6
9	その他	4	0.3
10	特に関心がない	314	19.6

Q26 ご自身でお持ちになっている健康器具、運動用具、トレーニング機器などがありましたら教えてください。(SA)

		回答数	%
全体		1195	100.0
1	持っている	0	0.0
2	特に持っていない	1195	100.0

2：自由回答欄の回答内容

ここでは、各設問の「その他」欄に記入していただいた内容を掲載している。

なお、原則として原文のまま掲載しているが、個人や団体が特定できるものについては伏せ字としている。

設問 4 「この1年間に行った運動・スポーツ」で「その他」と回答した方の内容		
・ジム(2) ・筋トレ ・機械による運動 ・太鼓	・乗馬 ・なわとび ・ヨガ	・グラウンドゴルフ ・ストレッチ ・パークゴルフ

設問 6 「今後行いたい運動・スポーツ」で「その他」と回答した方の内容		
・グラウンドゴルフ ・パークゴルフ ・乗馬	・ダンス ・筋トレ ・太鼓	・ストレッチ ・水中ウォーキング ・タップダンス

設問 7 「この1年間に観戦したプロスポーツやトップアスリートが参加する試合・大会」で「その他」と回答した方の内容		
・バスケットボール ・F1	・ボクシング ・フィギュアスケート	・ウィンドサーフィン ・スケート

設問 9 「観戦に行った理由」で「その他」と回答した方の内容		
・近くを通ったから(2) ・毎年恒例 ・誘われて	・近所だったから(2) ・友人がいるから ・招待	・応援 ・自宅が大学駅伝コースに近い

設問 10 「誰と観戦に行くことが多いか」で「その他」と回答した方の内容		
・子ども(3)	・弟	・孫

設問 11 「どのようなきっかけがあれば今より観戦に行くか」で「その他」と回答した方の内容		
・時間の余裕があれば(6) ・若くなれば ・スカウト ・その時の気分 ・愛犬を看取れば	・観戦料が安くなれば(3) ・会場が混雑しなければ ・お小遣いがあれば ・精神的・時間的、経済的に余裕がない	・子連れでも行きやすければ ・介護から解放されれば ・時間や金銭的余裕ができれば ・仕事の時間帯が変われば

設問 13 「今後プロスポーツやトップアスリートが参加する試合・大会を間近で観戦したい種目」で「その他」と回答した方の内容		
・ハンドボール ・スケートボード	・フィギュアスケート(3) ・シンクロ	・大相撲 ・ローラーゲーム

設問 14 「お子さんがこの 1 年間に観戦したプロスポーツやトップアスリートが参加する試合・大会」で「その他」と回答した方の内容

・相撲

設問 16 「この 1 年間の運動・スポーツに関するボランティア活動」で「その他」と回答した方の内容

・点訳

設問 17 「スポーツボランティア活動に参加した理由」で「その他」と回答した方の内容

・自分の参加するイベントのお手伝い

・老人クラブ行事

・無理矢理役員回って来る

設問 18 「スポーツボランティア活動に誰と参加したか」で「その他」と回答した方の内容

・部活の人

設問 19 「興味のあるスポーツボランティア活動」で「その他」と回答した方の内容

・東京オリンピック

設問 20 「横浜市内や区内のスポーツに関する情報をどこから入手しているか」で「その他」と回答した方の内容

・友人から

・町内会定例会

設問 22 「公共スポーツ施設にどのようなことを望むか」で「その他」と回答した方の内容

・家の近くで年を重ねても出来る物がしたい
・無申告事業者の利用停止
・新人に対してウェルカムな優しい態度。常連が固まって意地悪な雰囲気ではない環境

・室内ランニング出来る場所
・無料駐車券を発行してほしい
・経費削減
・施設そのものの数と駅近
・個人利用できる範囲の充実

・近所に施設が欲しい
・無料化
・スポーツセンターの増設
・清潔
・距離的に近いこと

設問 25 「健康寿命を延ばすために取り組みたいと思うことは何か」で「その他」と回答した方の内容

・お金をあまりかけずに運動
・テニスをする

・自分に合うスポーツのアドバイスを受ける

・ストレス回避

設問 26 「ご自身で持っている健康器具、運動用具、トレーニング機器はあるか」での自由回答の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・歩数計(スマートフォン含む)、活動量計(239) ・血圧計、心拍計(18) ・エアロバイク等室内サイクル器具(13) ・縄跳び(10) ・ぶら下がり機、懸垂器具等(9) ・レッグマジック等開脚運動器具(8) ・足踏み器具(7) ・テニス用具(5) ・バランスボード、ハーフボール等(3) ・ランニング用具(2) ・アブローラー ・シットアップベンチ ・弓 ・プッシュアップバー ・下半身強化器具 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンベル、鉄アレイ(112) ・腹筋、背筋器具(27) ・チューブ、ゴムベルト等(12) ・自転車(8) ・ハンドグリップ(10) ・エキスパンダー、ブルワーカー等(8) ・乗馬マシン(6) ・ダイエット器具(5) ・マッサージ器(4) ・ウォーキング用具(3) ・卓球用具(2) ・トレーニングDVD(2) ・スキー用具 ・メディシンボール ・低周波治療器 ・釣竿 ・骨盤調整器具 	<ul style="list-style-type: none"> ・バランスボール(24) ・体重計、体脂肪計(20) ・ヨガマット(17) ・ストレッチ器具(12) ・ステッパー等ウォーキングマシン(11) ・バーベル、ウエイト等筋トレ用具(8) ・ゴルフ用具(6) ・野球用具(5) ・フラフープ(4) ・トランポリン(3) ・バドミントン用具(2) ・サッカー用具 ・ラグビー用具 ・ブロック ・スイミング用具 ・加圧バンド ・ボクシング用具
--	--	---

基本情報 5 「職業」で、「その他」と回答した方の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ライター ・専門職 ・臨時職員 ・病院職員 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員 ・会社 顧問 ・非常勤役員 ・サービス業 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人投資家 ・年金生活者 ・非常勤顧問 ・役員
---	---	---

基本情報 9 「お子さまの年齢層」で、「その他」と回答した方の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・パートタイマー
--

基本情報 10 「地域のコミュニティー活動やクラブなどに参加しているか」で「その他」と回答した方の内容

<ul style="list-style-type: none"> ・教会(2) ・スペシャルオリンピックス ・消費生活推進委員 ・花を植える 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校支援活動 ・子育てサポート ・登校見守り ・福祉 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動(9) ・日本語教育 ・放送大学放友会 ・ロータリー
--	--	--

【平成 29 年度横浜市民スポーツ意識調査報告書】

平成 30(2018)年 3 月

編集・発行

公益財団法人横浜市体育協会

横浜市中区尾上町 6-81

ニッセイ横浜尾上町ビル内

045-640-0016 (経営企画部)

<http://www2.yspc.or.jp/ysa/>